

# 伊武部貝塚発掘調査報告書

国道58号線拡幅工事に伴う緊急発掘調査

— 遺構・貝製品・石器・貝殻編 —

1983年3月

沖縄県教育委員会

## 序

伊武部貝塚は、恩納村にある貴重な貝塚ですが、貝塚の上部を国道58号線が通っていることから今回国道の改良工事が施行されることになり、県教育委員会ではその保存について関係者と協議を重ねたのであります。しかし交通安全対策上からの国道改修の工事であることに鑑み、やむなく、道路の拡幅により破壊される部分に限って記録保存の措置を講じたものであります。発掘調査は昭和55・56年度の二年度に亘り実施されました。

調査の結果、多量の土器、貝製品などの遺物とともに、集石炉、敷石造構等の学術上貴重な発見がありました。本書は以上の発掘結果をまとめた報告書であります。本書が文化財の記録保存としての任はもとより、教育、文化及び学術研究の資料として広く活用されることになれば幸いです。

末筆ながら、この調査に参加された調査員各位、御協力をいただいた恩納村教育委員会及び地元関係者、御助言をいただいた各方面の関係者に対し深く感謝の意を表す次第です。

昭和58年3月

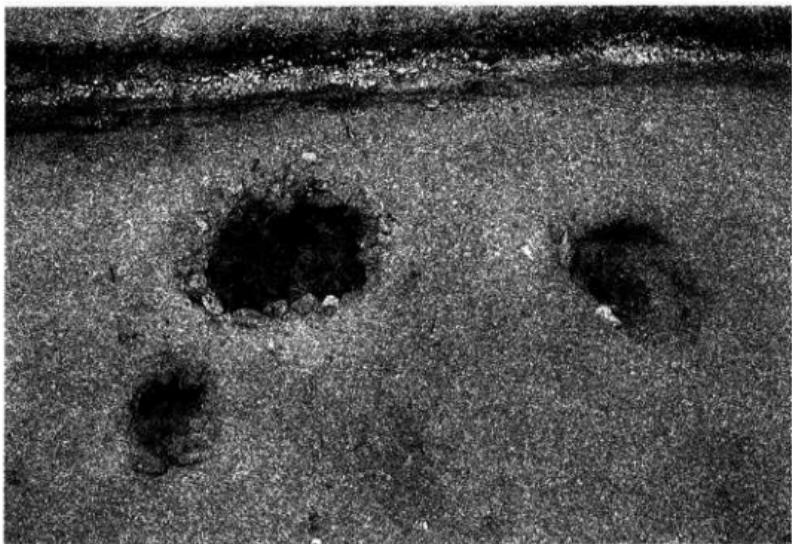
沖縄県教育委員会

教育長 新垣雄久

## 目 次

序

第Ⅰ章	.....	1
第1節	調査に至る経緯	1
第2節	調査体制	1
第3節	成果の記録	2
第Ⅱ章	遺跡の位置と歴史的環境	5
第Ⅲ章	遺跡の概観	7
第Ⅳ章	調査の概要	11
第Ⅴ章	層序	12
第Ⅵ章	遺構	18
第Ⅶ章	出土遺物	31
A)	人工遺物	31
イ.	骨 製 品	31
ロ.	貝 製 品	34
ハ.	石 器	66
B)	自然遺物	84
イ.	貝 穀	84



写真上 石敷集石遺構

写真下 集石炉

# 第 I 章

## 第 1 節 調査に至る経緯

1978（昭和 53）年、沖縄開発庁沖縄総合事務局北部国道事務所より、恩納村伊武部を通る国道 58 号線改修工事を実施するにあたって、当該地の埋蔵文化財の有無について県教育委員会に対して事前の通知がなされた。当地は「全国遺跡地図 47、沖縄県」（注 1）に No. 4-20 の伊武部貝塚が周知されており、文化課ではこの地域での開発行為を実施するにあたっては文化財保護法を遵守するよう通知した。通知を受けた前記北部国道事務所では、県文化課に対して、文通安全の対策上当該地の改修工事はどうしても必要であり、これにかかる埋蔵文化財については事前に発掘調査を実施して「記録保存」を図りたい旨の連絡があった。そこで 1979（昭和 54）年の 2 月に改修工事予定地内にある遺跡の範囲を確認するために試掘調査を行なった。その結果、工事予定地のはば全域に遺物の散布がみられることが判明した。文化課では原因者と協議のもと、第 1 次調査は、1981 年 12 月 9 日表土剥ぎより発掘調査を開始した。なお調査の内訳は第 1 次調査が国道東側の工事予定地区、第 2 次調査が国道西側の工事予定地区の調査を行ない第 3 次では遺物整理作業と報告書作成の作業を実施することにした。

（注 1）文化庁文化財保護部『全国遺跡地図 47、沖縄県』 国土地理協会 昭和 54 年 11 月

## 第 2 節 調査体制

調査委託	沖縄開発庁沖縄総合事務局
調査主体	沖縄県教育庁文化課
事務担当	上原 静
事務補助	久見明美（一次調査）、玉城直子（二次調査）
調査担当	当真嗣一、上原 静
調査補助	玉城朝健、宮里末広、奥間光子、比嘉賀盛
調査・整理作業員	

（一次調査）

松田忠信、大城英雄、大城達雄、大城勝栄、平良ハル、仲嶺すみ子、喜久

山タケ、奥間サエ、新城和枝、漢那トヨ、仲間うめ、真栄城礼子、真栄城敏、浜元清二、仲松ウト、桑江ヒデ、東タケ、喜納初子、嘉手納ナヘ、喜納ヒロ、金城ハツ、平田ヨシ、東ナヘ、奥間苗、漢那フジ、仲宗根正子、東繁子、比嘉節子、宮城末子、平良シズエ、友寄秀子、仲松ヤス子、城間智枝子、西銘ウサ、渡口豊子、比嘉千賀子、屋嘉比米子、山城瞳、外間美代子、小波津千代子、金城英子、當山今日子、宮城苗子、東春子、新城元、喜久山ハル、新城静子、東秀利、長嶺ウシ、田名末子、金城安子、平良俊弘、大城勝正、平良シズエ

(二次調査)

東繁子、喜納初子、喜納ヒロ、仲嶺すみ子、仲嶺順子、喜久山タケ、喜久山ハル、漢那トヨ、東タケ、奥間サエ、仲間うめ、漢那盛久、久高信昭、渡口豊子、仲嶺トヨ、東春子、嘉手納文子、城間智枝子、金城彦三、仲宗根正子、田名末子、島袋静子、外間美代子、稻福勉、大城広江、安里和美、安里啓子、友寄秀子、江田豊、下地洋子、新垣モリ子、稻福裕子

(三次調査)

知念富士子、安里ナヲミ、瑞慶覧尚美、新垣豊盛、城間秀政、比嘉春美、比嘉ますみ、島袋洋、大城明子、大城秀子、花城潤子、松川章、城間千恵子、城間光子、  
(順不同)

なお、発掘調査にあたっては沖縄国際大学教授高宮廣衛氏、九州大学教授横山浩一氏をはじめとする多くの方々の御教示、御指導を得た。厚くお礼申しあげたい。

### 第3節 成果の記録

第Ⅰ章 当真嗣一（文化課主任専門員）

第Ⅱ章 ハ ( ハ )

第Ⅲ章 上原 静（文化課専門員）

第Ⅳ章 ハ ( ハ )

第Ⅴ章 ハ ( ハ )

第VI章 ハ ( ハ )

## 第VII章

A) 上原 静

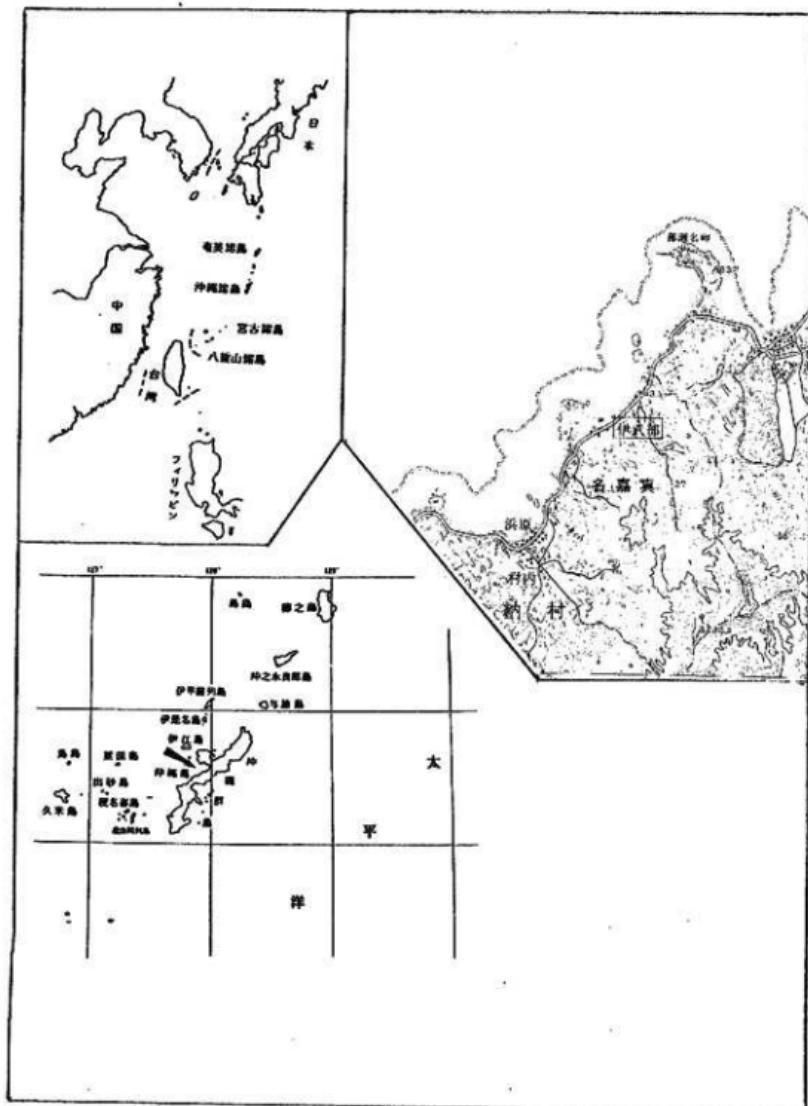
B) "

資料整理において、石器の石質は沖縄県立博物館学芸員、大城逸朗氏に同定していただき、また、貝殻の種は琉球大学生物学科、黒住耐二氏に観ていただいた、記して感謝申し上げる。

※ 土器は整理の都合上次回に報告することにし今回は、遺構・貝製品・石器・貝殻編として記載することにした。

※ 発掘調査によって得られた資料は、すべて沖縄県教育委員会に保管されている。

※ 本報告書の編集は上原が行なった。



第1図 伊武貝塚位置図

## 第Ⅱ章 遺跡の位置と歴史的環境

伊武部貝塚は沖縄県国頭郡恩納村字名嘉真小字伊武部にあり、東西50m、南北200mの広範囲におよぶ遺跡である。位置は恩納村の北端、名護市との境界付近にあり、立地的にみると東シナ海に面する海岸側から約30m程内側に入った古砂丘上に営まれている。貝塚の北と南は小川（注1）によって区切られ、東側は平地との比高約30mの山が貝塚のすぐ近くまでせまっている。

今回発掘を行なった地点は、国道の舗装された部分を除く、その両脇の道路敷にあたる地域で、その行政上の位置は恩納村字名嘉真ヤーシ原2628番地となっている。

恩納村は、国頭郡の南端に位置しており、海岸沿に延々と伸びて発達した細長い村である。当貝塚が立地する村の北端から南西端の読谷長浜までの距離は約27.4kmで、本県で最も細長い村となっている。古くは「恩納やきしま」と称され（注2）、オモロに

一、恩納やきしまよ 安富祖やきしまよ だりす 鳴響み 聞かれ  
又 恩納 居てやちよも 安富祖 居てやちよも  
又 下の鳴響み軍 下の聞かれ軍

と謡われている（注3）。

村の四隅は、名護市と北を接し、南は読谷村と石川市、東は分水嶺を挟んで金武町、宜野座村にそれぞれ隣接している。また西は東海岸に面して、その変化に富む海岸線は現在「沖縄海岸国定公園」となっている。地形を概観すると、二つの特徴がみられる。すなわち、東側には恩納岳を中心とする標高130m～140mの山地が、ほぼ連続して発達し、西側にはこれらの起伏に富む山地にへばりつくように幅の狭い低平な砂丘地をつくっている。この二つのブロックのうち、人間の居住地として早くから開発された地域は後者の砂丘地の方である。この地域では考古学上の調査成果により貝塚時代前期から後期、グスク時代、現代に至るまで連續として人間活動の舞台となっていたことがわかる（注4）。

本村内に所在する遺跡は、1975（昭和50）年に国指定史跡となった仲泊遺跡をはじめ塩屋貝塚や熱田貝塚など現在10数件が知られている。そのうち今回の調査と深く関り合いをもつ「前期」の貝塚は少なく、今までのところ仲泊遺跡

の一件のみ確認されているにすぎない。仲泊遺跡の場合は、本貝塚の下層から大量に出土した仲泊式土器の標識遺跡として知られている。

伊武部貝塚のうち今回調査対象となった地域は、地形的には標高3～4mの浜堤の中央部に占地する形をとっている。この貝塚がはじめて発見されたのは今から20数年前のことであるが（注5）、その時にはすでに建築材用の採砂にあって部分的な破壊を受けていたのである。さらにその後も道路の改修工事や住宅建築等によってこの貝塚は部分的な破壊を幾度となく受けことになった（注6）。このような中にあっても貝塚の中心部は、破壊を免れ現国道下に保存され、現在に至っているのである。今回の調査対象区域の面積は5,000m<sup>2</sup>で、発掘された面積はそのうちの2,400m<sup>2</sup>であった。

#### 参考文献・注

- 注1 北側の川をヤーシ川、南側の川を伊武部川と称す。
- 注2 東恩納寛惇『南島風土記』
- 注3 外間守善・西郷信綱『日本思想大系18 おもうさうし』 岩波書店刊
- 注4 沖縄県教育委員会『沖縄県の遺跡分布』
- 注5 多和田真淳『文化財実態調査報告書』沖縄開発庁沖縄総合事務局
- 注6 宮城長信「伊武部貝塚採集の土器」南島考古だよりNo.18

### 第三章 遺跡の概観

本遺跡は、西海岸に弓なりに湾曲した岬間の入り江に形成された砂丘地に所在する。この遺跡の存する砂丘は、南北約1kmにおよぶ長大なもので、南側一帯は伊武部ビーチとして観光地になり、その後背地は湿地帯が広がっている。一方、砂丘北側は集落が形成され、当該遺跡も現集落と重なるように存在する。集落の北方は、ヤーシ川が横断し、北の名護市との境界をなすが、また地形上でも北から山の峰が直接海岸に没し、視界がたたれるようである。同集落の東側～南側も急斜面をもって山が迫り、砂丘と集落との間にあるわずかの面積に畑が営まれている。現在9割以上がサトウキビ畑である。集落の南側に伊武部川が流れ、北のヤーシ川より水量は豊富である。この様に貝塚の所在する集落は、海岸地ではあるが屏風状に囲んだ山ふもとに占地している。

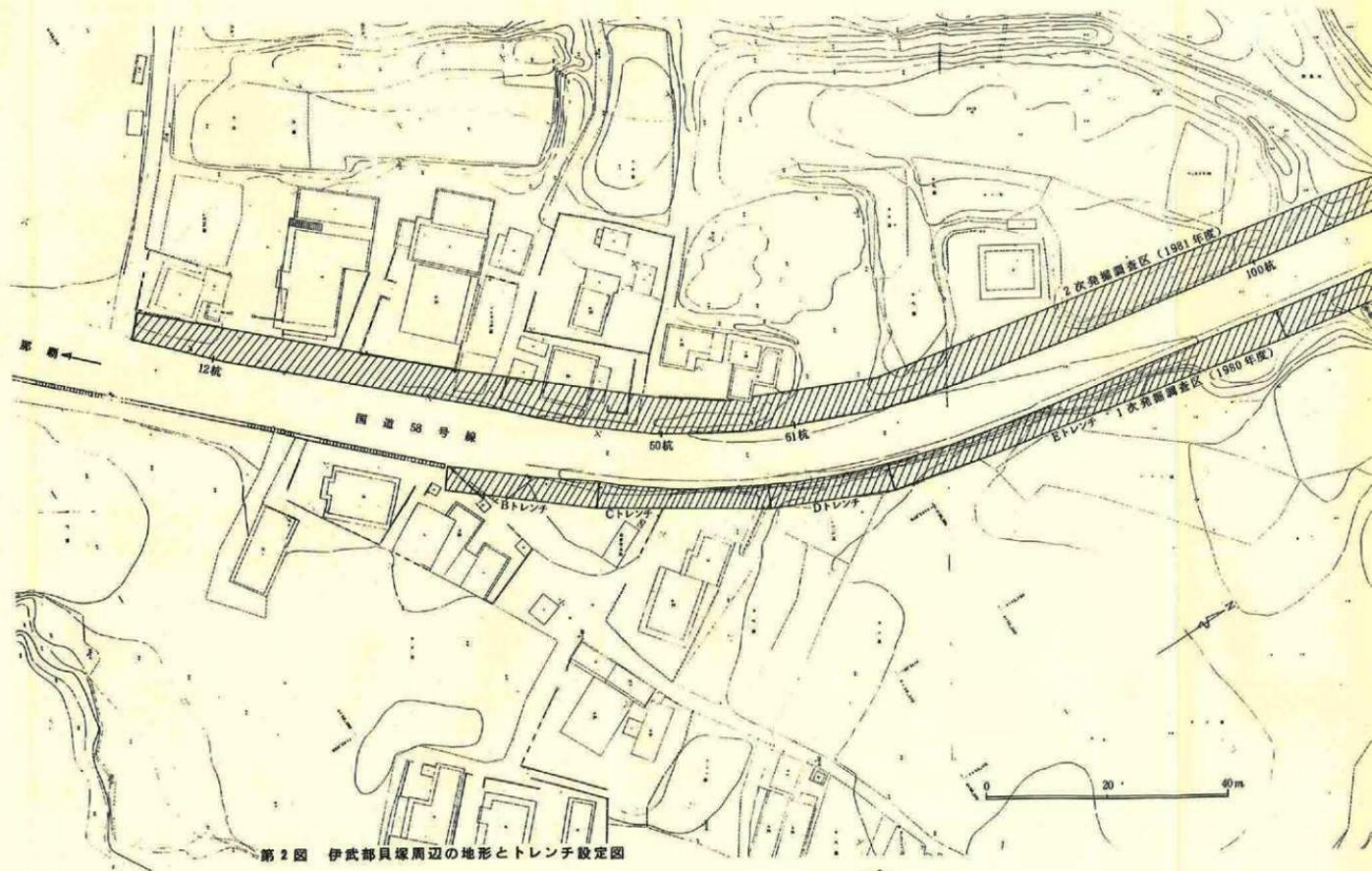
戰前まで、南部方面から北へ向かう道は、現伊武部集落の東側の山の谷間を通じ北部へぬけていたもので、集落名の「伊武部」も元来は「印部」とあり、北の名護との境界を印す部落を意するものとされる。現在は、名護への道は海岸線沿のルートにより、前記の道はすたれている。この沿岸道の改修により集落内にあった本貝塚は分断されることになった。以後、何度かの改修工事により破壊を受け、20数年前に多和田真淳、高宮廣衛氏によって沖縄貝塚時代後期遺跡であることが学会に知られるようになった。また1963年宮城長信氏は道路改修工事の際に沖縄貝塚時代前期の包含層を発見し、低砂丘地に於ける前期遺跡の特殊性を報告した。今回の180～220mに及ぶトレンチ発掘調査により、時期は沖縄貝塚時代前期・中期・後期の複合遺跡であることが確認され、貝塚の上部の後期包含層は破壊されてしまっているが、下部は前期系の包含層が未だ存し、現国道下に保存されていることが明らかになった。また、貝塚の広がりからすると道路の改修工事は無論のことであるが、その他に家屋建築及びそれに伴う工事、採砂等により、概ね、国道西側部分の破壊が著しく、東側一帯に広がっていることが知られた。

出土遺物は、前述の三期のものが得られ、特に本遺跡の上限を示す前期系土器群には沖縄諸島土器（伊波式土器）の祖形とみられる奄美系土器の共伴があり、土器文化の流れが明らかになっている。また、その他に貝製品も比較的多様で、

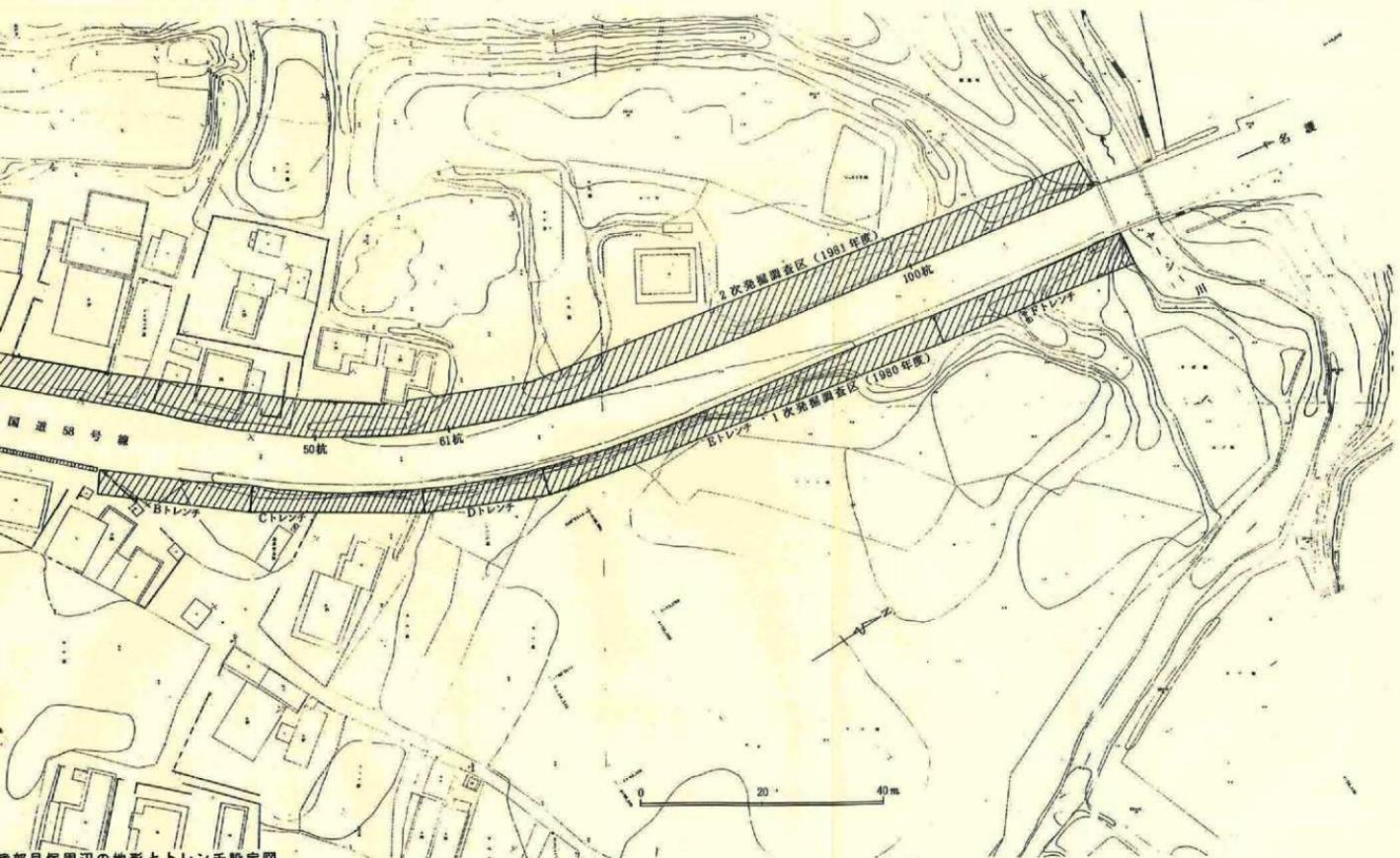
食料残滓としての貝殻とともに多出している。包含層基部からは、集石炉、集石土壙、石敷造構等が一定の箇所に集中するかたちで検出され、砂丘上での生活の状況をみせている。

#### 参考文献

- 1 恩納村『恩納村誌』第12章 村落誌
- 2 沖縄県教育委員会「沖縄県の遺跡分布」
- 3 宮城長信「伊武部貝塚採集の土器」南島考古だより No.18
- 4 沖縄県教育委員会「伊武部貝塚発掘調査速報」



第2図 伊武部貝塚周辺の地形とトレンチ設定図



## 第Ⅳ章 調査の概要

発掘調査は、第1節にも述べたように昭和55・56年度の二度に亘り実施したわけで、初年度を国道58号線の東側、幅6m×長さ180mの面積で、次年度を国道西側の幅6m、長さ220mの範囲に及んだ。なお、道路改修幅予定の発掘地は幅員6mを測るが、国道脇の直下まで掘り下げた場合、基盤が砂であるために、頻繁に走る車両の振動等の諸原因で、発掘壁の崩壊をまねき、現国道及び調査作業員の安全への影響を考慮されたため、国道側壁にはある程度の勾配をもたせて行なった。したがって実質6m以下の発掘トレンチになっている。

昭和55年度の発掘調査区（一次）は道路のカーブが最も著しく、直線によるトレンチ設定が難しいところであったが、南側からA～Fの六本のトレンチを入れ算用数字でグリットを区切った。

昭和56年度の発掘調査（二次）は前回の成果を踏え、トレンチ名をつかわず、グリットのみで区分してある。

一次調査は昭和55年11月25日から昭和56年2月25日までの3ヶ月間で行った。調査は当初、B、Cトレンチに多く堆積した客土の除去と発掘予定全地のゴミ（空カン、空ビン）等の清浄から始め、前記トレンチを掘り下げ、漸次南北に広げた。ただ、発掘区が長距離におよぶ割に幅が狭く、掘り出した土置き場との都合で全区間掘り上げての調査ではなく、各々のトレンチが済みしだいに埋め戻し、移動するかたちをとった。Dトレンチで遺構が多く集中し、Eトレンチに向いやるやかに包含層は傾斜し、当調査区では現国道下1mに存在し、表層の厚さが最もあった。

二次調査は昭和56年11月2日から昭和57年2月5日までの約3ヶ月間なされ、調査の方法は一次調査とかわるところはないが、オリジナルな包含層存在地区がかぎられているということから、天地がえしのなされた地区は遺物の採集的調査で後半はもっぱら未搅乱地区の調査に集中された。とくに集石炉の調査である。民家の集中部と、畠側に広がる地で、民家側は家屋建築、水道設置の工事等により、又畠地側は採砂によるものであることが明らかにされた。調査後に埋め戻しはブルトーザーによる機械で全区間にわたってなされた。

## 第 V 章 層 序

調査対象地区が、最長区間 220 m および、さらに調査トレンチが 2 本、道路をはさんで離れているため、観察される層序は、攪乱部もてつだって変化が著しく、一線ではおさえがたいため各々の調査区トレンチを載げて説明する。

包含層の保存状態は、一次調査区においては比較的良好 B～E の 4 トレンチで確認された。A・F トレンチでは層は形成されず、白砂層中から散発的に遺物が検出されるだけであった。

二次調査区では、層の状況はきびしく、全区間を占める北側の畠地と、南側の宅地部分で攪乱が著しく、わずかに 51～61 グリット（調査区中央）、5～12 グリット（調査区南）間でオリジナルな包含層を発見されたのみである。ところで両区をおして発見された包含層は、上位のほとんどが攪乱を受け、下位に未攪乱層が残存している状況である。遺構はすべて下位層からの検出であった。

残存する包含層の堆積の広がりは、A～C トレンチあたりまではほぼ水平堆積で安定しているが、D トレンチ部分から北側（ヤーシ川方向）に漸次傾斜している。東西方向の堆積も一、二次区は一致したレベルをなして両側の民家敷地におよんでいる。ただ北側の畠地においては各トレンチの壁面観察から天地がえしの攪乱がみられ、聞き込みの採砂地との一致もあり保存されている可能性は薄い。

### 一次調査区（国道東側トレンチ）

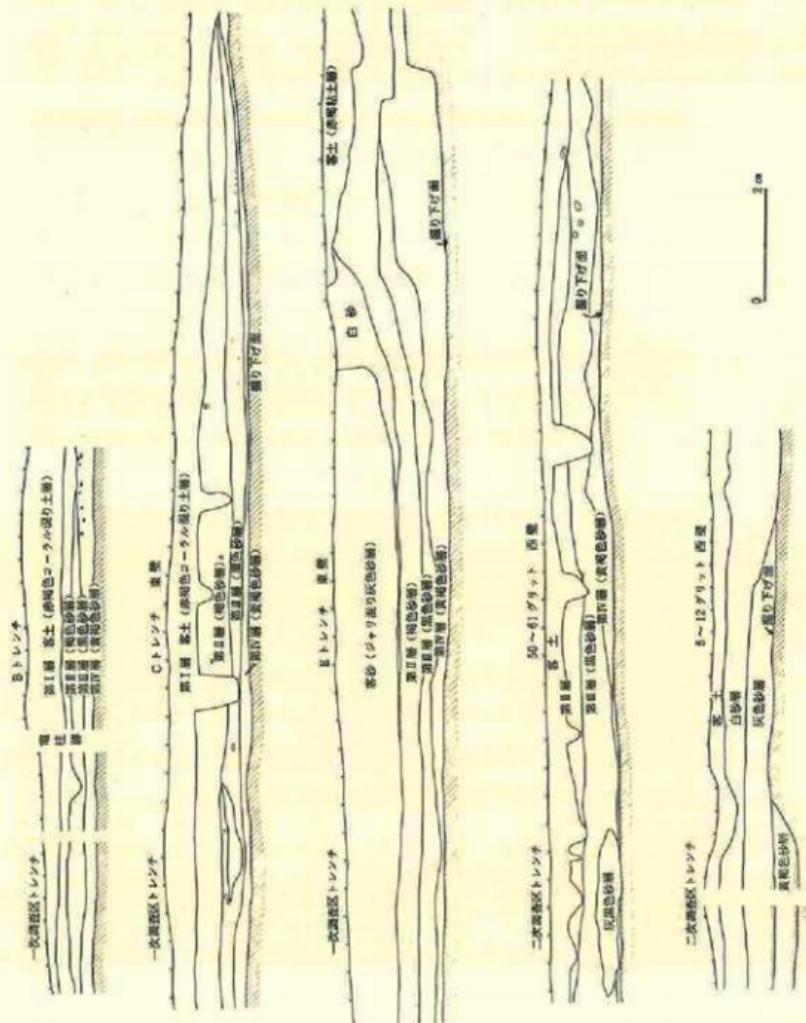
#### ◎ B トレンチ

本トレンチでは 4 枚の層が確認されいずれも水平堆積をみせていた。

第一層………赤褐色の客土からなるもので、以前の何回かにわたる国道改修工事に敷ならされたもので、コーラルがサンドウイッチ状にある。遺物は含まない。

第二層………褐色砂層と呼称しているが、若干上半部が黒褐色を帯び下半部が褐色を呈し、色調に変化がみられる、層中から各期の土器が出土して攪乱が認められる。

第三層………黒色砂層で、本トレンチでは薄く、前期系の土器が出土する。遺物量は少ない。



第3図 伊武部貝塚発堀調査トレンチ壁面図

第Ⅳ層………白砂の基盤で、上位20cm前後まで大形貝の出土がみられるがこれはⅢ層からの落ち込みである。

#### ◎Cトレンチ

Bトレンチにつらなるもので基本的に4枚の層からなる。

第Ⅰ層………客土で赤褐色土層が厚くなるところである。無遺物層。

第Ⅱ層………遺物包含層の中で最も厚いもので、色調が上半と下半部が若干異なる。上半部が黒褐色を呈し下半部が褐色をなす。出土物に黒色片岩系の礫や貝殻が多くみられ、遺物には前・中・後期の上器が混在するかたちで検出される。

第Ⅲ層………黒色砂層の包含層である。層中からは多量の礫、貝殻が集中出土し、基盤には土壤状に礫、貝殻を混じた土壤が確認された。黒色砂層下も漸次灰色をおび白砂にいたっているが、本層も第Ⅳ層に含めた。

第Ⅳ層………白砂層で基本的には無遺物層であるが第Ⅲ層からの掘りこみがあり、この部分においては、色調が若干灰～褐色をおびていて第Ⅳ層の基部にある。

#### ◎Dトレンチ

前述の2トレンチとはほぼ同じであるが南側のトレンチでみられた水平堆積の包含層が当トレンチにいたり北へ向い傾斜している。第Ⅱ層及び第Ⅲ層上部まで白砂が数枚入り込み攪乱の様相を呈している。Ⅲ層基部にて集石遺構(2)、石敷遺構(1)が発見された。

#### ◎Eトレンチ

本トレンチにいたりさらに傾斜し、本トレンチの中央部付近で水平に位置し安定する。

第Ⅰ層………このトレンチにおいても表層は著しく攪乱され、客土、客砂が混在している。

第Ⅱ層………茶～黒褐色砂層で部分的には灰の砂(固着)や赤褐色の砂もみられ、やや色調にむらがみられる。若干遺物もみられるが下層のⅢ層にはおよばない。

- 第Ⅲ層………暗褐色の混礫砂層、河原の円礫から板状の角礫を多量に含む（大きさ30cm台～10cm台）貝殻、先史土器も多くみられる。本層は北側へ漸次薄くなっている。
- 第Ⅳ層………灰白砂と茶褐色砂の二枚の薄い層からなり、上部がサンゴ礫等の白い砂が堆積し下部に粘土状の細かい砂が認められる。わずかながら土器片が出土する。礫はみられなく、水分を多く含み砂質は重い。
- 第Ⅴ層………明橙色の砂礫層で、下位にいくにつれ玉じゃりが多くなる。2～3点土器が出土したが、基本的には無遺物層で水がにじみ出す。海拔-20cmを測った。

#### ◎ F トレンチ

表層はすでにみられず上位の白砂層から後期系土器、大形の貝殻が出土したのみで、プライマリーな遺物包含層はみられない。ヤーシ川レベルまで掘り下げたが以前として白砂が続いている。

#### 二次調査区（国道西側トレンチ）

##### ◎ 51～61グリット

当該調査地区は民家の庭の垣根にあたり、調査前は砂層のマウンドがみられ、その為に保存されたものである。

第Ⅰ層………黒色砂層の遺物包含層で現代遺物を含み搅乱されている  
51グリット以南に広がり、層厚は薄い。一次調査区の  
BトレンチⅡ層に対応している。

第Ⅱ層………黄褐色の砂層で61グリット付近に厚く、漸次南に薄く  
層厚は一定していない。無遺物層である。

第Ⅲ層………黒色の混礫砂層で多くの人工遺物、貝殻を含む先史遺物  
包含層である。本層基部において集石炉が発見された。

第Ⅳ層………黄褐色の砂層で基盤をなすが、上位に貝殻、土器の混入  
がみられた。土器は大形片として残りがよい。土器は伊波式土器が主体を示している。

##### ◎ 61グリット以北

茶褐色砂層が地表に露呈していて、本層に遺物を含むが土器、貝殻類

礫が散在するかたちをとる。なお砂層は白砂の互層をなすもので天地がえしの攪乱がなされている。当該トレンチの西側は採砂がなされた様で、基盤の白砂面も道路側から西側へ著しく傾斜している。

◎ 12～50 グリット間

騒道に民家が集中する部分で、以前は道路脇まで家が建てられていたらしく、また水道パイプ、ブロックベイのコンクリート敷等で攪乱がなされているところで、オリジナルな包含層は残されていない。得られた遺物は比較的多く土器、貝殻等がある。

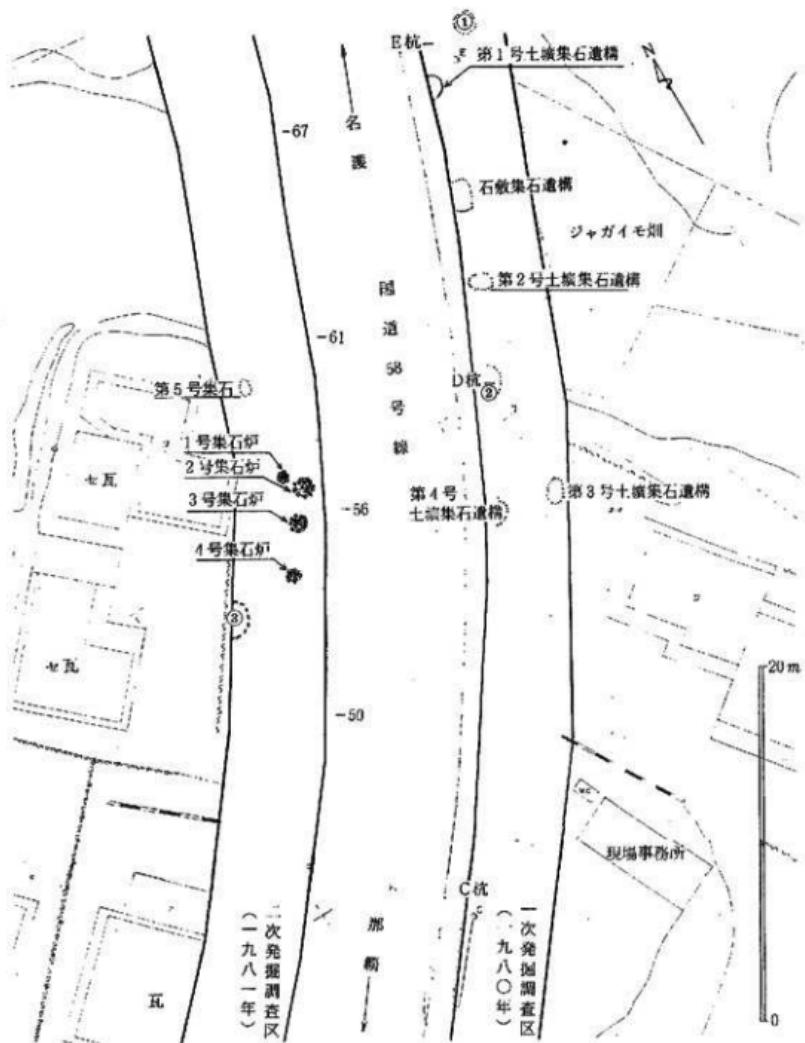
◎ 5～12 グリット間

調査区の南端部のトレンチである。3枚の層が確認された。

第Ⅰ層………客土とその下の茶褐色砂層からなる。客土は道路工事のバラスが主体を示し他ガラス、鉄クギが出土。茶褐色砂層は元来の表層を形成するもので、砂層はしまりがある。  
貝殻が少量出土したが先史遺物は含まれない。

第Ⅱ層………淡い黒色砂層である。ほぼ水平堆積をなし下部は砂礫混りにかわっている。後期土器がわずかに含まれ、又下層部で二枚貝有孔貝製品がまとまって検出された。

第Ⅲ層………基盤の白砂層で、乳白色化した貝殻のみが出土。



第4図 遺構検出状況

## 第 VI 章 遺構

第4図に示した様に51～61グリット間に集石炉(3)、土壌集石遺構(1)、D～Eトレンチ間に土壌集石遺構(4)、石敷集石遺構(1)と計9基の遺構が範囲を定める様に検出された。これら遺構はいずれも第Ⅲ層基部に構築されたものであるが、第Ⅲ層上位から礫が包含層に多量に存在し遺物の集中例からみると元来は遺構の一部を形成していたものとみられるものもあり、その実数はさらに多くなるものと考えられる。

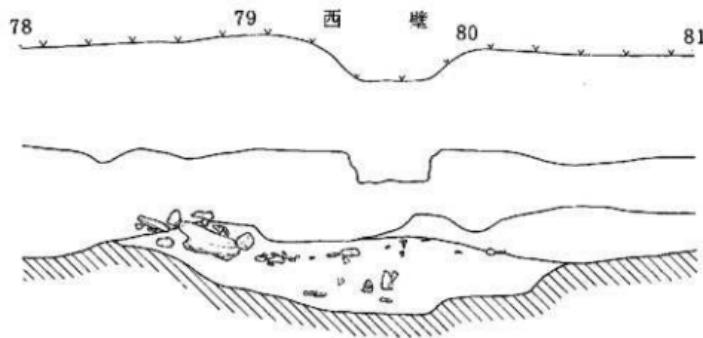
遺構は発見の順に番号を附し、1・2号土壌集石遺構等の道路敷内で分断されるものは、その面を断面として全掘し、その他の遺構は、その形状と位置に応じてプランの中央部を区分する水糸を張り埋積土を半分ずつ除去する発掘方法をとった。

### 第1号土壌集石遺構 第5図

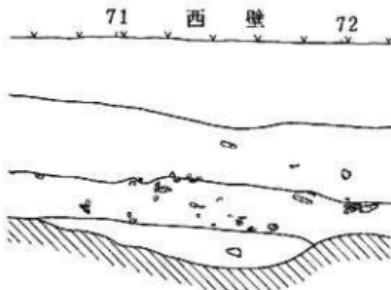
一次調査区Dトレンチ89グリットにまたがって発見されたものである。第Ⅲ層の基部面にいたり基盤の白砂面とは境界を明確にして、黒褐色砂が一部国道敷内に入りながら露呈した。当黑色砂層内は30cm台の大形礫から小礫がまとまりなく混入し、それらと共に貝殻や土器片が多く混在してみられた。黒褐色砂の上半部は白砂がシマ状に入り、また砂質も軟らかくホロホロした状況を呈している。下半部中央は黒色砂に変り、炭化物(スミ)が多く手触りで容易にススがつくまでに存在する。礫は黒色片岩を主としサンゴ礁、河原の円礫がみられた。いずれも黒色を呈している。出土土器は伊波式土器A、Bタイプ、仲泊式土器、面縄束洞式土器等が得られている。土壌の規模は東西2.5m×南北4.0mである。

### 第2号土壌集石遺構 第6図

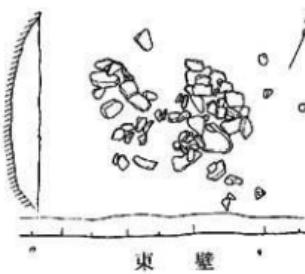
一次調査区Dトレンチ73グリットの基盤に前記の1号同様に国道にかかる様に検出された。東西2.5m×南北2.5mの土壌を形成し、土壌内に多量の礫と貝殻、土器を混入するもので埋土は黒褐色層からなる。本遺構基部以下白砂にたっするが貝殻が多く出土した。ナベ底状の基部からは伊波式土器、嘉徳I式土器が検出された。



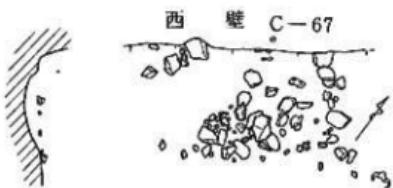
第5図 第1号土壤集石遺構



第6図 第2号土壤集石遺構



第7図 第3号土壤集石遺構



第8図 第4号土壤集石遺構

### 第3号土壌集石遺構 第7図

一次調査区Cトレント68・69グリットにまたがって現われた。第II層下部に黒色片岩等の粘板岩を重ねるように集石したものであるが部分的に残るもので、他はやや統一性がなく雑然としている。覆土は第II層の褐色砂層で多くの貝殻に混り宇佐浜式土器が検出されている。礫以下はナベ底状に凹む土壌を形成し、中央部が黒色をおびる砂層に変わる。嘉徳I式土器が得られた。

### 第4号土壌集石遺構 第8図

一次調査区Cトレント67・68グリットの中央に位置し、一部南側の国道にかかる検出された。第III層中にあり基部はIV層直下に接してある。小礫が $1.5\text{ m} \times 1.0\text{ m}$ の範囲に黒色砂と混在している。遺物は比較的少なく、貝殻、石器、土器等が得られた。上器は伊波式上器、嘉徳I式土器である。上壌の深さ12cm。

### 第5号集石遺構 第9図

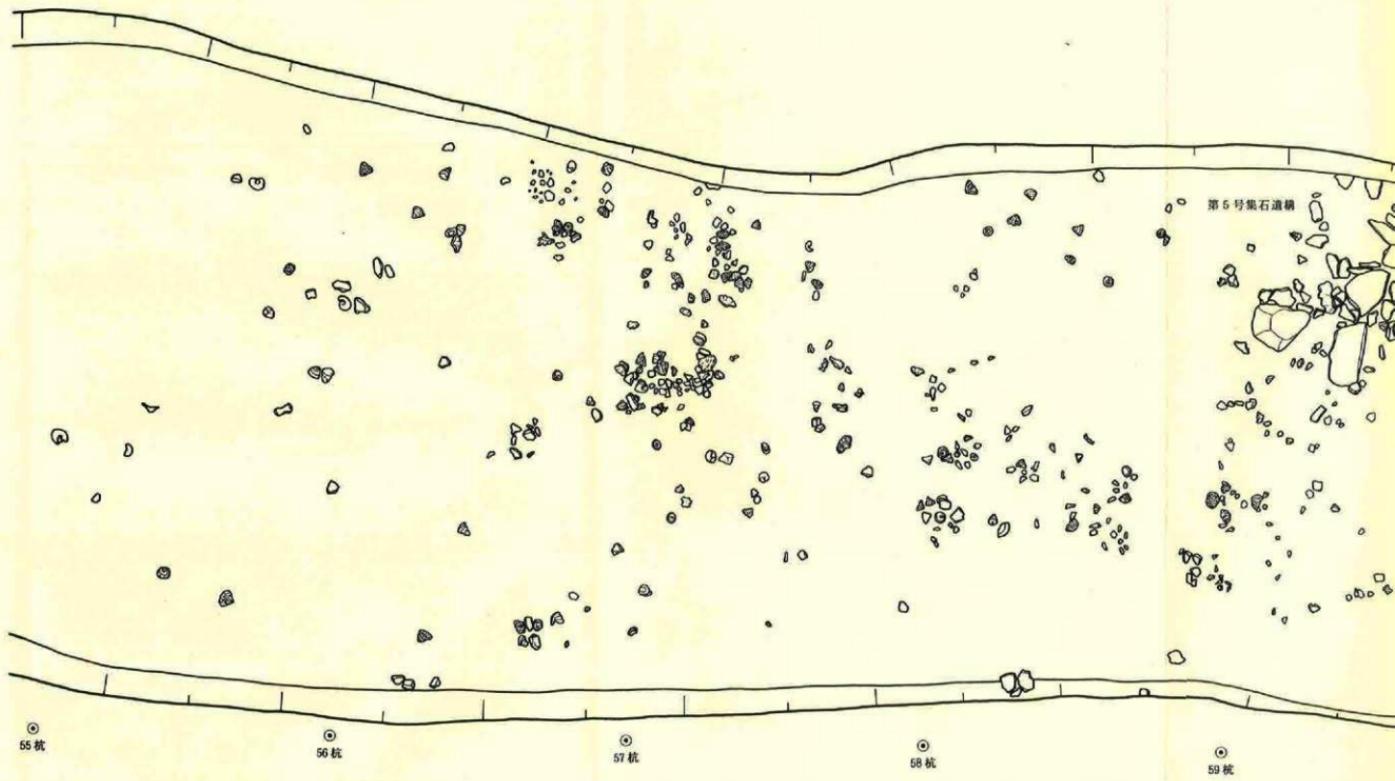
二次調査区59グリットの第III層上部にみられた集石で、やや平盤な大形の黒色片岩(40cm台)や小礫が図の様に比較的集中するかたちで出土したが、土器、貝殻も周辺に散在し、本遺構のみ集中はみられず、また土壌はみられなかった。礫は黒色に変化しているが、ススの剥離した礫は赤褐色をおび、加熱を受けたものであった。周辺から出土する土器は伊波式七器である。

### その他の集石 第4図

これまでみた様な明確な集石ではないが、礫が多く散在し、しかも貝殻や土器等が多く黒色砂が堆積してみられる部分が第4図①、②、③の3カ所にも認められ、何ら土壌が検出されなかつたが、遺構の遺棄され後に破壊の可能性をもつものである。①、②は第III層中の検出、③は第II層の検出で一部立石も認められた。

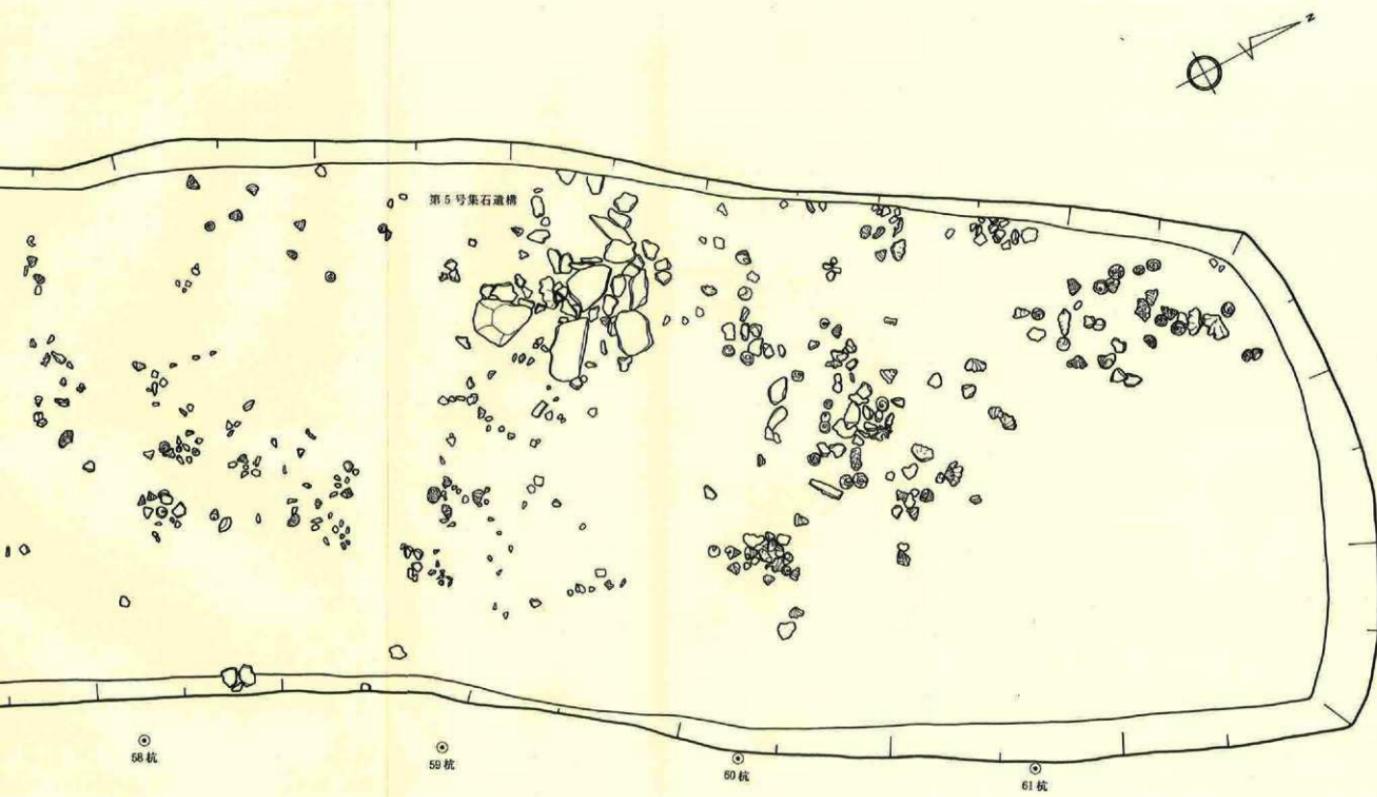
### 第1号集石炉 第10図右 第11図右

二次調査区58グリットの第III層基部に検出された。集石は $1.3\text{ m} \times 1.2\text{ m}$ の略円形の範囲に積み上げる様になされている。礫は20~30cm台の丸いものでそれぞれが接するようにありすき間は少ない。黒色砂層が本遺構を被覆



第9図 二次調査区、55~61 Grid 第II層 20 レベル 平面出土状況

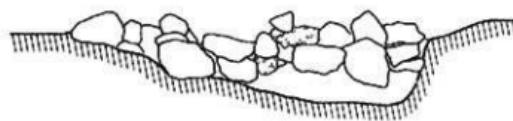
0 1 3 M



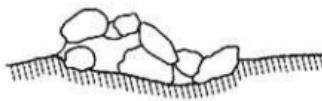
第2号集石炉



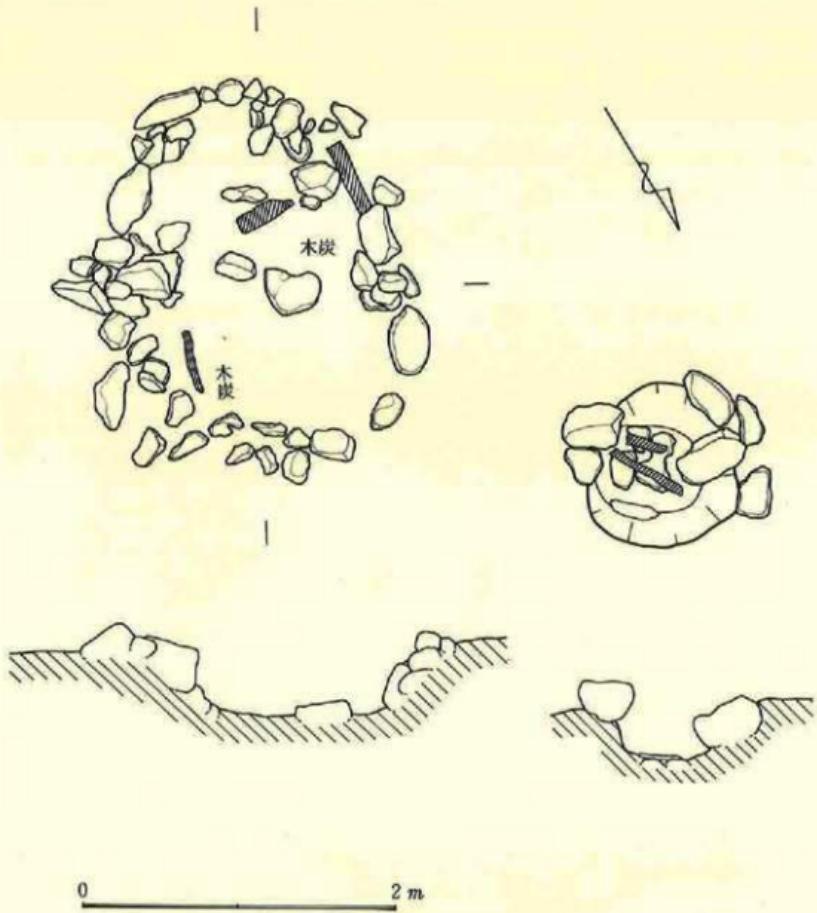
第1号集石炉



0 2 m



第10図 第1・2号集石炉集石の状況



第11図 第1・2号集石炉内部状況

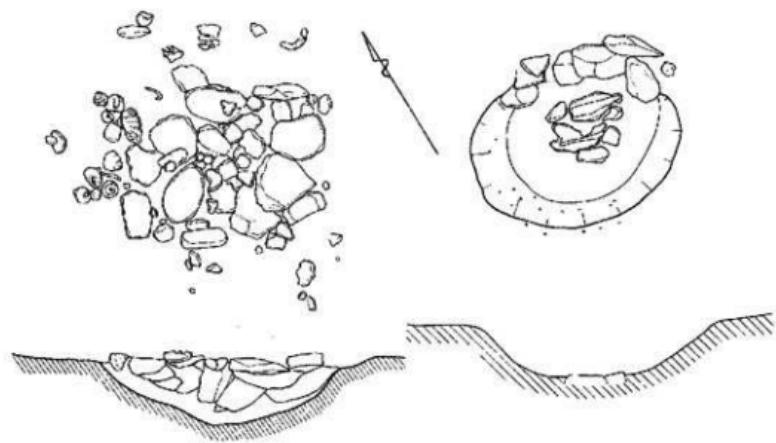
していた。礫の取りはずし後、土壤を形成していることが明らかになった。土壤は径 1.05 m、深さ 35 cm のもので内部には礫以外に黒色砂が充満していて、貝殻及び土器は 1 点も認められなかった。土壤内基底部には平盤な礫が散かれ、その上に元形を残した炭化物（炭化した木片）3 本検出することが出来た。長軸はほぼ平行し南北方向にある。遺構外周辺で得られる土器はすべて伊波式土器でこの期に構築されたものと考えられる。

第 2 号集石炉 第 10 図左 第 11 図左

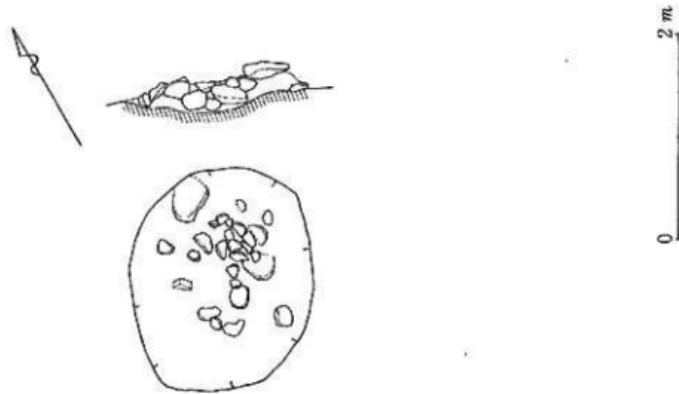
二次調査区 57 グリットの第Ⅲ層基部に検出。集石の規模は約 2.6 m × 2.8 m である。本遺構上面は 1 号集石炉と異なり平坦になり、礫も 50 cm 台の黒色片岩のものから 10 cm 台のもの、又サンゴ礫、ビーチロック等があり、形状も角礫、亜角礫と多様である。礫以外には貝殻類（サラサバティ、メンガイ、シャコガイ）が多く認められた。第 1 号集石炉とは 70 cm の距離にありほぼ接している。土壤内において、礫は互に接する様にあり、自然遺物、人工遺物は発見されなかった。礫間を埋めるものは黒色砂で発掘調査員の手がススで真黒になるほど炭化物が充満している。土壤の大きさは 1.0 m × 0.7 m の略楕円形、深さ 24 cm と深い。土壤内基底部にて炭化物（木片）が 4 点発見された。その軸は東西のものと南北の軸にそういうものがある。礫は赤褐色を呈しいずれも、もろくなっている。

第 3 号集石炉 第 12 図

二次調査区 56 グリットの第Ⅲ層基部に構築されるもので、遺構上面は先述の 1 号、2 号炉と同レベルである。2 号炉の南側に 40 m 程離れて存在する。遺構上面は直径 1.50 m の黒色砂層が円状にあり、その中央部に径 1.1 m の範囲に礫が集中する。礫は平盤な 30 cm 台のものから小礫のものからなり、なかにはサンゴ礫も混在している。礫質はそのほとんどが黒色片岩からなる。大形礫はいずれも水平位置。遺構上面にあっては、貝殻、軽石、土器等が多く認められる、貝種はサラサバティ、シャコガイ、チョウセンザザエ、クモガイ、アマオブネガイ等が見受けられた。土器は伊波式土器である。土壤は下部中央に移行するにつれ黒色砂自体がさらに黒味を強くし、炭化物も肉眼で認めるほどに大きくなっている。土壤内には灰色をした砂も認められ固着している。灰層である。遺物は皆無に近く、わずかにサラバティ、チョ



第12図 第3号集石炉（左）、上部平面と断面、（右）完掘平面と  
その断面



第13図 第4号集石炉

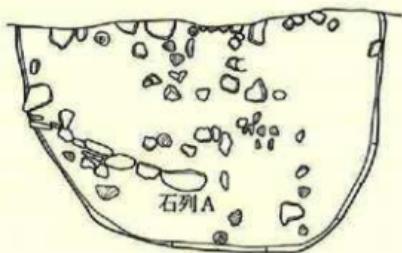
ウセンサザエの殻片が2点みられたのみ、これらは黒灰色をおびていた。土壌内の礫はきわめてもろく、とくに大形礫等は少々の敲打で、剥離ないし半碎してしまう。礫の表面は土壌内の黒色砂のため黒色を呈すが、礫中央は赤色～赤褐色をおびる。土壌内での礫の堆積は折り重なる様にあり、発掘においても上部から順にとり剥ぐようになされた。したがって礫間のすき間は密である。土壌最下部において扁平礫の直上部に炭化物2点を検出した。長軸は東西方向に平行して置かれている。

#### 第4号集石炉 第13図

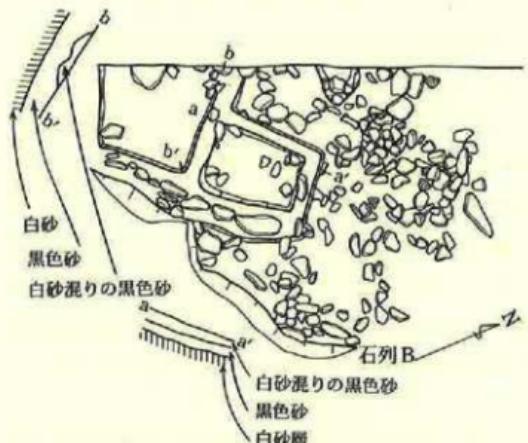
二次調査区54グリットの第Ⅲ層基部より検出された。第1、2、3号集石炉よりレベル的には低いが、これは第Ⅲ層面が南側に傾斜しているためである。平面観は $1.1\text{ m} \times 90\text{ cm}$ の楕円形を呈した黒色砂層で、特に中央部に集中して礫が認められ、形態的に3号に類似する。礫は黒色片岩の20cm台のものが数点ある他は小形の角礫からなり、前述の炉同様に密に堆積している。他に黒色砂が充満するが土壌自体は浅く、基底部には確認される様な大形の炭化物はみられなかった。また、土壌内から人工遺物及び貝殻等は検出されていない、上壌以外の周辺グリットから伊波式土器が多く得られ、同レベルであることからもこの期に属するものとみられる。

#### 石敷集石遺構 第14図

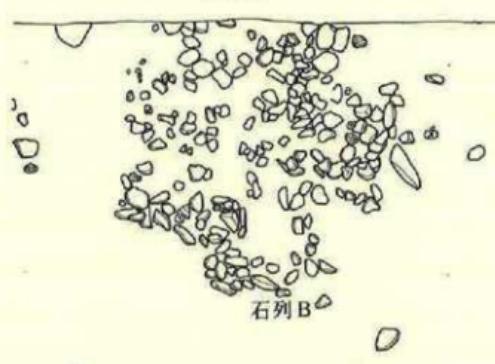
一次調査区Dトレント74、75グリットの第Ⅲ層下部に構築されたもので、遺構の一部は国道敷内に入っている。発掘当初、基盤の白砂面に礫及び自然遺物を多量に混ずる黒色砂層が楕円状に露呈したもので、この面から石列が1列、頭部のみを現わしていた。そのため石列内部を四分割し、掘り下げると同時に他の辺の石列の確認を行なった。結果、石列内は黒色砂層が堆積する浅い土壌をなし、当初の石列Aを東辺とするならば、南辺、北辺にあたる石列は確認されなかった。黒色砂層北側下部には10～20cm台の扁平礫を2～3枚重ねる様に東西 $5.0\text{ m} \times$ 南北 $5.0\text{ m}$ に敷つめ、さらに東側に立石を施した遺構であることを知り(石列B)、重複した遺構であることを確認した。本遺構にも北辺部において立石は認められない、この立石は30cm台の人形のもので石敷のものとはことなっている。石質は黒色片岩が主体を占め、他に砂岩系の丸石(河原石)がみられる。遺構の切り合は上部が立石をもった土壌で下



遺構上部の露出状況  
(上部遺構A)



重複した上、下部の遺構  
(上部A、下部B)



下部遺構の平面状況  
(石散集石遺構)

0 2 m

第14図 重複する遺構

部が石敷造構である。石敷蹠の特徴として同サイズのものが多く、蹠上面は磨耗し風化面を有している。裏面は自然の角蹠面をなし比較的新鮮であった。造構を被覆する砂層は黒色砂層で造構面では炭化物（スス）が多量にみられ造構西側では粘性の灰色砂が確認された。貝殻は多く石敷蹠の間や直下まで混入していた。石敷レベルで出土した貝は、シャコガイ、チョウセンサザエ、ニシキウズガイ、ホラガイ、アマオブネ、陸産マイマイ等で特にサラサバティは表面の保持が悪くボロボロの状態であった。このレベルで得られた土器は伊波式土器、嘉徳Ⅱ式土器であった。

石敷造構下は褐色～赤褐色をおびた砂層がナベ底状に広がる。砂質は粗いが造構外周辺の砂に比べ固くしまっている。造構中央下に位置する箇所から赤褐色をおびた焼砂が40cmの円形、（厚6cm）であらわれた。ナベ底状にある当該層にはマイマイ、アマオブネ等の小形貝が多量に認められ、又細かい炭化物が点々と混在してみられる。人工遺物は、わずかに嘉徳Ⅰ式土器片が検出された。

## 小 結

造構は、集石炉(4)、土壤集石造構(5)、石敷集石造構(1)の3種、計9造構を確認することができた。いずれも下部文化層の基底部に残されたもので、沖縄貝塚時代前期に属するものである。

集石炉としたものは、形態上、土壤内に大きな炭化木を残しその上に焼石が積み重なるものを称している。これらは土壤内から人工品、及びきわだった貝殻の検出がみられないことからいわゆる石焼集石炉で、その輻射熱を利用する調理施設であることが考られた。いずれも伊波期に属するものである。

土壤集石造構は前述の造構の様な積み重ねではなく、大小の角蹠が混在し、また土器片、貝殻、獸魚骨類が黒色砂と混入しているものである。土壤壁はもろく一定の形を有していない。当造構はその出土状況から、前記の集石炉が使用され、その後に土壤が破壊され遺棄された造構として推測される。土壤内からは伊波式土器とはじめとして、嘉徳Ⅰ式土器、面繩東洞式土器、仲泊式土器等が得られている。

石敷集石造構としたものは、一部を現国道下に入るものであるが、二基重複す

る遺構であり上部のものが前述の土壌集石遺構の様相を定するもので、一列の石列を残している。又下部も同様に一辺の石列を残し基部に石敷をなすもので、説明の便宜上、下部遺構の名称を上げたものである。上下遺構内からはいずれも炭化物が充满しその出土状況から炉の可能性が高いものであるがただ下部遺構については、立石及石敷の状況から住居址の可能性もまだ残しており、類例をまって再検討されよう。

地炉の報告例は、南部文化圏、奄美諸島地域にもあり広く分布する調理施設の形態であるがここ伊武部貝塚では、小範囲の発掘であったが集中する様に発見され、また上位、中位の包含層中の多くの礫群の存在や、現国道又周辺地の未調査地を考慮すると、さらに実数は増加するものと思われ、明確な住居地の発見はなかったがある程度の集団もしくは長期間の築営によってなされたものと考えられる。

なお、遺構及びそれを残した伊武部貝塚人の様相については、土器の整理をまって再考したい。

## 第VII章 出土遺物

本発掘調査で得られた出土遺物は人工遺物、自然遺物に分けられる。まず人工遺物遺物について記述する。

### A) 人工遺物

石器、貝製品、上器ほか骨製品も少量得られた。以下、各項目について説明する。

#### イ. 骨 製 品

##### イノシシの牙製腕輪

猪の牙を素材とし、端部に孔を施した製品で、4点得られている。第15図3は猪の左側牙で他同図1・2・4は左側牙が使されている。すべて二次調査区で検出された。

掲図番号	図版番号	出土地区と層序	特徴	重量(g)	法量(cm)
第15図3	図版14の上	二次調査区 59 Grid II層70-80	牙先端部に穿孔がみられるが破損。 一方向から穿ったものである。基部は欠損。	6	残存 長さ 6.4
第15図2	"	二次調査区 59 Grid II層70-80	牙先端部に穿孔。一方向からのもので孔径 2.6 ~ 5.4 mm。基部は欠損。上記資料と共に	7	残存 長さ 6.57
第15図1	"	二次調査区 54 Grid II層80-90	両端部を欠失。エナメル質のみられない内側 面から穿孔。貫通はせず、空洞の髓まである。 孔径 2 mm。	5	残存 長さ 6.83
第15図4	"	二次調査区 53 Grid	基部のみを残存するもので、端部は丸く半扁 状に研磨し、一方向からの穿孔がなされている。 孔径 3.7 mm。	4	残存 長さ 4.64

##### a 竹 製 輪 (図版14の上)

第15図5は環状に加工成形された骨製輪の欠損品である。一端部に孔が穿たれている。表裏側面に研磨の痕跡を残しているが、風化のため器面保持が悪く、輪の多孔面が露出している。厚さ 1.1 cm、幅 1.8 cm、残存重量 7 g。

器種 層序	貝 刃	螺 旋 製 具 斧	二枚 具 有孔 具 製品	小 形 卷 貝 製 品 (1)	卷 貝 製 品 (2)			その 他		
					輪 具	輪 形 有孔 貝 製 品	サラサバティ 製品	2	1	1
第1層・表土	ホラガイ 製容器	シヤコ 貝製搔器	ホラガイ 製容器	メンガイ 製品	ゴホウラ 製品	シャコガイ 製品	ゴホウラ 製品	3	2	1
第Ⅱ層	スイジガイ 製利器	シヤコ 貝製搔器	スイジガイ 製利器	カサガイ 製品	カサガイ 製品	カサガイ 製品	カサガイ 製品	4	1	1
第Ⅲ層								2		
第Ⅳ層								1		
第Ⅴ層								1		
第1号土壤集石 石散石遺構								1		
計	0	3	1	6	25	1	2	3	3	1
								9	0	2
								0	1	1
								1	1	3

## 第2次調査地区

序位	器種	刀	貝斧	貝製器具	スイジガイ製利器	二枚貝有孔貝製品	ホラガイ製容器	貝皿	貝具	貝具	貝皿	卷貝製有孔品(実用品)	輪			符状有孔貝製品	小形巻貝製玉(1)	巻貝製有孔品(2)	その他の				
													0-10	10-20	20-30	30-40	40-50	50-60	60-70	70-80	80-90	90-110	計
解													2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
II													1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
層													1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2
													1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2

## その他の

彫のしまった長管骨に、鋭利な刃ものとみられるキズが存在する資料である。骨面はなめらかでやや光沢をもっている。一次調査地区 DトレンチII層。その他骨状の一部の欠片が得られている。細片のため全形は不明。

### ロ. 貝製品

総数167点の貝製品が得られた。これらは実用品と装飾品に大別されるが、他に用途不明のものもある。以下、実用品から順に紹介していく。

#### a 貝 刀

二次調査地区から一定の範囲で計8点出土をみた。貝種はいずれもシレナシジミからなり大きさはほぼ一定している。

	標図番号 図版番号	出土地区と層	貝種	殻長 (cm)	殻高 (cm)	特徴	重量 (g)
1	第15図7 図版14左	二次調査区 42 - 44 Grid 第II層	シレナシジミ	5.8	6.2	殻上面腐食のため凹凸面が存す。 刃縁は中央部に存する。	21
2	図版14右	二次調査区 68 Grid 第II層 挿乱部	"	5.9	4.9	器面の保持は比較的良し。 刃縁は中央部から右縁に附す。	18
3	図版14右	二次調査区 51 ~ 61 Grid 第II層 40 cm	"	5.2	4.7	刃縁は全縁に附される。 刃縁の剥離は細かい。	11
4	第15図8 図版14右	二次調査区 51 ~ 61 Grid 第II層 40 cm	"	7.2	6.4	刃縁は中央部から右縁にかたよる。	30
5	図版14左	二次調査区 51 ~ 53 Grid 第II層 90 cm	"	6.6	6.2	細かい刃縁が全周におよぶが風化のため摩耗している。	21
6	図版14右	二次調査区 51 Grid 第II層 90 - 110 cm	"	7.8	6.7	殻頂部腐食が進む。 刃縁は全縁にあるがとくに左縁にふかく附す。	32
7	図版14左	二次調査区 56 - 57 Grid 第II層 70 cm	"	6.8	6.4	剥離の大きい刃縁で全縁にあるが、風化し腐耗している。	28
8	図版14右	二次調査区 59 ~ 61 Grid 第II層 30 cm	"	5.7	5.1	刃縁は細かく、全縁にある。とくに中央部は摩耗している。	14

### b 螺蓋製貝斧

夜光貝の蓋を素材としたもので、広範囲の調査ではあるがわずかに4点出土しているのみである。刃縁部を保存するもの2点、大きく欠損するもの2点からなる。

	挿図番号 図版番号	出 土 地	たて (cm)	よこ (cm)	事 項	重量 (g)
1	第16図1 図版15の上	一次調査区 Bトレンチ 第II層 慢乱部	6.8	6.0	刃縁は刃部中央にみられるが、器は半蔵して欠損している。火熱を受けている。	105
2	第16図2 図版15の上	一次調査区 Dトレンチ 第I層	7.2	6.7	頂部のみを残し、全周大きく破損している。	62
3	図版15の上	一次調査区 Eトレンチ 第II層	7.3	8.0	剝離した刃縁は中央部から右縁に附される。	148
4	第16図3 図版15の上	二次調査区 60 Grid 第II層 50 cm	7.4	8.1	刃縁は右縁の一部のみに存する器面の保持は良好。	172

### c シャコガイ製搔器

シャコガイの腹縁部を直線的に打削整形後、磨研を加え、刃としたものである。ただ附刃は徹底はされずやや粗面を呈する。成形は背面側から研磨してあるため内側に向き、片刃的にみられる。全体観が内湾した刃部形態をなすため搔器的な機能がうかがわれ仮称した。

	挿図番号 図版番号	出 土 地	たて (cm)	よこ (cm)	事 項	重量 (g)
1	第16図4 図版15の下	一次調査区 Cトレンチ 第II層	3.6	6.8	横軸の両端は打削により折られている。腹面は風化している。	22
2	第16図5 図版15の下	二次調査区 67 Grid 第I層	3.7	5.4	"	18

### d スイジガイ製利器

スイジガイの突起の一端に附刃した製品である。明確に刃部を残すもの2点で、他は刃つぶれ、また欠折のため体層部のみを残すもの7点の計9点を得ている。刃部形状は平刃をなすものと、ポイントをなすものが確認される。

博物館番号 図版番号	出土地区 と層序	管状突起の保存状況	刃部の 形狀	刃部の 状況	体部に存する孔 よこ	孔の位置、たて よこ	各部の法量(cm)					重量 (g)	備 考
							a	b	c	d	e		
1 第17図1 図版16	II次調査区 53~54 Grid II層 110cm	▲ ▲ △ △ △ △	①ポイント ②ポイント	無 孔	—	①4.3 ②3.7	①14.3 ②14.1	8.1	4.7	—	265	①刃部裏面は中央に縫がつくられる二面 研ぎで一方の裏面は一面研ぎを施したボ イント。又、②二番突起も欠損はしてい るが一部上面の研ぎが認められる。上面 は削歯している。	
2 同図2 〃	II次調査区 90 Grid 1 層	— × ▲ —	平 刃	—	—	1.0	7.8	—	—	—	64	具そのものは風化が進行したものである。 刃部は表面からなされている。	
3 同図3 〃	II次調査区 51~53 Grid II層80~90cm	▲ × × ○ ×	風化の ため不明 (欠損)	無 孔	—	3.2	8.7	5.0	13.9	—	380	1番突起は欠損し刃部を残さないが、そ の欠損面は刃部形状をそのまま留めて、 破損面が風化している。背面部は打ち割 られて軸内部を露呈している。	
4 同図4 〃	I次調査区 表 堀	▲ × × ○ ○	風化の ため不明 (欠損)	無 孔	—	3.6	8.9	5.3	15.1	—	380	翼面風化が著しく白色化している。 1番突起は打裂の欠損状況を呈し、研磨 の痕跡を残さないが、やや刃部の研状を 留めている。	
5 同図5 図版17	I次調査区 Eトレント 景	▲ × × ○ ○	風化の ため不明	円 形	—	2.6	—	4.6	12.0	—	124	上記同様の1番突起の残存状況を残し全 面に風化と腐食が認められ、背面部は削 れて存在しない。	
6 同図6 〃	I次調査区 Eトレント 表 土	欠 落	—	梢 円 形	—	2.7	—	—	—	—	180	2、3突起の根元をわずかに残す以外、 すべて欠落し、また背面部も損した製品 である。孔部上縁～左上縁に風化のため 削減	

押抜番号 図版番号	出土地区 と層序	管状突起の保存状況	刃部の 孔の法量、たて よこ	刃部の 形状	体部に存する孔 の法量、たて よこ	各部の法量(cm)						重量 (g)	備 考
						a	b	c	d	e			
7 同図7	一次調査区 Eトレンチ 表	欠 落	—	たて長の橢円形 3.4×2.0cm	—	—	—	—	—	—	140	突起及び背面部を全て欠落した資料孔 部上縁側風化が観察される。	
8 同図8	一次調査区 Eトレンチ 土	—○—	—	よこ橢円形 2.0×2.6cm	—	—	—	—	—	—	124	4番突起をのこすのみで、背面部から 欠損した資料、水質を受け器面は乳白色状を呈しなからである。	
9 同図9	一次調査区 Cトレンチ Ⅲ層20-30	—×△△○○	—	楕円形 2.9×2.5cm	—	—	—	—	—	—	390	1番突起を含めた外周部欠損、器面は 風化が著るしく、白くなる。器面の保 持が悪い。	

\* 凡例 ▲ 附刃加工突起 ○ 保 存 △ 半欠損 × 全欠損

計測ヶ所は大原貝塚報告書記載の貝製品の項を参考にした。

#### e 二枚貝有孔貝製品

二枚貝の背面部に孔を穿った資料で一次調査で27点、二次調査で51点の計78点を得ている。貝種はシャコガイ(14個)、ザルボウ(23個)、メンガイ(27個)、カワラガイ(6個)、リュウキュマスマオガイ(個)、その他(5個)からなる。以下、観察表で記述する。

## 二枚具製有孔貝製品

海図番号 図版番号	出土地と層序	貝種	貝の注目部		孔 縦長 横	孔 縦 横	孔 形状	孔 位置	穿孔	備考
			最高	最低						
1 第18図1 図版18の1	一次 B レンチ II 層	メンダイ(右)	37.7	47.7	9.1	10.6	7.8	略円形	殻頂部 中央	全面水磨を受ける
2 第18図2 図版18の2	一次 C レンチ II 層	" "	71.2	63.5	12.4	14.3	27.9	円形	打裂面は 外側	孔部磨耗
3 第18図3 図版18の3	一次 D レンチ 表土	" "	42.9	39.3	15.6	17.9	4.3	円形	殻頂部 中央	打裂面は 外側
4 第18図3 図版18の4	一次 E レンチ I 層	" "	57.3	51.2	30.8	21.9	20.4	梢円形	殻上面 中央	打裂面は 内側
5 第20図7 図版20の7	一次 F レンチ I 層	" "	58.0	67.2	14.1	12.0	39.6	卵丸三角形	殻上面 左より	打裂面は 外側に残る
6 第18図4 図版18の5	二次 42-44 Grid 表 I.	" "	53.2	51.3	13.1	15.5	33.5	隔丸三角形	殻上面 中より	腹縫部破壊される
7 第18図5 図版18の7	二次 40-49 Grid I 層	" "	55.6	55.0	15.2	15.7	20.0	略方形	殻上面 中央	孔部は器面が磨かれた。腐食(?)
8 第18図6 図版18の7	二次 40-49 Grid I 層	" "	43.3	48.4	16.6	11.3	9.6	口状孔形	殻上面 中より	打裂面は 外側
9 第18図8 図版18の8	二次 40-49 Grid I 層	(左)	62.5	55.2	23.5	22.6	20.8	梢円形	殻頂部	孔部風化
10 第18図7 図版18の9	二次 42-44 Grid II 層	(右)	48.3	42.4	10.9	12.5	14.2	梢円形	殻頂部 中央	打裂面は 外側
11 第18図9 図版18の11	二次 42-44 Grid II 層	(?)	(56.4)	59.7	-	15.7	19.4	凹形	殻頂部	最頂部欠損

					員の法量(㎤)	孔 径 (mm)	重量 (g)	孔 形 状	位 置	穿 孔	備 考
	出土地名と層序	日	種	最高	縦長	横					
12 第18回8 第18回10	二次 42-44 Grid II 層 0-10	メンガイ (?)	(?)	(44.0)	43.8	-	20.2	8.0	-	打製は 外側に存す	縫頂部欠損
13 第18回10 第18回12	二次 42-44 Grid II 層 0-10	" (右)	71.9	62.8	17.0	17.6	37.5	略円形	縫頂部	"	全面に水磨を受ける。
14 第18回13	二次 41-49 Grid II 層 薙ち込み	" "	64.9	60.0	10.8	9.7	23.9	□状孔形	縫頂部より 右	打製面は 外側	
15 第18回14	一次 52-54 Grid II 層 30-40	" (?)	61.2	-	-	-	25.8	-	縫頂部 中央	打製面は 外側	縫頂部近くを欠損
16 第18回11 第18回15	一次 59-61 Grid I 層	(?)	49.4	46.5	-	19.5	10.3	-	-	打製面は 外側	孔部は水磨を受ける
17 第18回12 第18回17	二次 57-59 Grid II 層 30-40	" (右)	70.6	58.8	27.9	19.8	26.9	椭円形	縫頂部 中央	打製面は 外側	孔部磨耗
18 第18回17	二次 51-61 Grid II 層 30-40	" "	51.8	53.7	20.9	29.7	13.0	斜方形	縫上部 中央		孔比較大きい
19 第18回13 第18回18	二次 51-54 Grid II 層 30-40	" "	70.6	74.4	29.5	29.1	55.8	円形	縫上部 中央	打製面は内側に認めめる	孔部磨耗
20 第18回14 第18回19	二次 54-58 Grid II 層 40-50	" "	63.0	74.4	16.3	16.8	40.5	円形	縫頂部	打製面は外 面に認めめる	孔部磨耗
21 第18回20	二次 54-58 Grid II 層 40-50	" "	(42.3)	41.6	19.3	-	6.3	"	"	打製面は 外側	縫頂部欠損
22 第18回21	二次 52-55 Grid II 層 80-90	" "	60.0	55.7	14.9	10.5	16.6	隅丸三角形	縫上面 中央	打製面は内 側に残る	
23 第18回22	二次 50-58 Grid I 層	" "	62.0	64.1	25.9	-	20.4	楕円形	縫上面 中央	裂部は外	縫頂部欠損

標図器号 図版番号	出土地区と層序	具種	貝の法量[mm]			孔 形狀	孔 位位置	穿孔	備考
			殻高	殻長	縫横				
24 圖版18の23	一次 試掘穴 II 層 懐乱	メンガイ(右)	39.0	30.6	6.1	6.5	3.5	円形	一 小孔
25 圖版18の24	二次 100 Grid 檜乱層	" "	62.7	49.9	19.7	18.5	19.2	円形	裂部は外面 孔部櫛孔
26 圖版18の25	一次 59-61 Grid II 層 30-40	" "	67.3	68.4	7.7	6.2	41.5	方形	裂部は外面 平行する裂面
27 圖版18の26	二次 57-61 Grid II 層 30-40	" "	48.0	67.6	12.7	11.2	38.7	方形	裂部は外面 孔部櫛孔
28 圖版18の27	二次 57-61 Grid II 層 40-50	リュウキュウ サルビウ(左)	47.8	61.4	22.4	34.3	33.0	橢円形	裂部は外面 風化が著しく 白色化
29 圖版18の28	二次 44-45 Grid I 層	" "	49.1	74.0	12.8	11.6	57.3	橢円形	" "
30 第19圖1 圖版18の29	一次 Bトレンチ I 層	" "	39.0	52.0	6.7	8.2	13.7	円形	裂部は外面 全面水陸
31 第19圖2 圖版18の30	一次 Cトレンチ III 層 20-30	" "	45.0	70.0	11.5	24.3	30.2	橢円形	裂部は " "
32 第19圖3 圖版18の31	一次 表探	" (右)	43.3	61.1	9.8	11.5	25.1		
33 圖版18の32	一次 表探	" "	42.7	68.6	11.2	12.7	23.1		
34 第19圖8 圖版18の33	一次 II 層 懐乱	" "	48.3	68.8	8.9	8.6	40.6		

発掘番号	出土地点と順序	貝殻種	貝殻高	貝殻長	貝殻幅	貝殻の法線[mm]	孔	重量 [g]	孔の状況			備考
									横	横	縦	
35 図版18の34	一次 Eトレチノ II 層 摂乱	リュウキュウ ザルボウ(右)	36.0	57.5	23.2	31.2	17.4 横円形	直頭部を 大きくする	表面は外側	大形孔		
36 図版18の35	一次 II 層 摂乱	" "	44.5	70.4	10.6	11.3	33.8				水解を受けてい る	
37 第19回6 図版18の36	一次 Eトレチノ II 層 摂乱	" "	39.6	67.0	12.3	19.6	36.4 横円形	殻頂部	表面は外面			
38 第19回7 図版18の37	一次 Dトレンチ III 層	" (左)	57.3	74.1	15.7	12.3	56.8 円形	殻上部 殻頂部近く	表面は外側			
39 第19回9 図版19の52	二次 44-45 Grid I 層	シャコガイ	69.9	73.4	33.1	37.8	53.0 円形	殻上面	表面は外面 より	大形孔で孔部 外縁は腐耗して いる		
40 第19回10 図版19の53	二次 40-49 Grid I 層	" (左)	56.8	89.9	13.5	20.1	44.1 横円形	殻上面山 右上より	表面は外側			
41 図版19の54	二次 42-44 Grid I 層	" "	47.1	70.7	10.1	11.6	25.3	"	"	"	小孔	
42 第19回11 図版19の55	二次 52-54 Grid I 層	" (右)	74.6	101.1	40.8	56.2	91.9 横円形	殻上面	表面は外側	大形粗孔打面は		
43 図版19の56	二次 92-98 Grid II 層 摂乱部	" "	50.0	70.8	7.7	12.2	27.7	"	殻上面 左上より	"	全面水磨	
44 図版19の57	二次 82-85 Grid II 層	" "	42.2	64.6	11.9	11.0	23.1	粗孔	殻上面中 左上より	表面は外 粗孔		
45 図版19の58	二次 66 Grid II 層	" (左)	71.3	101.5	23.1	31.2	103.9 円形	殻上面中 右上より	表面は外側 殻縁の一端欠折			
46 図版19の59	一次 Bトレチノ II 層	" (右)	29.7	46.9	10.8	15.2	8.2 円形	殻上面中 央上より	表面は外側	全面に水磨		

発掘番号 図版番号	出土地区と順序	貝 種	片の法長(mm)	孔 の 状 況		孔 量 (g)	形 状	孔 位 置	穿 孔	備 考
				縦 高	縦 長					
47 第19圖12 図版19の60	一次 Cトレンチ II層	ショコガイ(右)	46.9	78.9	14.7	12.6	23.3	円 形	縫上面中央	縫面は外面に認められる
48 第19圖13 図版19の61	一次 Cトレンチ Ⅲ層	" (左)	76.2	118.6	25.9	30.5	63.3	不定形	縫上面	縫面は外面に認められる
49 第20圖1 図版19の33	一次 Dトレンチ I層	" "	6.5	11.4	1.9	2.0	14.3	方 形	縫上面中央	上面は風化が著しくもろい
50 第20圖2 図版19の39	一次 Dトレンチ I層	" (右)	3.1	6.2	—	2.0	31.0	楕円形	縫面は外面に残る	縫頂部欠損
51 第20圖3 図版19の40	一次 Eトレンチ 上层	" "	61.3	93	8.8	17.6	57.7	楕円形	縫上面	縫面の一端を欠損
52 第20圖4 図版19の41	二次 42-44 Grid I層	" (左)	62.4	88.1	17.9	22.1	56.5	円 形	縫上面中央より上	縫縫水密を受け
53 図版19の42	二次 50-60 Grid II層	カワラガイ(右)	28.8	26.8	5.2	7.5	3.3	楕円形	縫上面中央	縫面は外
54 第20圖5 図版19の43	一次 Cトレンチ II層	ソメフダリ (?)	23.2	19.6	3.5	5.9	2.7	楕円形	縫頂部	縫面は外面
55 第20圖7 図版19の44	一次 Cトレンチ II層	ヌメガイ(右)	50.4	50.2	30.6	19.9	13.0	楕円形	縫上面	縫面は外面
56 図版19の45	二次 42 Grid II層	リュウキョウ マオス(?)	35.5	51.2	8.7	8.6	6.4	円 形	縫上面中央左上	縫面外
57 図版19の46	二次 68 Grid II層	" (右)	78.3	66.3	12.0	12.8	18.1	—	—	—

査定番号	出土地名と層序	貝 種	貝の法量 [mm]	孔 (φ)	孔 状 態	孔 の 状 況	備 考
58 図版19の48	一次 B レンチ II 層	カワラガイ (左)	55.4 49.0	2.0 2.0	22.8 円 形	殻頂部 裂面は外	
59 図版19の48	一次 C レンチ II 層	不明貝	30.5 24.5	3.0 5.0	3 円 形	殻頂部 " "	強い水壓を受ける
60 図版19の49	二次 100 Grid I 層	不明貝	30.5 31.0	6.5 5.5	5 円 形	殻頂部 裂面は外	器皿風化著しい、
61 図版19の50	二次 100 Grid 表	"	35.5 41.0	5.0 5.0	9 " "	" "	外縁一部欠損
62 図版19の51	二次 58~80 Grid II 層 40~50	ザルボウ (左)	47.5 69.5	27.0 31.0	14 " "	" "	口径比較的大きい、
63 図版20の62	二次 5~12 Grid II 層	メンガイ (右)	53.1 50.9	5.5 5.1	15.2 円 形	殻頂部 " "	器厚は薄い 全面水槽
64 図版20の63	"	リュウキュウ ザルボウ (右)	40.6 60.3	14.4 17.1	22.7 " "	裂面は外側 " "	
65 図版20の64	"	"	37.3 49.4	9.6 13.5	9.6 " "	" "	全面に強い 水壓を受ける
66 図版20の65	"	"	32.4 49.6	11.9 15.9	10.9 " "	" "	" "
67 図版20の66	"	"	34.9 47.7	11.4 9.1	9.8 " "	" "	" "
68 図版20の67	"	"	35.7 53.8	12.1 12.9	14.8 " "	" "	" "
69 図版20の68	"	(左)	40.4 54.6	10.7 12.0	16.4 " "	" "	" "

揮揚番号 図版番号	出土地区と順序	目 領	目 の 法量 縦 横	孔 (mm)	重 量 (g)	孔 状 の 状 況			側 孔	備 考
						縦 長	横	位 置		
70 箇21図 3 国版200269	二次 5-12 Grid II 層	リュウキュウ ゲルバウ(右)	45.5 48.7	11.4 12.9	10.4 10.4	—	—	燃頂部	全面水磨 全面白色、破損	
71 箇21図 4 国版200270	"	" (右)	— 66.0	— —	22.4 22.4	—	—	燃頂部	全面水磨 全面白色、破損	
72 箇21図 5 国版200271	"	" (左)	43.4 71.1	12.9 12.9	20.9 20.9	35.1 35.1	梢 円	製面は外側	全面水磨 孔部風化	
73 箇21図 6 国版200272	"	" (右)	30.1 54.9	12.4 12.4	13.2 13.2	13.6 13.6	" "	" "	" "	" "
74 箇21図 7 国版200273	"	" "	32.2 44.2	6.3 7.7	7.7 7.7	円 形	燃頂部	製面は外	全面水磨 小孔である	
75 箇21図 8 国版200274	"	カワラガ4	53.7 47.4	— —	14.9 14.9	円 形	燃頂部	製面は外	全面水磨 小孔である	
76 箇21図 9 国版200275	"	"	39.3 39.3	— —	9.1 9.1	円 形	燃頂部	製面は外	全面水磨 全面白色	
77 箇21図 10 国版200276	二次 45-47 Grid I 層	シロノハキン チャク	7.8 6.6	1.1 1.1	1.3 1.3	— —	円 形	燃背部	全面水磨 全面白色	熱田原目録に類似資料がある

### f 卷貝製有孔品

いまだ適當な名称がないため本項でまとめて称したもので、チョウセンサザエ、イトマキボウ、タカラガイにいずれも粗孔を穿つものである。重量、形状及び孔の状況から鍾的要素がみられる。第16図6は体層部に $1.5 \times 2.3$ cmの粗孔が穿たれている。孔部から殻口が貫通してみられる。孔上縁は風化が認められる。殻高7.1cm、重量78g、二次調査区50~54 Grid 第I層。第16図7、8も上記同様の体層の位置に粗孔がみられる。殻口も若干打割整形がなされている。前者の孔径1.6×1.5cm、重量145g、一次調査区、表採。後者は孔径2.9×1.7cm、重量80g、一次調査区Cトレンチ、第II層。第16図10は大形のタカラガイに対応する孔があげられている。孔は長軸の一端側による位置にある。自然貝の斑点がみられるが器面風化は著しく白色化している。左孔径1.3×1.6cm、重量78g、一次調査区Dトレンチ1号土壤集石遺構。第16図9も同様のタカラガイを素材とするものであるが殻上面側のみである。一孔残されている。径1.0×1.3cm、重量20g、表採。

### g ホラガイ製容器

大小、大きさが異なるホラガイ製品で3点が同形態のものであるが、内部の殻軸がみられない製品1点からなる。

擲図 番号	殻高 (cm)	殻径 (cm)	重量 (g)	容量 (cc)	出土地区 層位	事 項
第 22 図 1	20	たて 10 × よこ 7.3	450	280 cc	一次調査区 Fトレンチ 表土	比較的厚い殻のボウッシュウボラを素材とし、殻口部分の体層部に孔を穿った製品。孔は丁寧に成形され、円形をなす。その縁部は磨耗がみられる。殻口部の裏側面にあたる体層の突起はつぶれ、やゝ磨滅していく底面に置く場合は安定する。殻頂部は欠損。 口径3.7×3.5cm
同 図 2	19.4	よこ 8.0 × よこ 4.1	133	130 cc	二次調査区 59-61 Grid II層 20-30cm	上記資料同様に殻口の体層部に粗孔を穿る。孔縁部は全縁に磨滅している。殻口の裏側の体層部は赤味を呈している。この面に3カ所、割れによる孔が認められる。 口径2.1×1.7cm

擲出番号	最高(cm)	最深(cm)	重量(g)	容量(cc)	出土地区層位	事項
第22図3	11.0	たて 5.6 × よこ 3.0	92	70 cc	二次調査区 66-68 Grid II層 10-20	一見小形のホラガイを思わせるが、比較的貝厚があり、内面に元初の殻口に続く筋が存在することより、ひとまわり大きいホラガイの殻を取りとった中央部の殻を素材としたものである。殻口は細かい敲打と研磨でなめらかになっている体層面には小孔が存在する。孔部から殻頂部にいたる体層面は腐食が進み、細かいアバタ面を形成する。口径 $1.5 \times 1.2$ cm
同図4	19.7	たて 8.5 × よこ 6.4	586	280 cc	二次調査区 40-49 Grid I層	突起の多いテングガイの殻口体層部と前述と同じ様な孔を設けたもので、器體の大きさに比べ孔は $1.0 \times 1.2$ cm と小さい。殻口と逆の面にあたる体層面には突起が存在するが何ら加工痕は認められない。したがって平面地にあっては安定せず。 口径 $1.2 \times 1.1$ cm

### h 貝 皿

貝皿としたものは、その形状が皿に類似している形態的な分類からで、シャコガイ(4)、ゴホウラ(2)、テングガイ(1)を素材としたものがある。計7点得られている。

擲出番号	出土地区層位	たて(cm)	よこ(cm)	重量(g)	容量(cc)	事項
第22図5	二次調査区 51-57 Grid 第II層 50-60 cm	12.6	20.0	800	—	シャゴを素材とする。腹縁部は打削整形され水平に磨耗している。裏面は水磨を受け、平坦地に置くと水平に安定する。
同図6	二次調査区 100 Grid 表採	8.9	13.9	190	—	腹縁部は水磨を受け磨耗している。殻頂部は腐食し欠損している。
同図7	二次調査区 100 Grid 表土層	16.4	11.4	480	—	シャコガイの腹縁は打削整により水平になされているが強い水磨を受けている。器面はや、光沢がみられる。
図版21右下	表採	4.9	7.0	20	—	全面磨耗していく白色化している。小形のシャコガイを素材とする。
同図8	二次調査区 70 Grid 表土	12.5	11.5	200	—	ゴホウラの背面部を水平方向に割り取ったもので、剖面は細かな調整はみられないが、磨面を呈している。
同図9	二次調査区 73 Grid 第I層	12.9	12.2	280	—	腹面部及びソデは取りさられ、剖面は細かい敲打整形がなされ、磨耗している。器面は風化していく白色化している。
同図10	二次調査区 51 Grid 第I層	11.9	12.0	430	—	本資料も腹面及びソデが取りさされているが、腹面中央のら軸の整形は粗く、まだ基部を残している。縁部は磨耗のためなめらかになっている。
同図11	一次調査区 Bトレンチ 第II層	9.0	8.4	126	—	ゴホウラの背面部のみを残すものであるが、整形面は粗く放置されている。
同図12	表採			370	—	テングガイを素材としたもので、腹面部を打ち欠きとりのぞいてある。外面の突起はそのままおかれ、なんら整形はなされていない。

### i 貝 鮎

鮎は7点得られた。貝種はヤコウガイ、スイショウガイをもちいている。形態の精巧品はなくいずれも打削面が残されているものである。

標図番号	出土地区層位	たて(cm)	よこ(cm)	重量(g)	容量(cc)	事項
第23図 1	一次調査区 Bトレンチ 第II層	8.2	4.9	3	-	ヤコウガイの体層部を素材とする。形状は平面形が楕円形を呈する。整形面は細い研磨はみられない。
同図 2	一次調査区 Eトレンチ 櫛乱	11.6	7.0	80	-	上記資料同様に楕円形状に打削により整形。細い研磨はなんら認められないが、やゝ磨耗面が存在する。
同図 3	二次調査区 59~61 Grid 第II層20~30cm	9.0	5.5	40	-	略楕円形に整形してある。打削面は磨耗面からなり磁感は認められない。
同図 4	二次調査区 48~49 Grid 表上層	11.6	6.7	70	-	やゝ長方形に近い整形をなし、終っている。打削面は風化している。
同図 5	一次調査区 石敷道構	10.6	5.9	50	-	一応匙状を呈するものゝ整った形をみない。整形面は風化している。
同図 6	二次調査区 42~44 Grid 第I層	8.7	4.0	32	-	スイショウガイの腹面部を素材としたもので、ら軸がツマミ状に残る。全面水磨を受ける。
同図 7	二次調査区 50~54 Grid 第II層 80~90	5.1	8.8	32	-	スイショウガイの腹面を用いたものであるが、ほぼ偏平に近い全面水磨を受ける。

### j 貝 輪

30点の発見があり、装飾品で最も多かった種である。素材の貝種ごとにみると、ベッコウガサガイ製品、二枚貝のメンガイ製品、シャコガイ製品、サラサバティ製品の5種からなる。

#### ベッコウガサガイ製貝輪

標図番号 図版	出土地区層位	外縦径 継×横	内孔径 継×横	幅 (cm)	重量 (g)	観察
第23図 8 図版 23	一次Dトレンチ 敷石透構内	-	-	0.5~ 0.8	2	表裏面より砥磨がなされているが、自然貝の凹凸面は消していない。破損品。細身である。
同図 9 図版 23	二次 57~61 Grid II層 30~40cm	-	-	0.6~ 1.3	8	欠損品、表裏面研磨がなされ、ほぼ完成品の成をもつものである。器面の手触は良好。
同図 10 図版 23	二次 57~58 Grid II層 50~60	-	-	0.8	4	表裏面砥磨がなされ、その後孔部の研磨がなされている。器面には自然貝の凹凸はほとんど消されている。

メンガイ製貝輪

捕獲番号 図版	出土地区 層位	外縁径 縦×横	内孔径 縦×横	幅 (cm)	重量 (g)	観察
第24図1 図版23	一次Dトレンチ I層	8.0×-	5.7×-	1.3～ 2.7	20	欠損品。孔部に砥磨の痕跡を残す。 丁寧な研磨により手触りはスムーズ 色調は黄褐色を呈す。
同図2 図版23	一次Dトレンチ 第1号土塗集 石造構	7.2×-	4.6×-	1.1～ 1.5	18	欠損品。打割による調整がなされ孔 部は研磨がなされるが、丁寧にはい たっていない。外縁は綾を呈するほ どに研磨がなされている。
同図3 図版23	一次Eトレンチ I層	-	-	1.0～ 1.3	8	欠損品。打割による整形のみで、研 磨はみられず。
同図4 図版23	一次Eトレンチ III層 0～10	-	-	0.8～ 1.9	8	欠損品。
同図5 図版23	一次Eトレンチ IV層	-	-	1.6～ 2.0	11	欠損品。研磨はみられず、打割調整 段階のものである。
同図6 図版23	一次Eトレンチ III層	-	-	1.2～ 2.4	10	"
同図7 図版23	一次Eトレンチ I層	4.6×-	3.1×-	0.8～ 1.1	6	"
同図8 図版23	二次 57～59 Grid II層 30～40	6×4.5	6×2.2	1.0× 1.8	8	完全形。全面に風化を受けている。

ゴホウラ製貝輪

総数17点で、完成貝輪8点、未完成貝輪9点からなる。

捕獲番号 図版	出土地区 層位	内外縁 縦×横	内孔径 縦×横	幅 (cm)	重量 (g)	観察
第24図10 10	一次調査区 Bトレンチ II層	-	-	1.2～ 1.4	8	ら層部側のみを残し他欠落した資料。 研磨は丁寧になされ環帯は全体に細 造りである。素材はゴホウラで背面 側を使用。
同図24の上	一次調査区 Cトレンチ II層	-	-	1.0～ 1.2	6	研磨のなされた完成品の欠損資料で ある。ゴホウラ貝の背面、突起側の 残存である。
* 9・12 同図24の上	一次調査区 Eトレンチ III層	-	-	1.5	4	上記資料同様の研磨製品であるが破 損の水溝端部側のものである。
* 11 同図24の上	二次調査区 59グリット II層 40～50	-	-	1.1～ 1.6	4	背面部利用の貝輪、突起側の残存。 貝厚は薄い。

挿図番号 図 版	出 土 地 区 層 位	内外線 縦×横	内孔径 縦×横	幅 (cm)	重 量 (g)	観 察
第 24 図 13 図版24の上	二次調査区 57-59グリット II層 30-40	-	-	1.0~ 1.3	3	4と同じ部分の破損品。研磨良好。
第 24 図 14 図版24の上	二次調査区 58グリット II層 40-50	-	-	1.0~ 1.1	9	環帶の断面が楕円状に近いリング状の貝輪、欠損品、外唇部側の使用である。
図版24の上	一次調査区 表 採	-	-	1.4~ 1.6	10	研磨のなされた完成品の資損資料。外唇部のもので一端に孔を穿つ。孔径3mm
第 25 図 1 図版24の上	二次調査区 II層 30-40	-	-	1.7	7	研磨良好。外唇側の素材をうかがわしめる。
第 25 図 2 図版24の下	二次調査区 II層 30-40	-	-	-	146	6,7と同じく外唇部側を残した欠損資料。表裏面丁寧な研磨がなされる。
第 25 図 3 図版24の下	一次調査区 C トレンチ II 層	-	-	1.6~ 2.1	20	未加工品。表裏面に研磨がなされ、孔部に敲打痕を残す。外唇部側の残存品。
第 25 図 4 図版24の下	一次調査区 E トレンチ II 層	-	-	2.6~ 2.7	80	器面風化が著るしい外唇部側の背面貝輪、粗削整形で研磨はなされていない。
第 25 図 5 図版24の下	一次調査区 E トレンチ I 層	11.2 × -	5.7 × -	3.2~ 3.7	55	腹面部を採用したもので、粗削成形段階のものである。なお打削面は敲打調整によるものか、その面は比較的凹凸は少ない。
第 25 図 6 図版24の下	一次調査区 C トレンチ I 層	-	-	2.6 × 3.6	72	突起部分を残した欠損品で、細かな研磨加工はいまだなされていない。
第 25 図 7 図版24の下	二次調査区 66-68グリット II層 0-10	8.6 × -	4.7 × -	1.7~ 2.1	30	腹面部を利用したもので、粗削り成形で終る。
第 25 図 8 図版24の下	一次調査区 B トレンチ III 層	-	-	-	245	自然貝の形を大きく残したもので、腹面部に径4.2×5.5cmの粗孔。一方背面側からも径2.2×2.6cmの孔を穿ち、内中のら輪はそのままに残されている。粗削りのもので研磨は認められない。
第 25 図 9 図版24の下	二次調査区 51~61グリット II層 40 cm	10.4 × 7.1	3.8 × 2.8	2.8~ 3.8	131	背面資料で貝厚の比較的薄いものを使用、細い環帶を意識したものであるが欠損。
第 25 図 10 図版24の下	表 採	-	-	2.2~ 3.2	50.5	背面資料。粗削りでまだ貝輪の全形は造くられない。腐食が進む。

### シャコガイ製貝輪 第26図1

半輪状になった資料で、両端部にいずれも孔が穿がたれている。一方は明らかに欠損し新鮮面を呈しているが、他方は、孔部破損面に研磨が認められる。また、この部分の両側には抉りが施されている。器面整形は丁寧でわずかにその素材として判断されるシャコガイの腹面の波文様が観察出来るほどである。器色は白色。幅1.5~2.0cm、20g。二次調査区51~52 Grid 80~90cm。

### サラサバティ製貝輪 第26図2

サラサバティの殻口近くのら唇を素材としたもので、打割整形後磨研使上したものである。一端部は欠損している。輪の厚さ8~13mm、重量14g、二次調査区59~61グリット。第II層30cm。

### k 符状貝製品

全体が符のごとく偏平を呈するものを便宜上この項に入れる。3点の出土である。第26図3は長方形上に磨研加工した製品であるが一部は欠損している。残存するもう一方の端部には孔が穿たれ、また孔の存する両側には抉りが設けられている。表面にシャコガイ特有の背部の波がみられ、研磨により完全に消しきっていない。幅2.3cm、残存長5.5cm、重量16g。二次調査区57~60 Grid II層50cm出土。

第26図4は製品の一部の欠落資料で、全容は不明。残存部には一孔の完全孔といまひとつ孔の中央から割れた計二孔が認められる。器面は手摺のため光沢を有する重量8g。一次調査区、EトレンチI層。

同図5は素材に制約されたのが湾曲する貝をもちいたものである。多面的研磨がなされ、幾数の稜が存在する完品資料で無孔になっている。

### 1 小形巻貝製玉

リスガイ、アマオブネ等の小形の巻貝に殻そのままをつかいなんらかの孔を穿つことにより玉状に加工した資料。

第26図6、7は体素上面に0.8~1.2cmの小孔を穿つもので、貝そのものは乳白色をおび光沢を一部有す。殻口の巻部に内部に貫通する自然孔がみられる。何らかの用に使用されたものであろう。前者は二次調査区、5~12 Grid、II層出土。後者は二次調査区50 Grid II層。

第26図8はリュウキュウアマオブネの体層部中心に、殻内部に貫通する小孔(径0.2cm)を施したものである。ただ器面風化が進行し資料整理時に孔部分を欠

損した。殻内部は打ち割られ空洞状になる。一次調査区、Eトレンチ、表土。

m 卷貝製有孔品（第26図9、10）

本項に分類したものは、孔が比較的丁寧に加工成形され、貝そのものの形をそこなうことなく、二孔以上の同様な孔を有するもので、その穿孔は砥磨によるものと薬研彫りのごとく線彫になったものがある。いづれも小形貝が使用される。

第26図9はタガヤサンミナシの体系部に長軸線に平行するごとく、相対応する面に薬研彫りを行い孔を穿ったものである。まだその一孔に接する様に径0.5cmの円孔が穿たれ横位の抉りで離いである。殻口部分も砥磨がなされ、この面を平地に置いた場合、もっとも安定する。二次調査区 58～61 Grid 第II層。

#### その他の資料

本項では、明確は名称があたへられず、また用途が不明なものを一括したもので類例をまって検討したい資料である。

第26図11はゴホウラの背面部の水溝部側に小粗孔を穿ったものである。その他の人為的加工痕として、背面頂部に小範囲の砥磨痕が認められ、また外唇部からソデ部分にまわるカ所が打割されている。蝶腹部はなんら加工はみられない。なお貝そのものは貝厚が薄く、まだ幼貝である。背面小粗口径  $1.0 \times 1.7$  cm。一次調査区、Eトレンチ、表土層。

図版26の中は大形のシャコガイの腹面部を素材としたもので、幅4.9cm、長15.1cmの長方形状に打ち欠いて成形したものである。長軸の両端は当初の自然にある腹縁からなり水磨を受けている。短軸の両側は打削面をそのまま残し、なんら研磨及び整形の打痕はみられない。二次調査区 59～61 Grid 第II層 30cm。

第27図1は大形ラクダガイの外唇部側を残すもので、背面に強い砥磨によって磨面を残す資料である。光沢がみられ、手触りもきわめてスムーズである。外周縁部は著しく風化を受け背面にある研磨の状況からみて、この風化は砥磨による以前からのものであることが考えられる。つまりラクダガイの破損した資料が元来の素材であったものとみられる。貝輪としては重量及び環状の痕跡がみられるところからするとその可能性はなく、その他の貝製品の素材となるものであろうか。一次調査区、Dトレンチ、表土層。

図版27の左・右は夜光貝の殻口部の最も厚いところで、外観が斧状を呈する

ものである。打割面は匙打整形がなされ、特に長軸の一側線は研磨に近い平坦面を有する。長軸の一方の縁端部は薄くなんら研磨はなされていない。左の縁部は弧状を描き、右はピック状に細くなるこれらは斧状の利器として判断されるのか、また他の製品の残品の残欠つまり夜光貝製匙の等の素材の残欠としておさえられるのか決めてを欠き、類例の発見をまって再検討したい。前者は長軸 13.9 cm、最大幅 6.4 cm、重量 290 g。一次調査区、E トレンチ、第Ⅲ層。後者は長軸 11.6 cm、最大幅 4.0 cm、重量 120 g。二次調査区、52 ~ 55 Grid 第Ⅱ層 80 ~ 90 cm 出土。

## 小 結

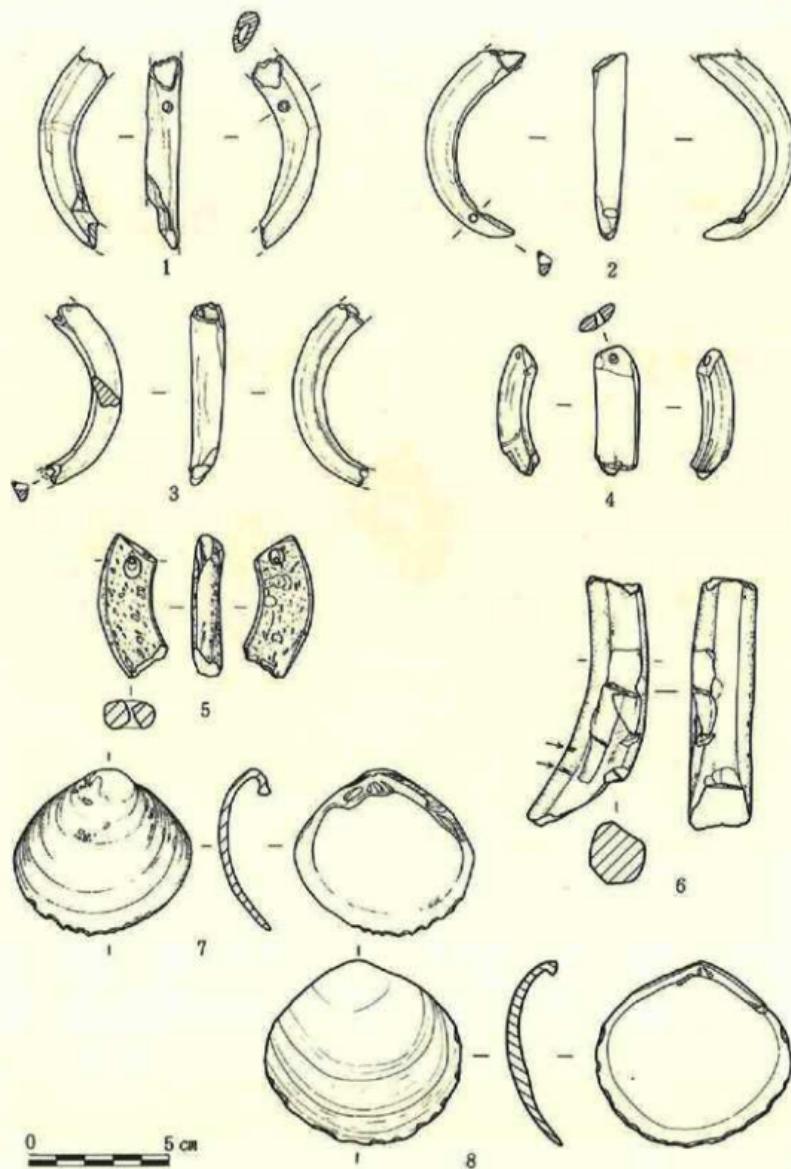
貝製品は比較的多く検出され、実用品と装飾品に大別された。前者の項に含めたものは貝刃、螺蓋貝斧、シャコ貝製搔器、スイジガイ製利器、二枚貝製有孔品（貝錘）、ホラガイ製容器、貝皿、貝匙、巻貝製有孔品等の 9 種類、後者が貝製貝輪、符状有孔貝製品、小形巻貝製玉巻貝製有孔品等の 4 種からなる。

実用品は主として利器的機能を有するものと、容器的機能及び、生産具としての二枚貝製有孔品（貝錘）が上げられる。利器としてはその他に石斧が存在するが、ここ伊武部貝塚では微量であり貝製品がそれに換うるものである。容器としては多くの土器が出土しているが、一方では貝製品も存在し調理施設としての地炉との関連で注目される。二枚貝製有孔品、巻貝製有孔品等は錘的機能がうかがわれ、伴出する魚骨類との具体的関連で検討がまたれる。一方装飾品では、貝輪が特徴的である。その貝種別でみると、メンガイ製品、シャコガイ製品、サラサバティ製品等で、層位的にはメンガイ製品、シャコガイ製品が古く、他は同時期に後続している。シャコガイ製品は半輪の有孔品で形態、イノシシの牙製腕輪に共通するもので、初期的（伊波期）腕輪の一形態として注目される。符状貝製品とした第26図 4 はその形状がフライドラゴンの形状を示し、熱田原貝塚<sup>①</sup>等のものと類似している。巻貝製有孔品としたものも古式をおびた貝製品のひとつで、沖縄貝塚時代前期に一般的にみられ、装飾品の流行が認められる。その他の項としたものにも製作途中及び破損品もみられ今後の類例をまって検討させるものと思われる。

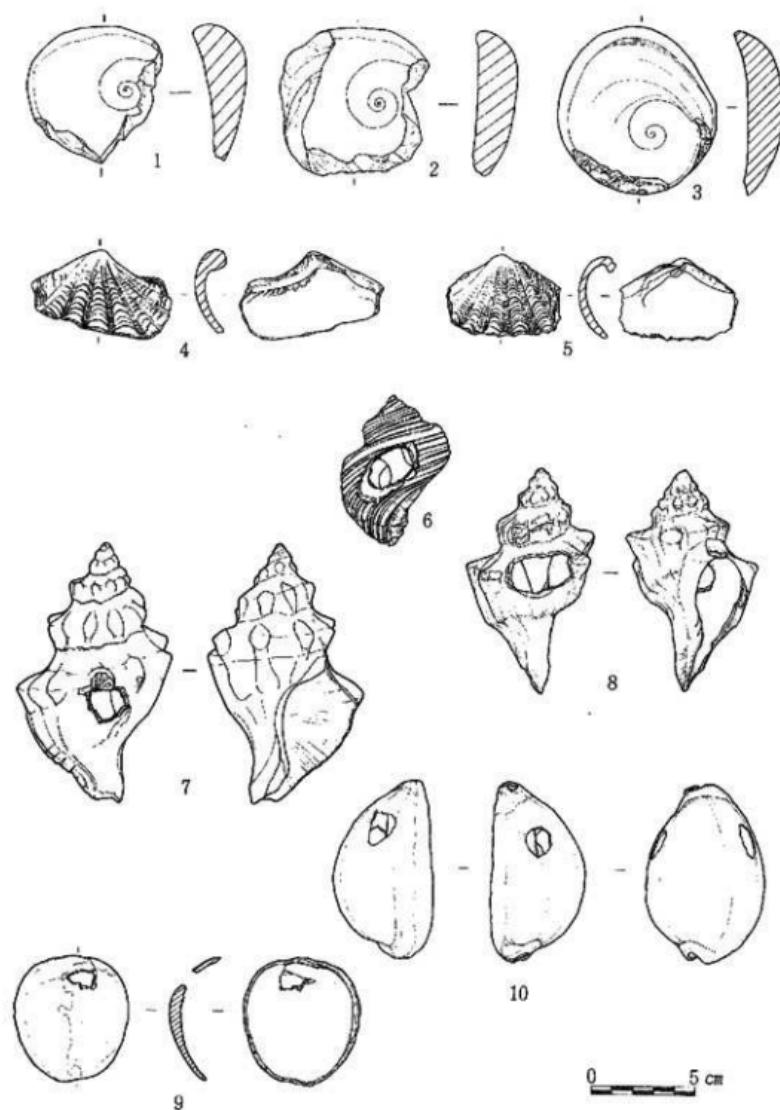
以上、貝製品の概略の述べたが、砂丘上の生活において、たくみに身近な素材をもちいて、多様な利器、容器、生産具、装飾品がつくられていることが知られた。

## 参考文献

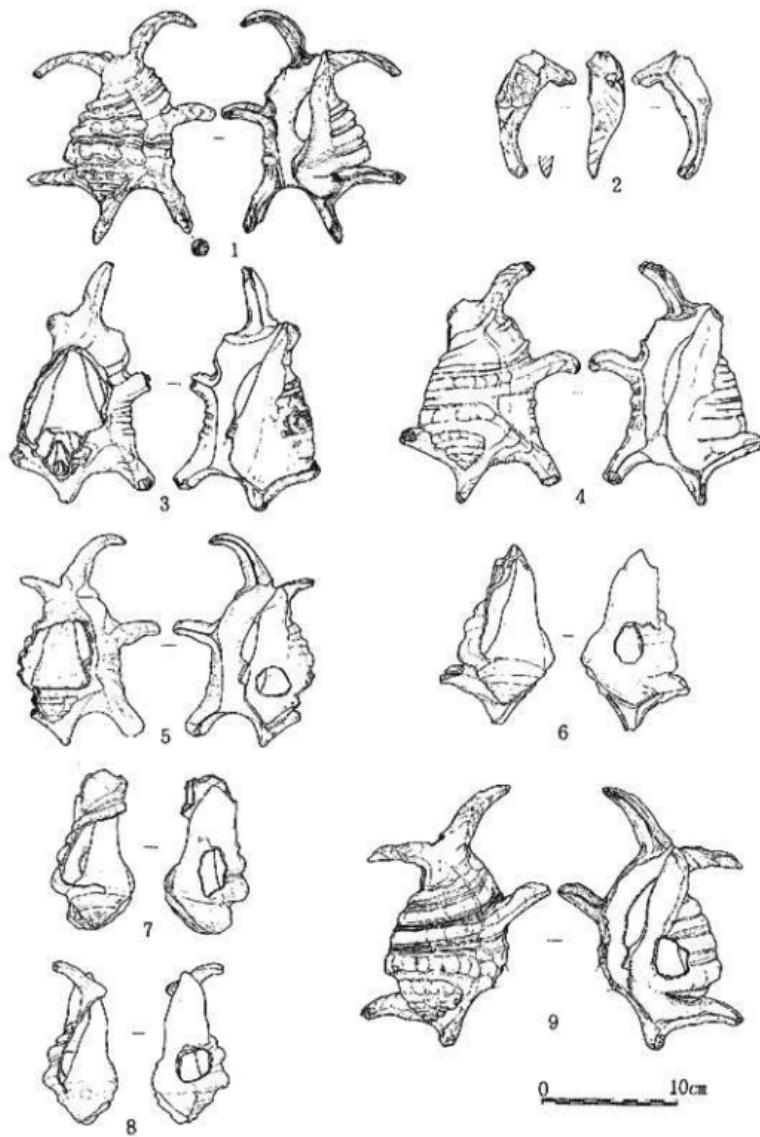
- ① C・W・ミーヤン 知念村熱田原貝塚発掘概況 沖縄文化財調査報告 1958 年  
高宮 広衛



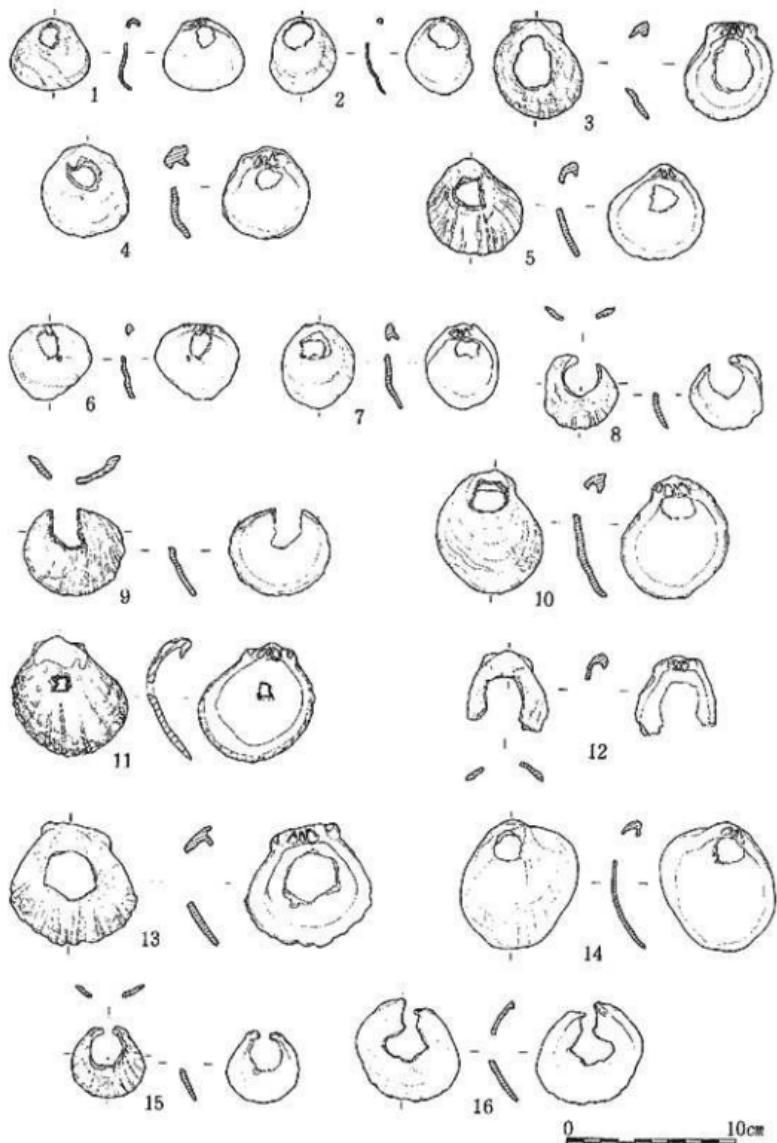
第15図 骨牙製品、貝刃



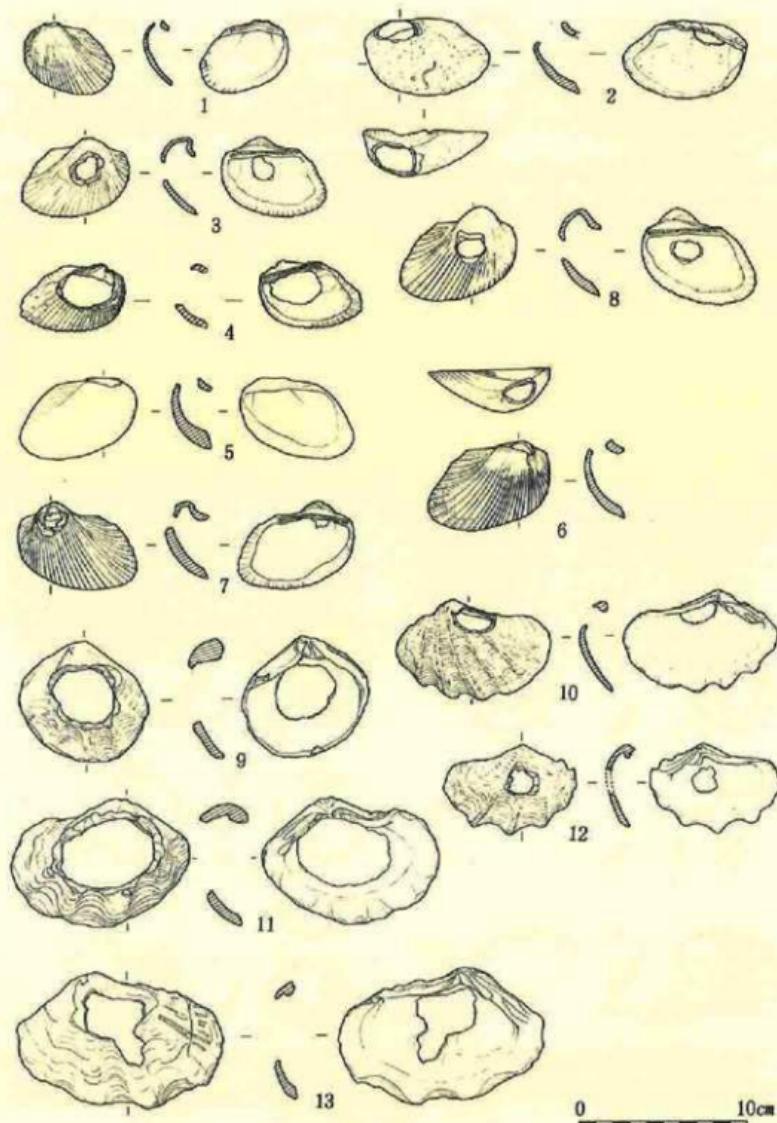
第16図 貝製品



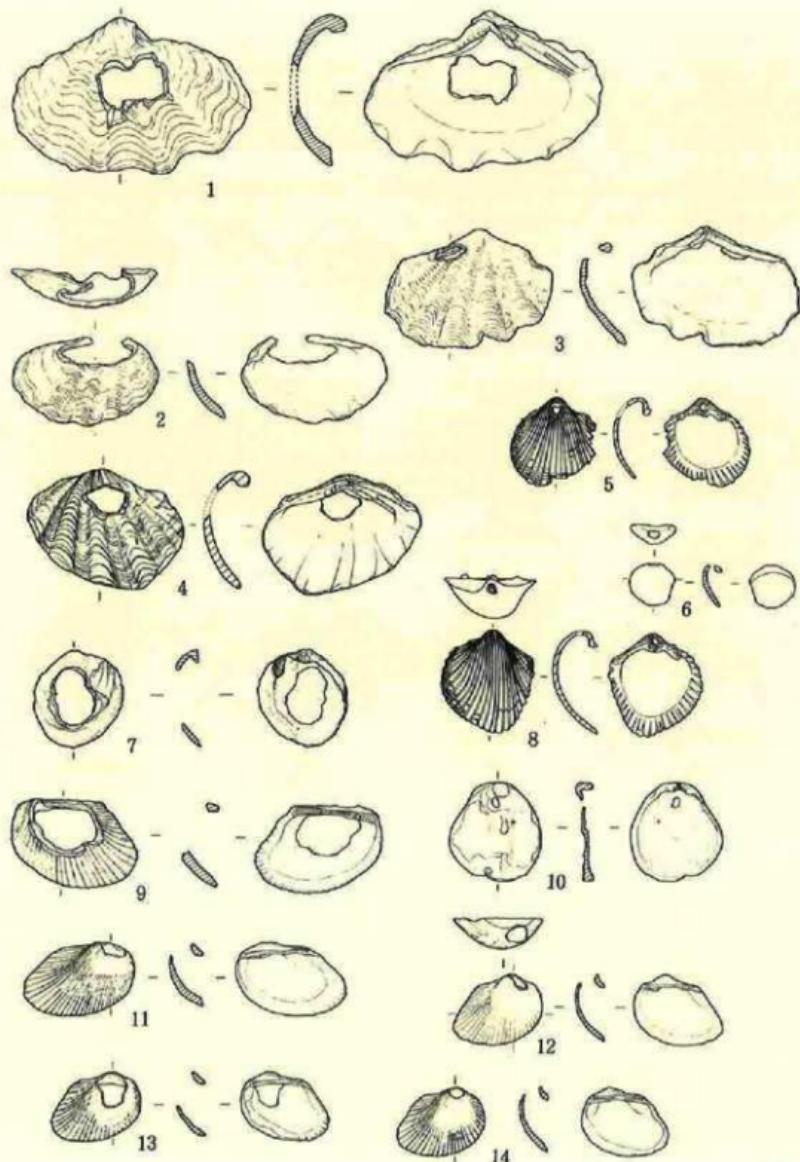
第17図 スイジガイ製利器



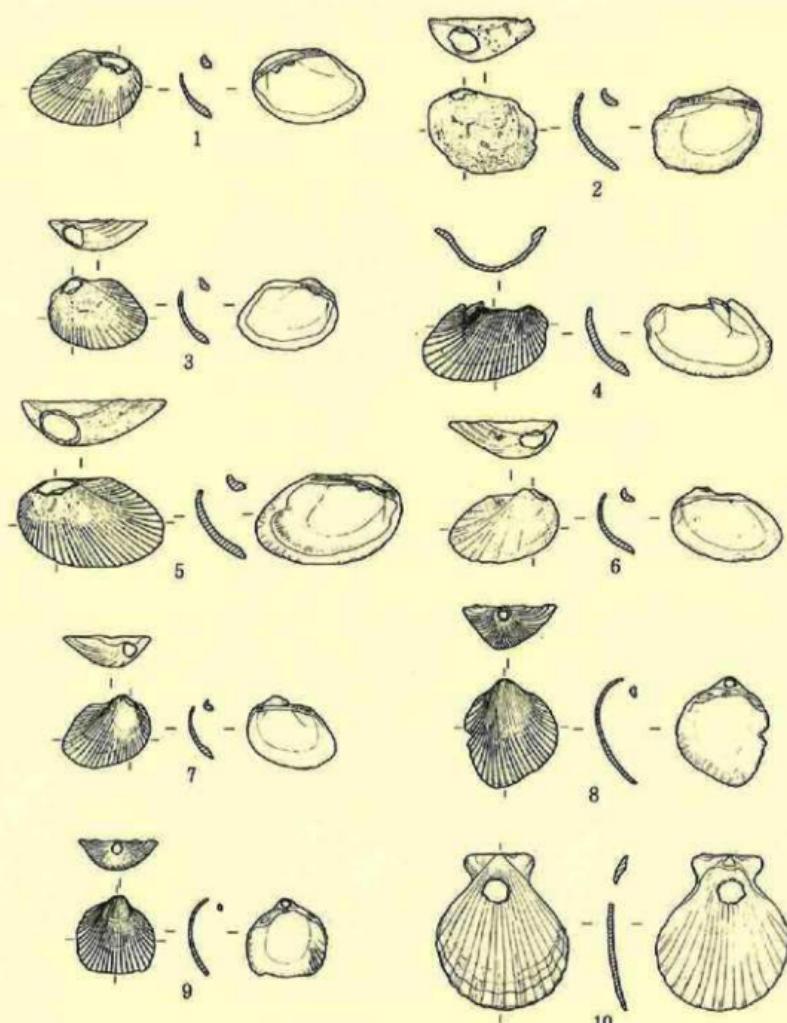
第18図 二枚貝有孔貝製品



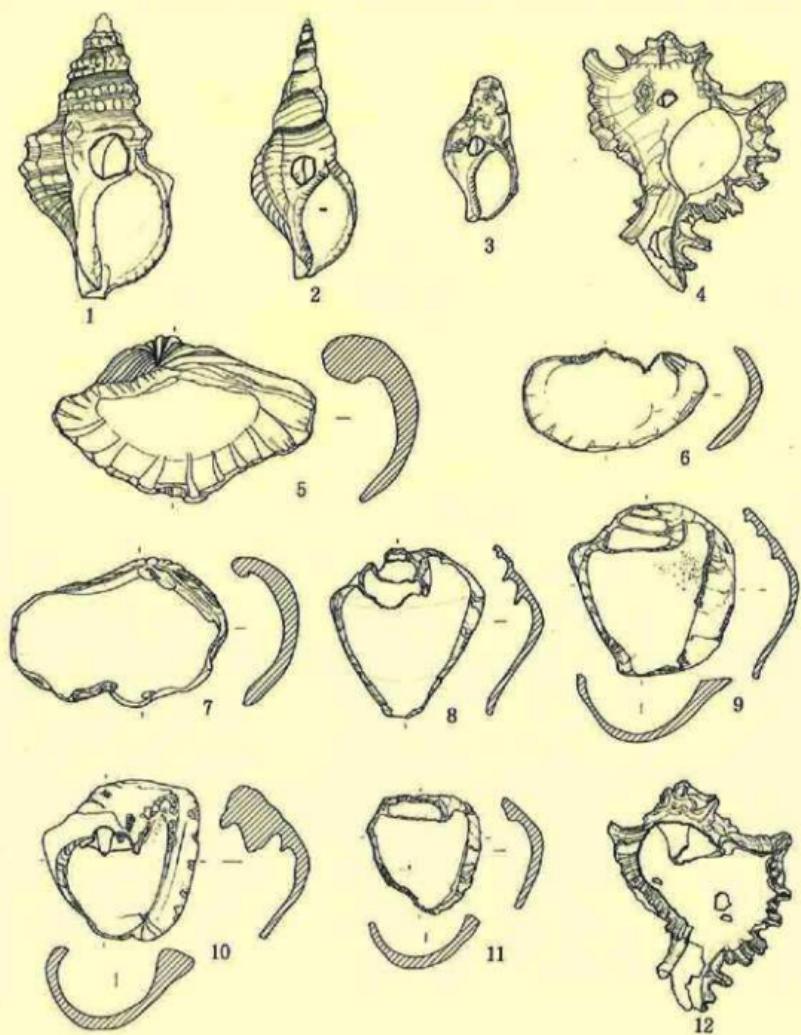
第19図 二枚貝有孔貝製品



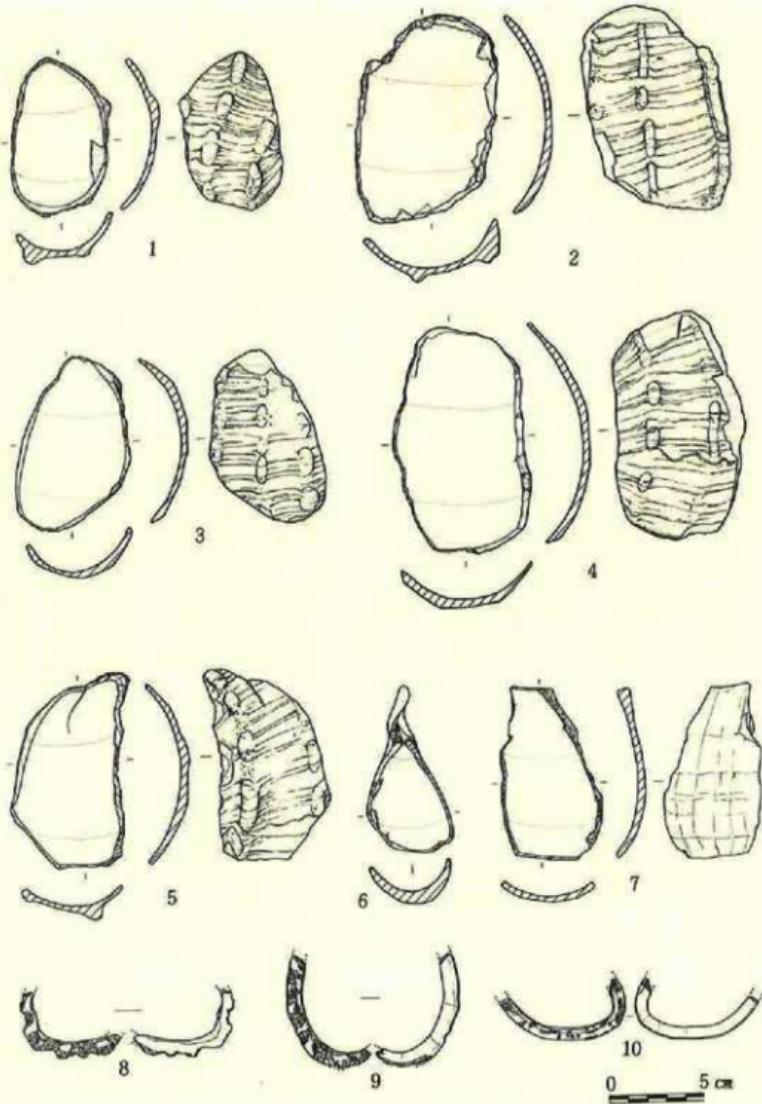
第20図 二枚具有孔貝製品



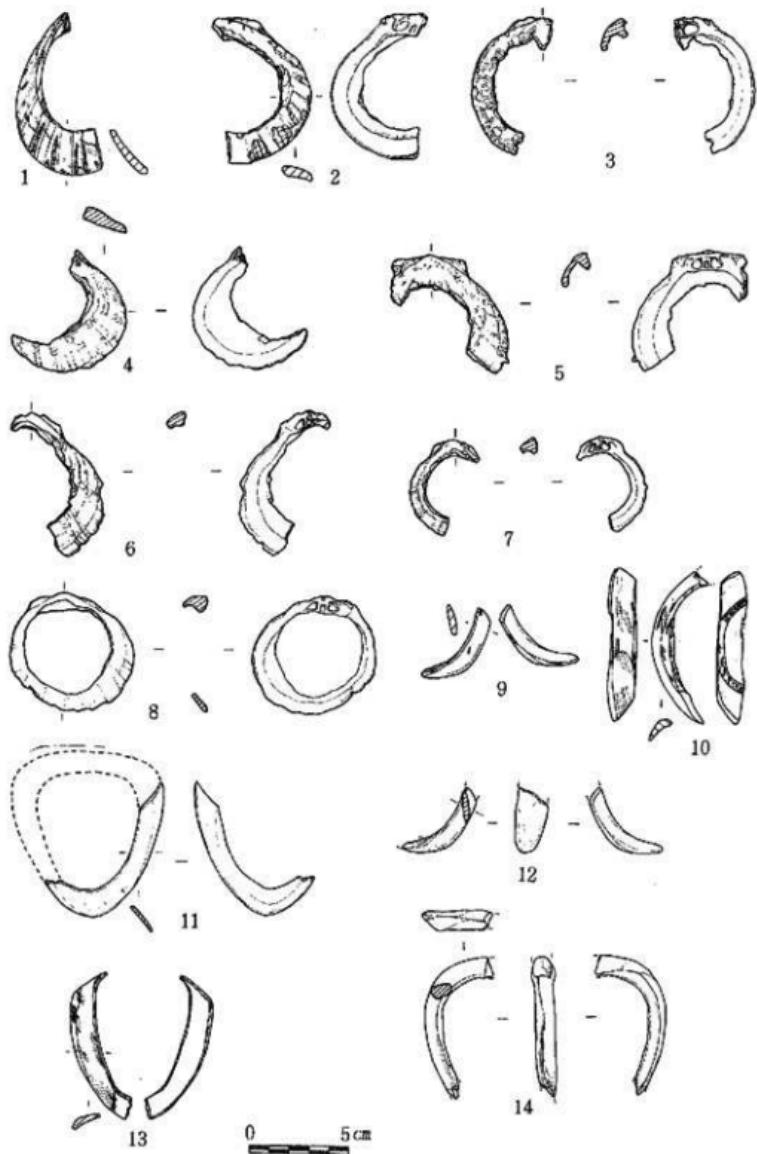
第21図 二枚貝有孔貝製品



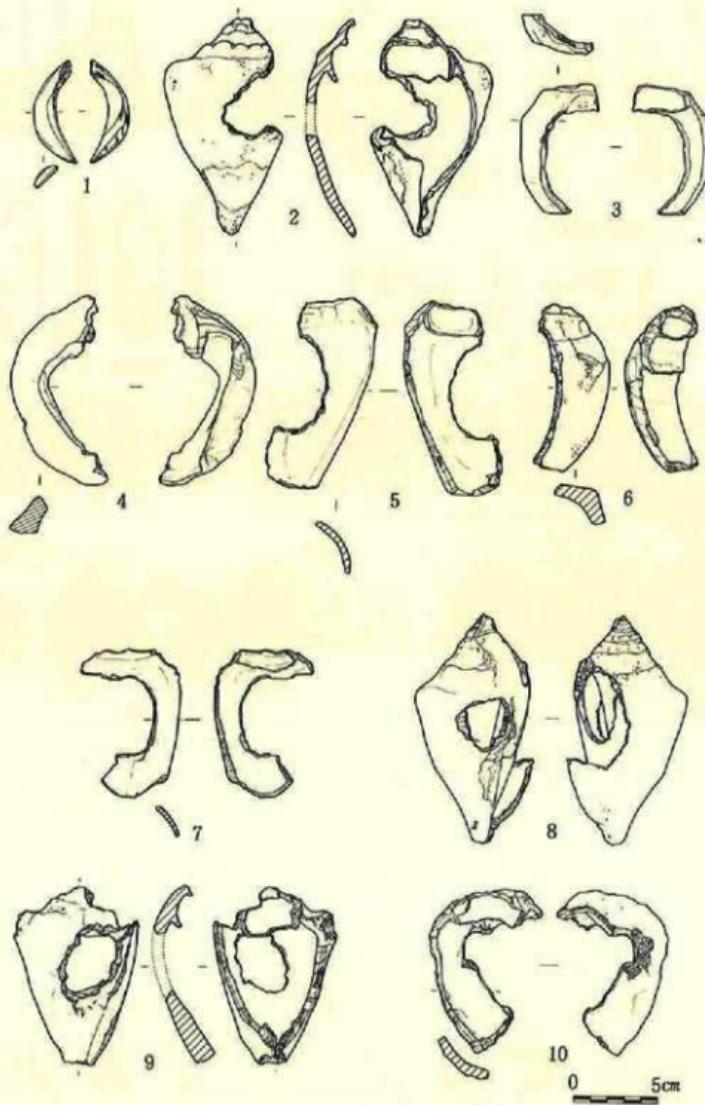
第 22 図 貝製品



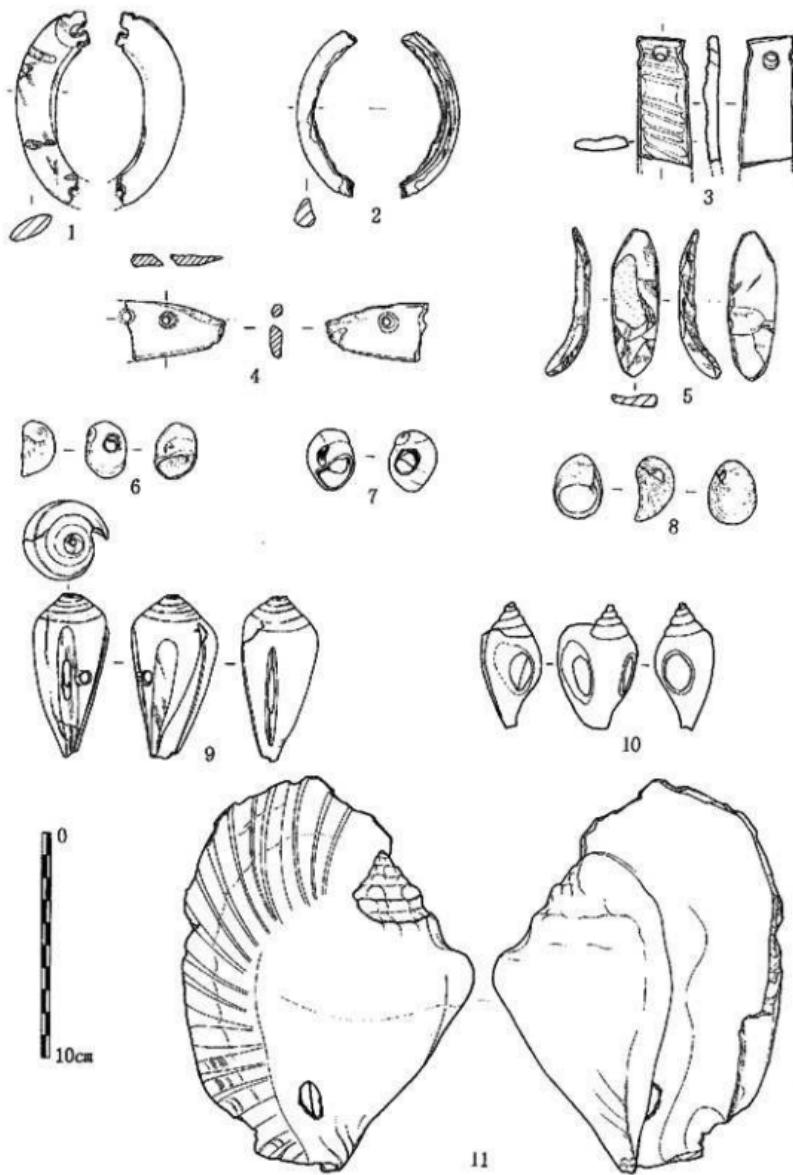
第23図 貝製品



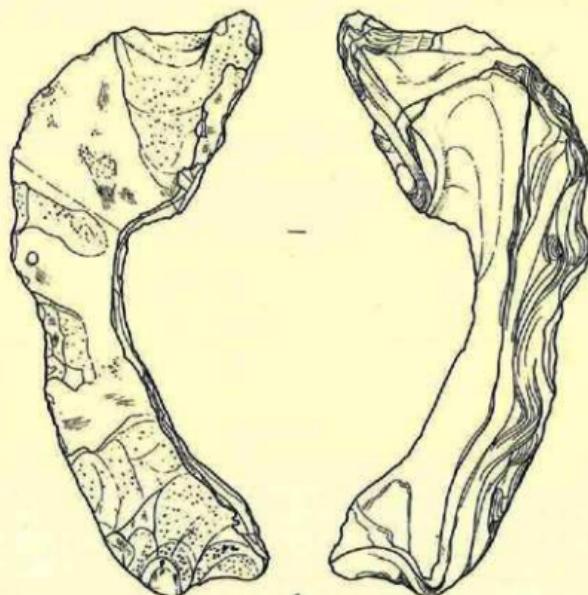
第24図 貝製品



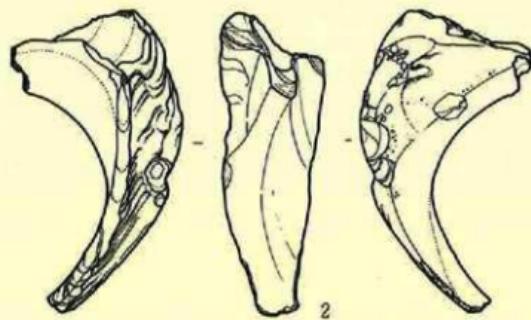
第25図 貝製品



第26図 貝製品



1



2

0  
10cm

A vertical scale bar indicating a length of 10 centimeters.

第27圖 貝製品

## ハ 石 器

石器は、総数61点得られた。出土量は一次調査区が57点、二次調査区が4点と調査区によって大きな出土差が認められた。ただ出土層は表土層や表採品が全体の68%を示し石器の時期的位置において不明品が多数を占めている。器種は石斧(3)、磨り石(3)、石皿(3)、凹石(10)、敲打器(2)からなり、砂丘地における当該石器の役割のひん度をあらわしている。

以下、調査区と前述の記種の順序で、表で記述を進める。

石 器 出 土 集 計 表

一次調査区

器種 層・遺構	石斧	磨石	石皿	凹石	敲打器	計
表採・第Ⅰ層	1	9	2	8	20	40
第Ⅱ層 搾乱	1				2	3
第Ⅲ層	1	1		1	2	5
第Ⅳ層		1			1	2
第Ⅴ層					1	1
第1号土壤集石遺構		1			1	2
石敷集石遺構					1	1
第2号土壤集石遺構					2	2
第3号土壤集石遺構						
周辺地		1				1
合計	3	13	2	9	30	57

二次調査区

器種 層	石斧	磨石	石皿	凹石	敲打器	計
表採・第Ⅰ層					1	1
第Ⅱ層 0-10					1	1
× 10-20						
× 20-30						
× 30-40						
× 40-50			1			2
× 50-60						
× 60-70						
× 70-80						
× 80-90						
× 90-100				1		1
合計			1	1	2	4

番 号	器種	挿図番号 図版番号	出土地区 と層位	最大長 最大幅 最大厚 (cm)	重量 (g)	石質	事 項
1	石斧	第28図1 図版28	一次調査区 Eトレント テストピット (搅乱)	10.95 4.1 3.05	210	新レイ岩	小形のやや乳棒状を呈した石斧である。全体に細かい敲打調整がなされ刃部のみに研磨が行なわれている。刃部の平面はやや弧状をなし、正面はカモのクチバシ状に湾曲する。側面は片刃に近い両刃である。頭頂部と刃縁の一方に大きな剥離を残す。
2	石斧	第28図2 図版28	一次調査区 Cトレント C70グリット II層10~20cm	9.8	310	砂岩	曲りの著しい扁平の河原礫を素材としたもので、両面及び側面に砥磨がなされている。一方はやや後があり高く、他方面は内湾ぎみにある。刃部は大きく一方の内湾面側に向い剥離している。頭部は水平に欠損。残された刃部の両端縁は、深く側面まで及び円刃を形成していたものと推察される。
3	敲打器	第28図3 図版28	一次調査区 Bトレント 第Ⅲ層(搅乱)	8.55 6.15 4.9	290	シルト岩	敲打した小形椎円体の跡を用いている。長軸の一端部に敲打痕がみられ平坦面に近くなっている。また、一面の中央に径1.5cmの窪みがある。なおこの窪みはやや味があり、敲打痕は風化している。
4	敲打器	第28図4 図版28	一次調査区 Cトレント 表採	10.7 6.85 5.0	410	シルト岩	椎円体をなす河原礫を素材とする、長軸の両端に敲打痕が認められる。比較的粗い。両平面のうち、一方の平坦な部分の中央に約径1.5cmの窪みに近い敲打痕が認められる。
5	敲打器	第28図5 図版28	一次調査区 Cトレント C70グリット II層	12.45 7.7 5.15	570	片状砂岩	尖がりを有する體で、一方の中央部と尖がりの先端部に打痕が残されている。器面の保持は悪く、粗面になっている。
6	敲打器	第28図6 図版28	一次調査区 Dトレント 2号土壠塙石 遺構	15.3 6.4 7.95	690	砂岩	椎円体に近い磨石の欠損品、表面の一部に敲打面が認められる。又側面の一部にも軽微な敲打痕がみられる。全縁にはおよばない。

番号	器種	挿図番号 図版番号	出土地区 と層位	最大長 最大幅 最大厚 (cm)	重量 (g)	石質	事項
7	敲打器	第28図7 図版28	一次調査区 Dトレンチ 表土層	10.9 7.15 4.8	440	砂 岩	手ごろな自然縫を素材としたもので 一方の中央部に径2.5cmの粗い窪 を残す以外は、何ら人工的痕跡はみ られない。
8	敲打器	第28図8 図版28	一次調査区 Dトレンチ 1号土壤集石 置構	12.7 4.9 3.9	340	砂 岩	棒状の自然縫を使用。長軸の一端部 に比較的粗目の敲打痕がみられ、他 方はやや軽微なものが残されている。
9	敲打器	第28図9 図版28	一次調査区 Dトレンチ 2号土壤集石 置構	11.6 7.7 5.5	670	砂 岩	比較的凹凸面を有する自然縫を使用。 曲面をつくる側面に二カ所、敲打による 窪がみられるが、風化が進み、 手触りではなめらかである。平面中央 の一方には2cm台の粗い窪が観察される。
10	凹石	第28図10 図版28	一次調査区 Eトレンチ 表土層	11.0 9.8 5.8	650	砂 岩	欠損品、磨面部に径4cmの深い窪を 有するもので、相対する一方平面は 欠落しているため、その有無は不明 なお、欠落部の縁部は敲打がなされ つぶれており、二次転用石器がうか がわれる。長軸の一端部は広い敲打 面が存在する。
11	敲打器	第28図11 図版28	一次調査区 Eトレンチ I層	13.0 8.1 4.2	610	砂 岩	偏平、梢円の自然縫。短軸の両側面 には風化が進むが、浅い窪がみられる。 平面の一方はやや平坦ではある が磁磨はさほど認められない。
12	磨石	第29図1 図版29	一次調査区 Eトレンチ 表土層	16.7 8.0 6.4	910	片状砂岩	挿図6に近い梢円体磨石の欠損資料、 両平面は砥磨面になる。側面の中央 部に2.5×3cmの風化の観察される 窪が存在する。
13	敲打器	第29図2 図版29	一次調査区 Eトレンチ 表土層	10.7 8.9 5.2	690	砂 岩	クサビ形をなす自然縫で、形状を整 えたような加工痕は一切みられない。 石器とした根拠は、両面中央にある 比較的軽微な敲打痕で若干窪む程度 にある。
14	凹石	第29図3 図版29	一次調査区 Eトレンチ 4号試掘	11.0 11.1 7.7	1,495	砂 岩	大形の磨石片、一方の平坦部には径 5~6cmの窪をつくる。なお、この 面は、きわめて細かい敲打からなる。

番号	器種	挿図番号 図版番号	出土地区 最大位	最大長 最大幅 (cm)	重量 (g)	石質	事項
14			II 層				両側面にも同様の敲打面がみられるが、産みはいたっていない。
15	敲打器	第29図4 図版29	一次調査区 Cトレント 表土層	11.55	380	砂 岩	偏平のやや長方形状をした縦で、長軸の一端縁部に敲打痕がみられる。短軸の両側は抉りをなし、一方は明らかに敲打による調整で加工したもので、他方は自然のものである。
16	敲打器	第29図8 図版29	一次調査区 Dトレント 表 採	10.1 7.15 5.0	540	砂 岩	調整打痕はみられないが、全体がクサビ形を呈した資料である。斜面を有す両面とも対面に比べ磨り面が著しい短軸の両側面に風化の進行した浅い窪が存在する。なお、平坦面の一方の中央に径2cm程の敲打痕が残されている。一方の面が平坦になった梢円体の磨石。側縁の一カ所に径2cm程の軽微な敲打痕が観察される。
17	磨石	第29図6	一次調査区 Dトレント D-71 III層20-30cm	10.25 10.1 7.1	985	チャート	外観が円体を呈する。両平面に磨面が存し、その一方面の中央に軽微な敲打痕がみられる。側縁は相対応する比較的広い敲打面つくり、一方は一部大きく欠落している。なお、この敲打面自体は風化が進行している。
18	磨石 敲打器	第29図7 図版29	一地調査区 Dトレント D-74グリット II層	10.3 8.65 4.45	530	砂 岩	磨石の欠損品で、欠落部の縁部が敲打されているため石器として取り上げた。全体形は、クサビ形様にもとれるが最も近いものに挿図8に酷似する。
19	敲打器	第29図5 図版29	一次調査区 Dトレント D-70グリット II層	10.3 5.0 2.25	130	砂 岩	長軸に湾曲した偏平棒状の河原礫の盛り上がった平面中央に径1.5cmの敲打痕が認められる。
20	敲打器	第29図9 図版29	一次調査区 Dトレント D-71グリット IV層10-20cm	8.35 5.35 3.35	100	サンゴ片	サンゴの小礫を素材としたもので、手持はきわめて軽い。一方面のみに4cm×2.5cmの粗い敲打のみられる窪をつくっている。その他の器面は

番号	器種	鉢図番号 図版番号	出土地区 と層位	最大長 最大幅 最大厚 (cm)	重量 (g)	石質	事項
							風化し磨面をなしている。
21	敲打器	第30図1 図版30	一次調査区 Dトレンチ 石散集石道橋	12.2 8.2 4.8	610	角閃安岩	一方が尖がった河原疊の欠落部を素材とした資料、平面をもつ一方の中央に約2cm(直径)の窪をつくっている。尖がった先端にも細かな敲打痕が認められる。
22	敲打器	第30図2 図版30	一次調査区 Eトレンチ Ⅲ層	8.4 5.4 4.0	220	砂岩	立体観がやや靴形をした小礫で、盛り上がった面の中央部に径1.5cmの敲打による窪がみられる。その他は何ら加工はされていない。
23	磨石	第30図4 図版30	一次調査区 Fトレンチ 表土層(擾乱)	11.1 9.6 5.2	1,060	角閃安山岩	形の整った略方形をなし、短軸の横断面では格円形を呈した磨り石である。両面に細かい擦痕が無数にみられる。長短両軸の側面は敲打がなされいすれも浅い窪をなしているが全面とも打面は風化していて、手触は良くなっている。
24	四石	第30図3 図版30	一次調査区 Fトレンチ 表土層	8.3 5.6 3.1	240	砂岩	上記資料と同じく完形で均整のとれた小形の石鹼状を呈した両面溝みの石器。側縁は細かい敲打痕がめぐり長軸の両面は湾曲面をつくり、短軸の両面は浅い凹み(抉りに近い)をつくっている。なお、長軸の一端部に大きな剥離痕を残している。
25	敲打器	第30図5 図版30	一次調査区 Fトレンチ 表土層	7.0 10.5 5.1	460	砂岩	欠損品。欠損した平面の中央部(一面のみ)に径3cmの粗目の敲打面が観察される。器面には研磨はみられず、自然縁を素材していたものと考えられる。
26	石皿	第30図6 図版30	一次調査区 Eトレンチ 表土層	18.3 19.4 6.6	2,500	片状砂岩	斜面をもつた四角形台状のものである。上面はやや砥磨がなされ平坦になるが入念なものではない。上面の側縁一部は盛り上がり、浅い溝状をつくっている。他面は何ら加工はされず自然面を呈している。

番号	器種	挿図番号 図版番号	出土地区と層位	最大長 最大幅 最大厚 (cm)	重量 (g)	石質	事項
27	凹石	第30図8 図版30	一次調査区 表土層	15.15 10.3 6.8	1,740	礫質砂岩	完形資料。石鹼状を呈する。両平面とも磨面が広くあり、光沢を帯びる滑面を呈す。短軸の一方側は抉りをつくり他方側は研磨による平面をつくる。又、その中央部にわずかに敲打による浅い窪みが存在する。
28	磨石	第30図7 図版30	海岸採集	6.9 6.5 4.6	340	角閃岩	石器の再使用とみられるもので、一平面は他面に比較して新しい整形加工面をつくる。全体観が鏡餅状を呈し、上面は砥磨のなされ、中央部に軽い敲打痕が残されている。外周縁部は当初の石器時の整形打痕が覆う。
29	敲打器	第31図1 図版31	一次調査区 表採	7.7 7.2 5.8	365	砂岩	一部削れてはいるが、球状を呈する蹕で、割れと相対応する曲面の一部に敲打痕が観察出来る。軽い敲打痕になり、窪にはいたっていない。
30	敲打器	第31図2 図版31	一次調査区 Eトレーンチ 盛砂	12.2 8.9 6.3	840	砂岩	一部綾をもった円蹕で、一平面の中央部と短軸の側面一部に軽微な打痕を残。全体は自然面そのままの状況で加工痕は観察されない。
31	凹石	第31図3 図版31	一次調査区 Eトレーンチ 盛砂 (表土)	11.8 8.6 4.4	400	砂岩	風化の著しい蹕で欠損している。一平面の中央部に径2.5cmの比較的深い窪みをみるとができる。短軸の両面には抉り状の湾曲した窪みが形成されている。
32	敲打器	第31図4 図版31	一次調査区 Eトレーンチ 盛砂 (表土)	15.5 11.5 3.0	640	片状砂岩	平盤な自然円蹕。相対する長・短軸の端部に打痕がみられ、また一方とも軽い打痕が残されている。
33	敲打器	第31図5 図版31	一次調査区 表採	11.3 8.8 5.6	795	チャート	河原の自然円蹕を採用したもので、何ら成形加工はみられない。ただ一方の平面中央部に窪みいたらない敲打痕が存する。径1.5cm。
34	磨石	第31図7 図版31	一次調査区 表採	8.6 8.15 6.7	600	チャート	台形状の一部平面が大きい蹕を素材としたもので、平面の大きい部分は砥磨がみられる。側縁部には軽い敲

番号	器種	挿図番号 図版番号	出土地区 図版番号	最大長 最大幅 最大厚 (cm)	重量 (g)	石質	事項
34	磨石	第31図7 図版31	一次調査区 表 採	8.6 8.15 6.7	600	チャート	台形状の一部平面が大きい疊を素材としたもので、平面の大きい部分は砥磨がみられる。側縁部には軽い敲打痕が認められる。
35	敲打器	第31図6 図版31	二次調査区 54 グリット I 層	11.2 7.4 4.35	515	砂 岩	偏平の河原疊を素材としたものである。一平面中央部分に敲打痕がかすかに残されている。また側縁の一端にも敲打痕がみられ、そこは抉りに近い窪をなしている。
36	敲打器	第31図8 図版31	二次調査区 42-44グリット II 層 (搅乱)	5.7 8.25 4.3	290	礫質砂岩	半裁した円疊の一部である、両側縁部と湾曲部の頂部にそれぞれ軽い敲打痕が認められる。他は自然面のままである。
37	石皿	第31図9 図版31	二次調査区 58 グリット II 層 45	21.3 15.4 2.5	885	砂 岩	平盤な小形疊を素材としたもので、両面とも強い皿状の窪を形成する。なお、窪は漸次波状的なものでスムーズに底面にはいたっていない。中央より欠折し二分される。
38	凹石	第31図3 図版32	二次調査区 56-58グリット II層90-110cm	11.4 8.7 6.1	250	怪 石	特殊な石器ではなかろうか。形状はこれまでのものと変らず両平面の中央に敲打による窪を形成し、長軸の両端には敲打痕を短軸の両側面にも同様の敲打による抉りを加工している。
39	石皿	第32図1 図版32	一次調査区 Dトレンチ D - 76 表 土 層	19.65 19.85 7.2	3,500	砂 岩	欠損品。台石状の中央面に溝状の深い凹をなすもの、両面からなされている欠損した両面の間の厚さは0.9cm弱である。砥磨面はきわめて丁寧なもので一様になされている。
40	敲打器	第32図2 図版32	一次調査区 表 採	7.65 6.4 3.85	250	砂 岩	小形円疊をそのまま使用。一方の平面に浅い敲打による窪を形成。側縁の一端にも同様の窪をみると、やや磨面をともなう。
41	敲打器	第32図4 図版32	一次調査区 表 採	10.5 10.0 3.35	445	片状砂岩	偏平の円疊を使用。一平面は砥磨が認められ、その中央に軽い敲打がなされている。相対応する縁部には敲

番号	器種	挿図番号 図版番号	出土地区と層位	最大長 最大幅 最大厚 (cm)	重量 (g)	石質	事項
41							打がなされ、やや軽い抉りをもつて いる。
42	敲打器	第32図6 図版32	一次調査区 表 採	12.15 9.15 4.2	600	砂 岩	偏平の橢円錐を素材としたものであ る。一平面と長軸の一端部に軽微な 敲打痕がみられる。
43	凹 石	第32図7 図版32	一次調査区 表 採	8.0 5.2 4.7	245	砂 岩	ややいびつな小砾である。相対応す る平面部に $2.0 \times 4.0$ cm の窪みと、 $1.5 \times 2.0$ cm の窪みがそれぞれ存在 する。その他の面には何ら加工はみ られない。
44	凹 石	第32図5 図版32	一次調査区 表 採	8.2 8.8 5.6	415	砂 岩	半裁した自然砾を採用したもので、 平坦面をもつ両面中央に敲打による 窪を形成する。一方は径 2.0 cm、他 方が 3.5 cm と後者が敲打目は粗い。 外側縁にも三カ所において軽微な敲 打が認められる。
45	敲打器	第33図1 図版33	一次調査区 Cトレーナ II 層	6.1 6.25 3.6	195	砂 岩	欠損品、偏平橢円体をなしていたも のとみられるが半裁している。両側 縁、残された頂部、及び平面の一方 面に敲打痕が認められる。
46	敲打器	第33図2 図版33	一次調査区 Dトレーナ I 層	10.5 5.5 3.8	320	砂 岩	やや棒状を呈する完形石器である。 長軸の一端部は敲打がなされ、やや 平坦面をつくる。短軸の両側部にも きわめて軽い打痕が認められる。両 平面には敲打がなされ、一方は若干 浅い窪をつくるまでになっている。
47	磨 石	第33図3 図版33	一次調査区 Eトレーナ 表 採	11.0 8.15 5.3	690	砂 岩	研磨面を一面のみ残し、他は粗削面 で覆われた石敲状の石器である。磨 面には擦痕が明瞭に認めることが 出来る。
48	凹 石	第33図4 図版33	一次調査区 D 地 区 表 採	15.8 10.45 7.0	1,360	砂 岩	一方が節理面から剥離した橢円形 状の石器である。欠損面は自然面の まま放置してあるが縁部は風化が進 行し稜はなくなっている。一方の平 面は磨面からなり、中央部に径 2 cm

番号	器種	挿図番号 図版番号	出土地区 と層位	最大長 最大幅 最大厚 (cm)	重量 (g)	石質	事項
							の敲打による痕が存在する。長・短軸の端部にも軽い敲打痕がみられる。
49	敲打器	第33図5 図版34	一次調査区 Eトレンチ 盛砂 (表土)	11.0 7.6 3.7	420	砂 岩	河原の礫を素材としたもので、一面の中央部に1.5cm~2.0cmの敲打による痕をつくっている。他は自然面をそのまま残す。
50	磨石	第33図6 図版34	一次調査区 Dトレンチ 一号遺構内 下層部	8.2 9.1 5.2	640	チャート	一方が湾曲した椭円体様。湾曲部の一面に磨研面が残されているのみ。他は一切の人為的成形面はみられない。
51	敲打器	第33図7 図版34	一次調査区 表面採集	8.25 6.45 6.45	330	砂 岩	石器の欠損品で残された両面に浅い敲打痕が認められる。一方が径3cm他方が2cmを測る。
52	石斧	第33図8 図版34	一次調査区 Cトレンチ 表土	13.2 4.6 2.3	195	片状砂岩	刃部を大きく欠いた石斧の欠損は長軸に走る節理に沿っている。偏平の磨製石斧であるが、当初の整形打痕は部分的に完全には消しきっていない。刃部側面附近のみに側面研磨による稜がみられる。頭頂部は尖がり刃部に向かって広がる形態。刃部は先述の如く破損するが頭頂部はなんら欠損はみられない。
53	凹石	第33図9 図版34	一次調査区 Dトレンチ 表土	16.0 7.7 3.0	690	砂 岩	石槌状を呈した石器であるが、長軸に半截している。長軸の両端は平坦な敲打面になる。短軸の一方は風化した敲打面が存し全体観が抉りをなしている。保存された平面の中央に直径3cmの凹が認められる。
54	磨石	第34図2 図版33	一次調査区 Cトレンチ 表土	8.2 5.9 5.1	440	砂 岩	外観が小形の立方体を呈した磨石である。表裏面は中央が盛り上がった磨面を呈し、光沢を有するほどである。長短軸の側面は細い敲打面からなり、とくに短軸の側面はやや抉りに近い浅い凹が存在する。

番号	器種	挿図番号 図版番号	出土地区 図版番号	最大長 最大幅 最大厚 (cm)	重量 (g)	石質	事項
55	磨石	第34図1 図版34	一次調査区 Cトレンチ 表土	16.3 11.8 7.3	1,870	砂岩	大形の梢円形を呈した磨石で欠損品している。表裏面は磨石になり、側縁は敲打痕が残されている。平面の一方中央に軽微な打痕が認められる。なお、欠損面はいずれも風化が進行している。
56	敲打器	第34図5 図版34	一次調査区 Fトレンチ 表土	12.6 5.3 4.2	400	砂岩	やや棒状に近い自然礫を素材としたもので、長軸の両端部に軽微な敲打痕が残されている。
57	磨石	第34図6 図版33	一次調査区 表土	15.0 11.2 6.1	1,750	砂岩	平面が半月状の磨石で、表裏面は研磨がなされ、外周縁は細かな敲打痕が残っている。なお一部欠損しているが、著しく風化していて、さらに敲打整形がなされている。表裏面中央に敲打痕が認められる。この石器はいわゆるクガニ石と同類のものである。
58	敲打器	第34図3 図版34	一次調査区 表土	12.0 8.8 6.5	925	砂岩	磨面からなる河原礫で、長軸の一端部と一平面の中央にいずれも軽微な敲打痕が残されている。
59	敲打器	第34図8 図版34	一次調査区 Cトレンチ 表土	11.0 7.5 5.2	500	硫球石灰岩	自然礫を使用したもので、長短軸の両端部及び表裏面中央に敲打痕が残る。他は自然面からなり何ら加工は認められない。

石器の石質別集計表

石質 器種	礫質 砂岩	砂岩	片状 砂岩	シリト岩	チャート	琉球石灰岩	サンゴ	角閃玲岩	角閃岩	角閃安山岩	斑レイ岩	輕石	計
石斧			1								1		2
磨石		6	2		4				1	1			14
石皿		1	1										2
凹石	1	8										1	10
敲打器	1	23	3	2	1	1	1	1					33
小計	2	38	7	2	5	1	1	1	1	1	1	1	61

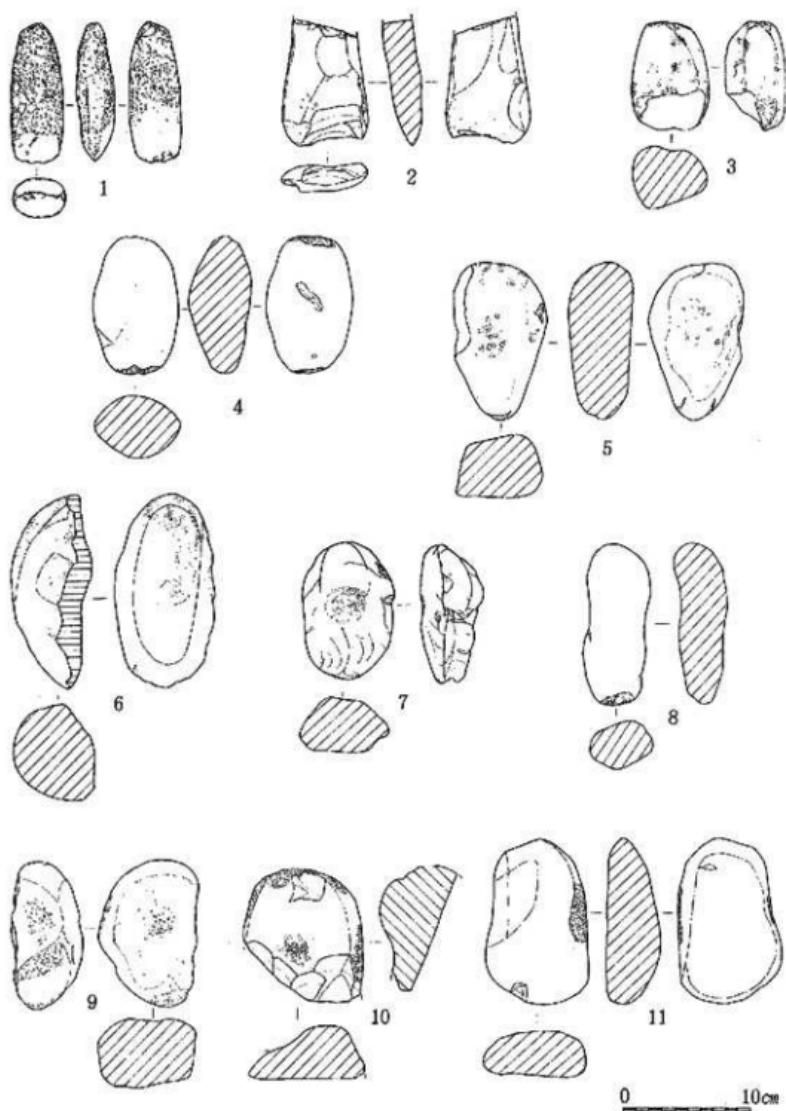
## 小 結

石器は敲打器（32）、凹石（10）、磨石（13）、石斧（3）、石皿（3）等の5器種からなり総数61点検出されている。出土石器のうち最も多く得られている器種は敲打器であり、また機能的には凹石、磨石にも敲打器を兼ねるものがほとんどでその出土量は石器全体からみると90%を占め、伊武部貝塚の主要石器であることが知られる。この種の石器は、そのほとんどが、河原の自然円礫類を素材としたもので明瞭な加工痕を残すものは少ない。その石質は砂岩及び片状砂岩（井1）が多く、まれにサンゴ、軽石等を使用したものもみられる。砂岩及び片状砂岩は貝塚立地の場所および近辺には名護層、嘉陽層に分布し、サンゴ片、軽石等をふくめいずれも身近なものが採用されている。なお、出土層は表上層及び搅乱層が大半を占め、明確な時期設定をする資料は少ないが、逆に各時期に採用されうる有効な石器であることを結果として明示しているとも考えられる。

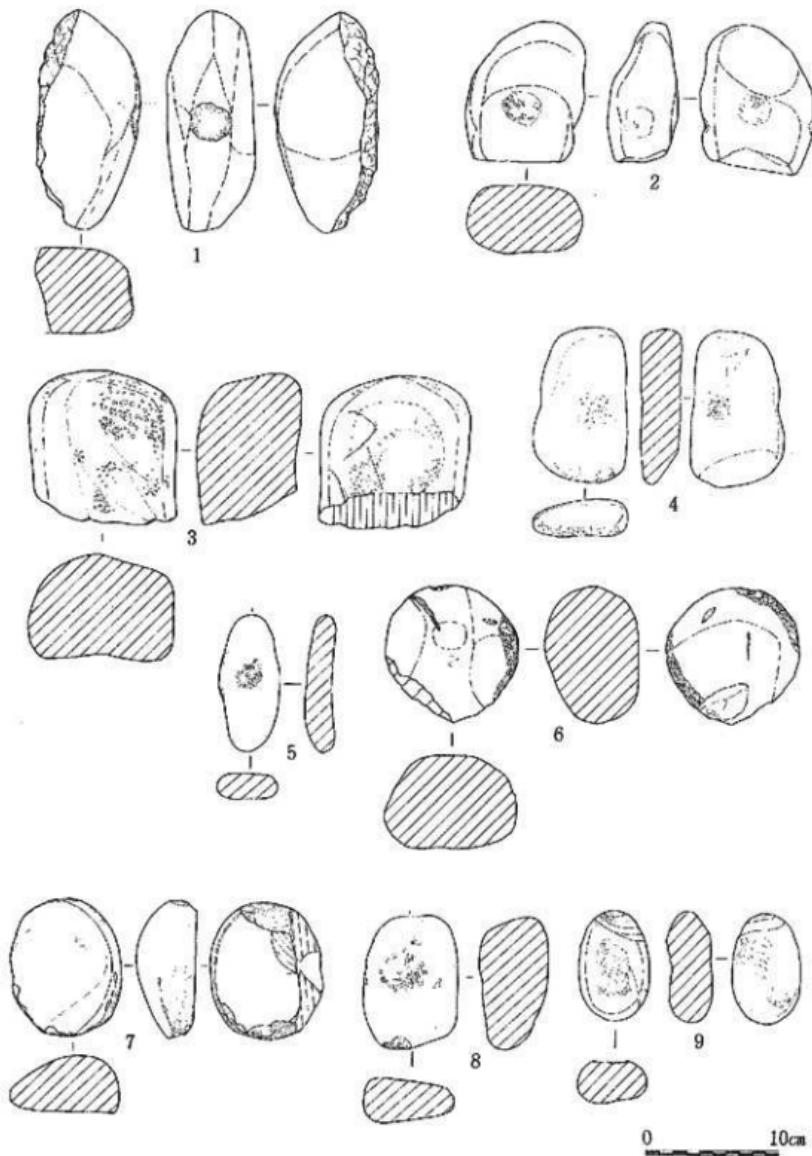
敲打器の対象は、やはり多量に検出されている貝類であろう。この種の石器は土俗例や、礁原内からの発見例からもうかがわれ、砂丘生活における海への依存度を強く示している。一方、石斧は微弱な出方をするのが特徴的である。従来沖縄貝塚時代前・中期にあっては石斧は多く生産され一般的であるため、同伊武部貝塚はやや異質である。これは当該地の後背部が急斜面で山がせまる砂丘地で、その生活空間がかぎられるという状況を反映しているようにもみられる。大形利器の必要度は、敲打器に比して低かったものと思われ、石器全体から観て生業の場を海の幸に主としてもとめていることがうかがいしれる。

## 参 考 文 献

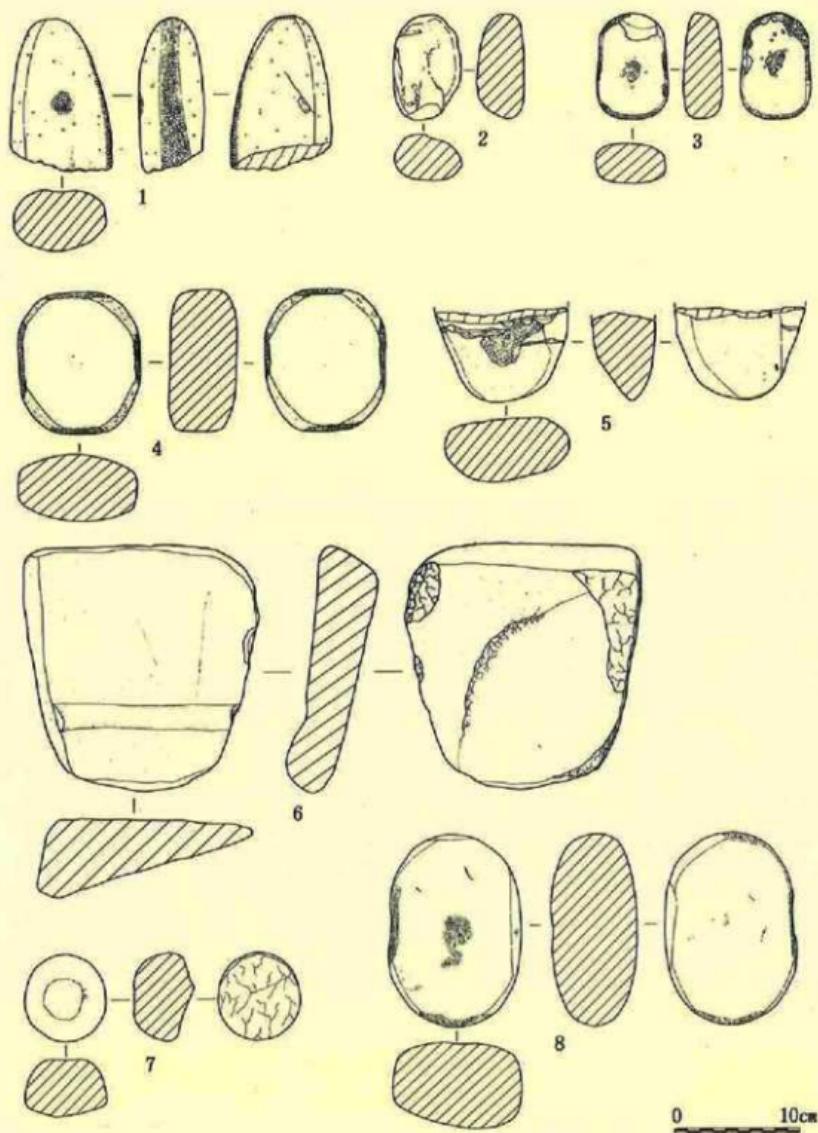
1. 県博物館学芸員、大城逸朗氏の教示による。
2. 宋文薰 「凹石の用途」民族学研究22巻 1963年
3. 知名定順 「沖縄本島糸満市名城海岸リーフ採取の石器について」1979年



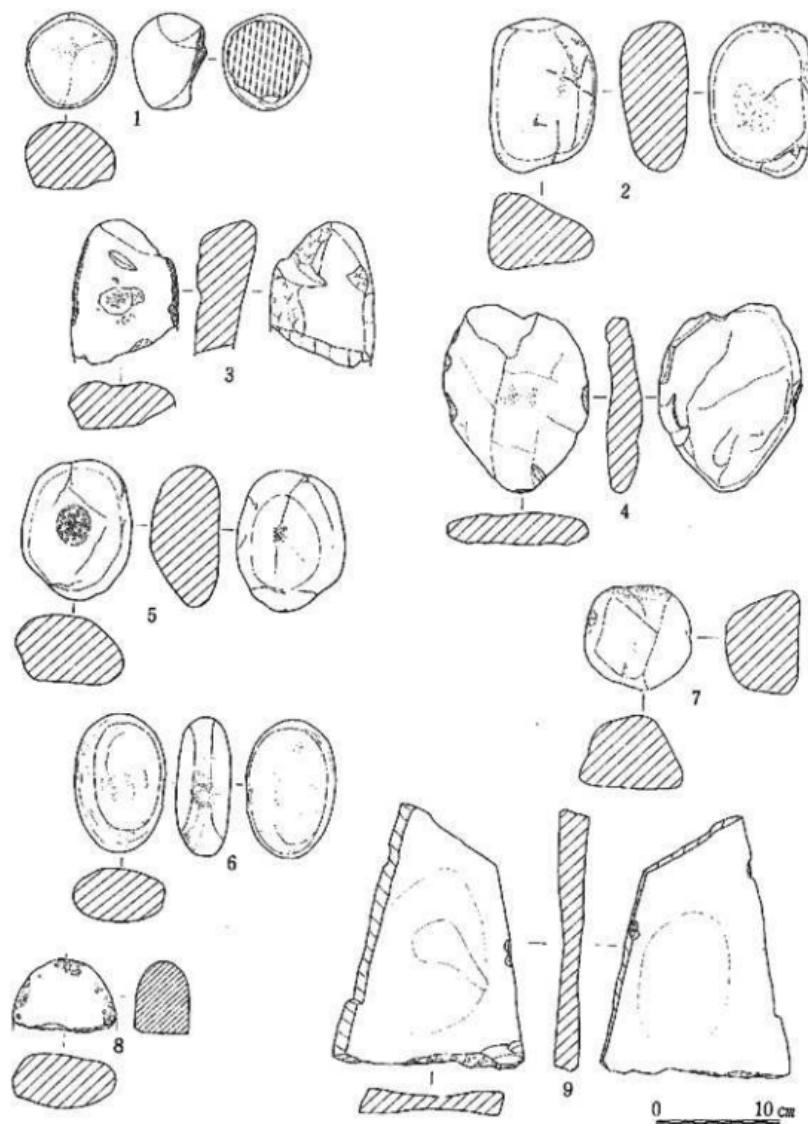
第28図 石 器



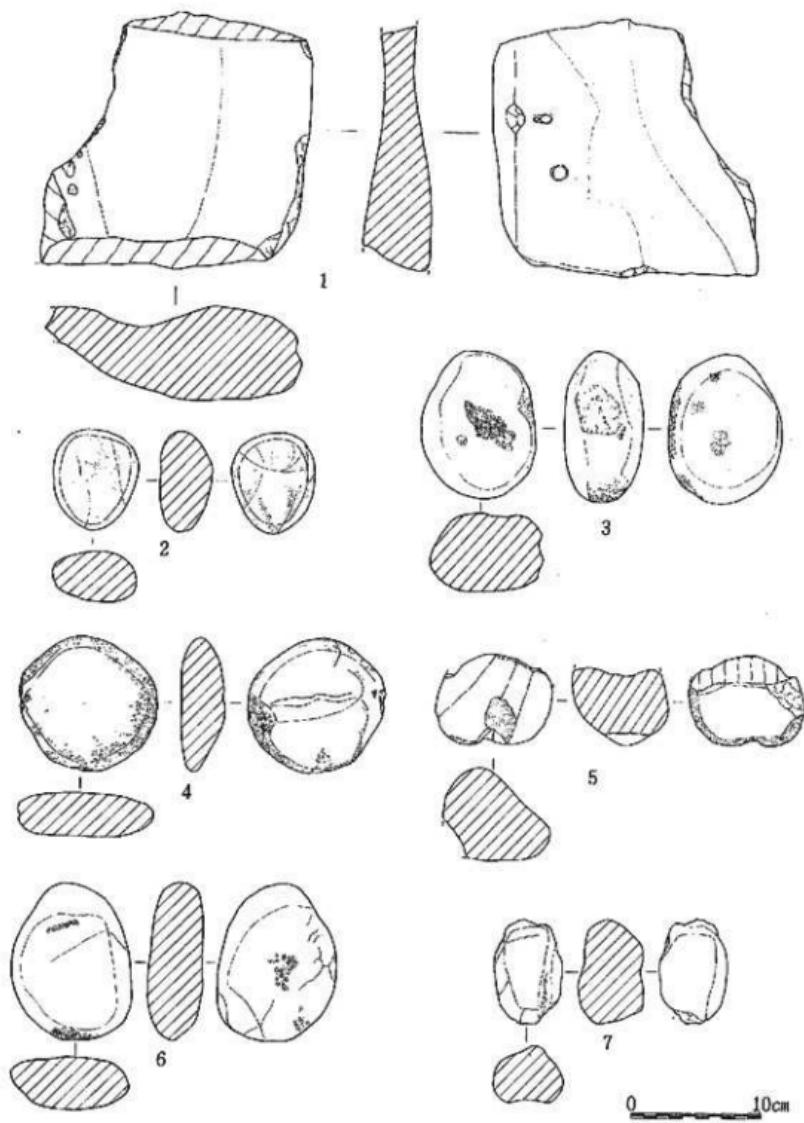
第29図 石 器



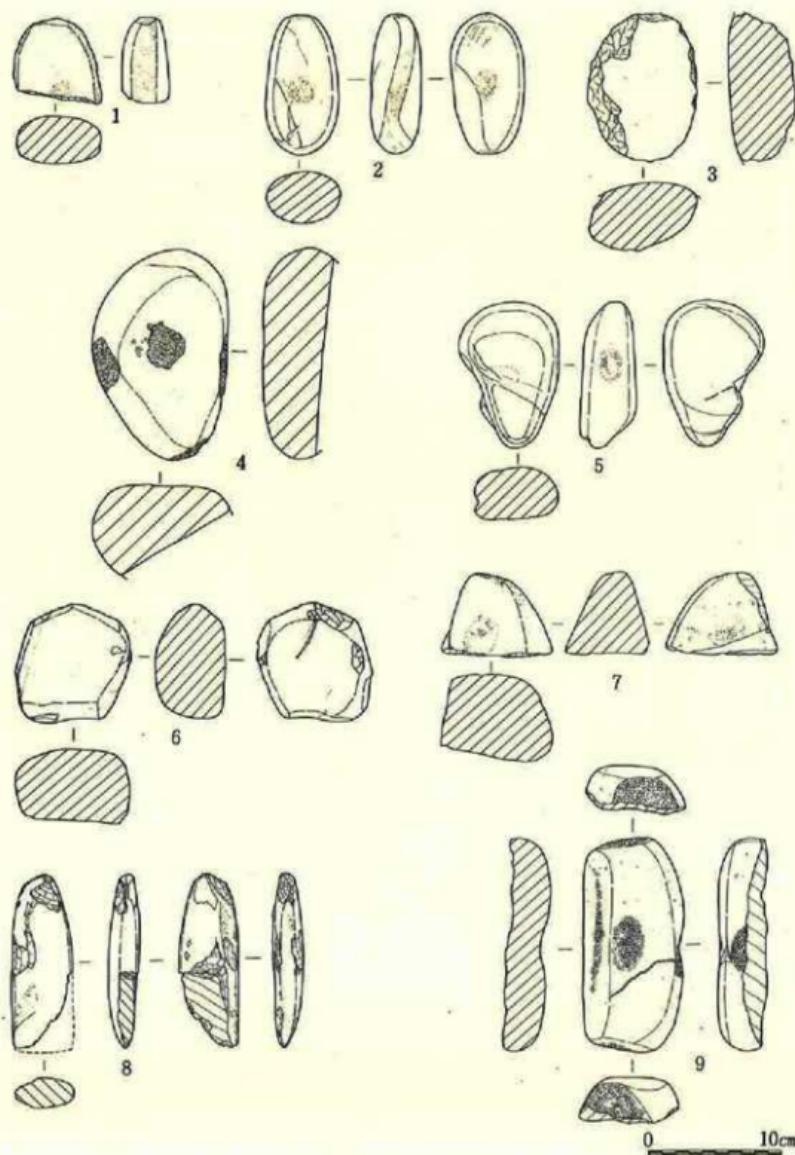
第30図 石 器



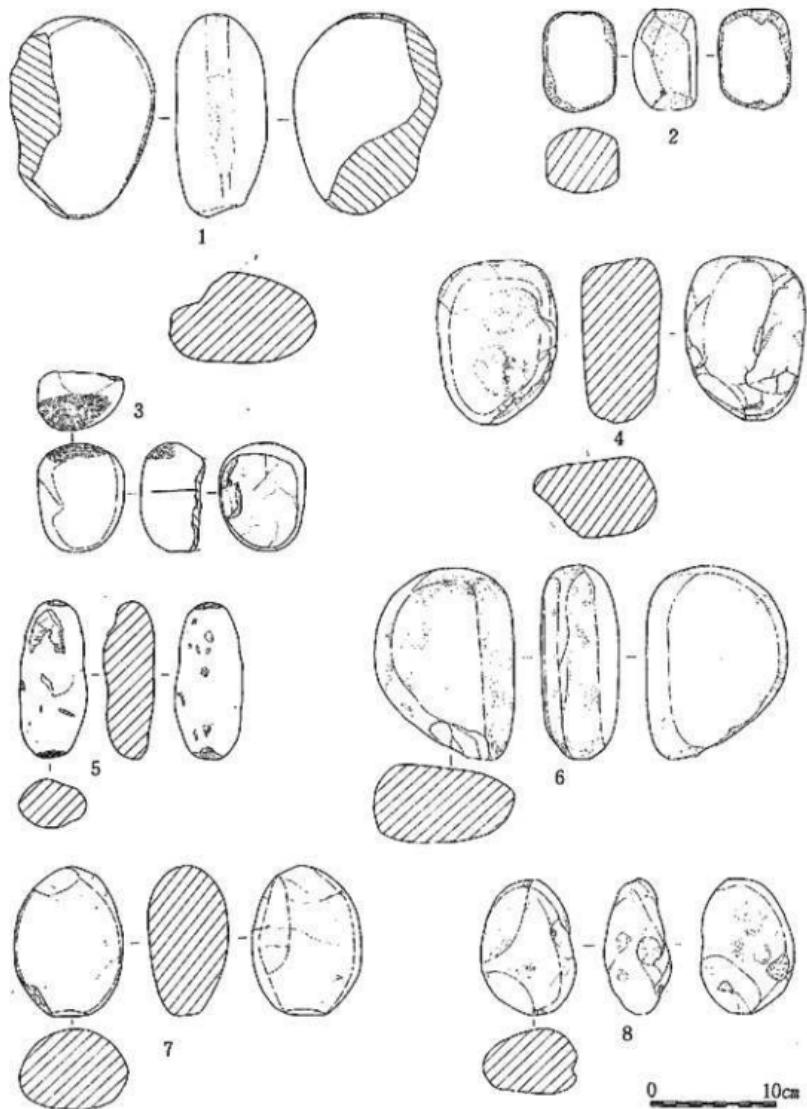
第31図 石 器



第32図 石 器



第33圖 石 器



第34図 石 器

## 伊武部貝塚

## B 自然遺物

標 目	トレンチ		B トレンチ		C トレンチ				D ト					
			II 層		表土層		被覆層(II)		III 層		IV 層		被覆層(II)	
	標 数	g	g	g	g	g	g	g	g	g	g	g	g	g
A 廃 廃														
1 バンダナツマイマイ	12	<1	6	<1	28	2	18	<1	59	22	279	98	46	<3
2 サンバルマイマイ					1	<1							257	162
3 オキナワヤマラン	5	<1			5	<1	26	14	80	45	484	263	22	10
4 フヤギセル									5	3	1	<1		
5 オキナワスカラミマイ									1	<1		1	<1	
B 淡水 壓														
a 河口泥炭														
1 カリニナ										2	<1			
b 河口岩場													2	<1
1 フネアマガイ												1	1	
2 カノコガイ					1	<1	1	<1	3	1	18	36	16	18
3 イシマキガイ							11	22	5	1	77	69	3	<1
e マングローブ廻遊													39	83
1 カバウミニナ												1	10	
2 イトカケヘタリ												3	<1	
3 シレナシジミ	8	295	5	115	2	40	7	193	5	148	17	358	26	603
C 焼 廃														
a 沿岸帶 砂・砂泥地														
1 アフスジケンガイ	7	210			7	165	8	197	29	703	46	1,268	66	1,237
2 スダレハマグリ							2	26	4	46	4	21	5	90
3 イソハマグリ	2	2			4	2	12	31	9	10	146	349	12	22
4 ナシノコソス											27	66		
b 海岸帶 岩場・岩礁地														
5 オオベッコウカサ	△	-1					1	3	2	1	6	66	10	127
6 コウダカカラマツ										2	<1			
7 キバアマガイ														
8 オオマルカマオブネ	2	85										2	63	
9 オゴシマカミモリ												98	24	
10 ハグライモガイ														
11 ニセマガイ	3	24			4	11	5	98	33	54	265	672	13	340
12 コイワニシ							2	<1	1	<1	17	22		
13 レイングマシモドキ										1	<1	2	1	
14 ヒダガイの一體										1	<1	1	<1	
c 屋根帶														
15 イシダタミ	1	1					1	<1	2	<1	23	13	5	13
16 カンボク					1	<1	1	1			11	29	7	27
17 コシダカアマガイ										4	1		9	10
18 アマオブネ	3	4	7	111	7	6	25	44	45	98	246	823	263	209
19 ハシキアマオブネ	1	3					2	22	1	<1	33	45	2	1
d 被覆層下 砂・砂泥地												17	189	
20 オオウラヅ	1	9					1	20	1	20		2	46	2
21 ハクガタカニモリ												1	3	
22 ハメトウガタカニモリ												△	1	
23 コニノツノガイ							1	5			4	8	1	2
24 オルソラノガイ	32	709	3	67	12	255	15	352	20	498	66	1,487	83	1,810
25 スイカウガイ					△	29			3	69		7	219	
26 ハガキガイ	104	1,946	13	213	134	1,166	78	1,692	254	4,792	511	8,756	614	10,644
27 ハグリガイ											2	<1		
28 ウラスジイノシテガイ														
29 イボシテガイ			1	1					1	30	2	10		
30 ベニシテガイ														
31 タモガイ	14	3,463	1	225	7	1,182	10	1,732	23	1,639	27	4,863	65	9,514
											24	4,703	9	1,628

## 1次貝類集計

W層	レントチ				エトレンチ						エトレンチ		不明		合計			
	第1号土壌 集計		石板集計 集計	第2号土壌 集計	I層	後层(II)		II層		III層		I層	II層					
	g	g	g	g	g	g	g	g	g	g	g	g	g	g	g			
5	2	300	180	117	31	4	1	10	<1	5	<1	1	<1	5	<1	15	<1 1,187 500	
		△	<1						3	2			1	2	1	6	5	
2	1	1,013	610	170	203	6	<1	5	<1	1	8	3	<1	2	<1	31	1,662	
		2	<1	1	<1			1	1			1				2	<2	
																11	4	
																	4 <3	
																	1 1	
		31	40	55	55					1	<1			1	<1	6	5 178 178	
		30	37	3	1									1	2	189 215		
																	2 12	
1	15	1	<1	2	<1			8	381	19	503	3	97	3	68	1	30	
																8	227 132 3,539	
2	33	9	122	5	32	2	38	27	479	32	559	2	112	3	41	2	20	
		1	5					4	40	4	42					11	274 179 6,077	
		53	114	66	132	1	<1			20	50	1	<1	2	<1	2	20 29 327	
		3	<1	3	<1			2	2							9	20 778 35 68	
		1	4	1	8	2	11	11	249	8	85	△	4	1	20	3	15	
																2	18 84 686	
																	2 <1	
		1	<1	3	1			1	1	△	35						9 182	
		5	<1	7	<1												110 24	
		4	10	6	15	4	15	19	27	2	61	△	<1	10	212	1	130	
		9	<1	6	<1											15	50 352 1,818	
		11	<1	5	<1												18 <4	
																	38 23	
																	2 <3	
		36	11	24	19				4	2	1	<1	3	<1			1 1 101 51	
		5	2	7	5	2	8	1	10	2	5		1	2			1 1 44 105	
		2	<1	9	<1												24 11	
		8	23	173	293	119	139	9	12	8	11	36	108	1	<1	10	10 2 2	
		2	6	4	10	△	1	2	17	3	1			6	19	99 98 1,518 2,519		
																2	3 75 318	
																	11 257	
																	1 3	
																	9 22	
13	298	12	315	2	87	3	51	31	1,165	33	1,290	3	117	9	273	7	222	
		1	132						9	253	2	63	1	47			22	897 369 10,302
		151	2,444	73	1,142	43	825	236	4,641	247	4,588	84	1,627	12	1,688	31	668	
																3	127 28 1,004	
																	140 2,578 3,467 59,760	
																	3 <2	
8	465	5	1,271	3	766	4	345	47	6,041	50	6,078	6	1,015	33	4,630	10	1,729	
																18 3,030 354 61,299		

トレンチ 目 数	B ト レンチ		C ト レンチ						D ト									
	Ⅱ 層		Ⅲ 層		表土層		深風層(Ⅳ)		Ⅱ 層		Ⅲ 層		深風層(Ⅳ)		Ⅱ 層		Ⅲ 層	
	g	g	g	g	g	g	g	g	g	g	g	g	g	g	g	g	g	g
32 オイジガイ	2	570			△ 160				1 405	2 569	△ 78	1 500						
33 ホウシュノタマ				1 <1					2 <1	1 <1	1 <1							
34 リスガイ									1	1								
35 トミガイ									4 10									
36 シロヘソニアコトニガイ								2 5	1 <1	4 1	4 2							
37 ヒメオリイレムシロ									5 2		15 12							
38 サツマビナ																		
39 ヒメチョウセンツヅギ																		
40 トラフクダマキガイ																		
41 ハルシャガイ	1 18								1 20		1 15							
42 アンボンクロサメ	28 3,067	4 360	14 1,304	21 1,449	50 5,540	63 5,462	110 10,356	32 4,507	5 984									
43 クロメダクモ	1 22			3 625	1 251				1 10	△ 10								
44 クロミナシ	△ 20	1 20		△ 10	1 5	1 11	△ 252	△ 20	△ 10									
45 ミカドミナシ	1 35		2 55						4 266	△ 15								
46 ナガラサミナシ									1 50		△ 18							
47 カバミナシ																		
48 オトメイモ																		
49 ニシキミシ	△ 20			4 250	4 163	5 249	△ 146											
50 タガヤサンミナシガイ				△ 10	△ 36	2 96												
51 アンボイナ	△ 35	1 6	△ <1															
52 ベニタケガイ																		
53 ケケノコガイ	△ 20																	
54 ナツメガイ																		
55 リュウキュウサルボウ	6 370		1 45	2 841	11 373	5 257	8 263	2 100										
56 タキガイ									1 90									
57 カワラガイ	1 30	1 36	2 43	3 70	8 144	7 130	7 135	1 25										
58 リュウキュウザルガイ						1 8	1 31	1 <1	2 12									
59 ショゴウ	3 1,964	1 620	1 435	1 680	6 4,057	26 2,001	8 6,743	3 1,562	1 1,147									
60 スノメガイ	2 116		2 23	9 243	12 413	7 109	17 507	5 257										
61 ヒメアリ	2 1		1 <1	7 25	3 6	17 39	2 <1											
62 カノコサリ									2 <1									
63 リュウキュウバカラガイ									3 45	1 20								
64 リュウキュウマヌカ	2 41	2 7	6 64	4 45	6 52	23 141	7 75	13 102										
65 サメザリ																		
66 セイゾキザ	1 20		△ 25	1 22	2 40				1 30	1 35								
67 リュウキュウシラトリ			1 <1		1 1				2 4	1 <1								
68 キツリガ科											△ 3							
69 オリイレコツイ科の一種																		
70 *																		
● 露開帯下 岩壁・岩場																		
71 マブチゴ																		
72 ニシキウズ	2 128		1 80	1 44	5 107	13 380	7 548	12 472	2 102									
73 タココガイ	4 35	2 6	2 4	5 8	5 6	17 30	3 13	8 13	1 1									
74 ムカシモセト				1 1		1 <1			6 3	6 3								
75 ハナキルユキ							4 15	△ 1	3 25									
76 コモングカラ			△ 21						△ 30									
77 クチムラサキダカラ																		
78 ホシダカラ	5 520		1 105	4 135	4 351	8 512	7 582	8 390	6 494									
79 キネボウ																		
80 1ワカドボラ									1 5							△ 5		
81 オオニシ									△ 10	△ 40						△ 10		
82 クチムラサキサンゴキリ									1 <1									
83 ヒメシロ																		
84 カスカリマベコウガイ	15 1,407	5 350	4 825	3 275	10 1,204	24 1,546	20 2,729	9 1,800	△ 194									
85 イトマキボラ	3 272		1 20				2 192	4 210	1 10									
86 ナガイトマキボラ																		
87 コオニコブシ																		

レ ン チ						E ト レ ン チ						F ト レ ン チ			不 明		合 計	
IV 種	第1号土壌 量 G	石数集石 量 G	第2号土壌 量 G	I 層	成孔層(II)	II 層	III 層	I 層	II 層	III 層	I 層	II 層	III 層	不 明				
	g	g	g	g	g	g	g	g	g	g	g	g	g	g				
1 55	11 5 7 <1 1 1		1 510											1 473	9 3,250			
														24 8				
														1 1				
														9 12				
														8 16				
														37 14				
														1 2				
														2 44				
														1 <1				
														2 <2				
														5 70				
△ 55	26 2,035 7 516 3 455	62 7,821	59 5,772	15 1,595	51 4,055									18 1,762	570 57,074			
														8 978				
														△ 37 4	705			
														1 105	13 626			
														1 90				
														2 85				
														15 2,224				
														4 242				
														1 38				
														4 62				
														1 10				
														2 61				
														2 <1				
														4 213	66 4,059			
														1 90				
3 49	1 2		5 143 2 34					3 40	2 20					3 40	49 943			
			2 30											7 81				
2 980	△ 279 2 4,345	11 5,936	2 3,740	2 1,132	2 1,097									4 1,086	75 38,903			
3 125	2 63 1 25	26 1,322	10 404	1 33	6 190	4 238								3 224	111 34229			
1 1														1 1	36 76			
														2 <1				
														10 119				
4 30	1 15		8 95 2 12	1 15	2 23									9 46	91 766			
1 15														5 148				
														1 33	7 205			
														7 13				
														1 12				
104 26	62 10													4 <1	290 85			
57 16	66 15		2 <1											176 116				
														4 <1	290 85			
														1 2 6 92				
6 180	1 <1 2 29 3 160	7 387	9 854	4 143	5 417	△ 5								1 2 6 92				
5 4	6 23 1 1	1 39	3 22		2 2									6 211 85 4,085				
1 <1	1 <1													6 36 72 239				
3 <1			1 1 1 3					1 9						10 4				
								1 3						13 58				
1 15									1 3					1 54				
2 186			11 1,007	4 239	2 94	31 526	2 225							2 39				
1 <1														1 <1				
														1 10				
														△ 60				
														1 <1				
2 110	17 4 <1	1 68 △ 15	21 2,066	7 565	2 496	3 520	3 580							1 3 1 3				
4 400	1													74 49				
2 155			1 62	1 49										9 1,011 142 16,267				
△ 15			1 30	1 50										△ 15 11 1,073				
														2 58 12 533				

月	トレンチ 数 総体積	Bトレンチ		Cトレンチ						Dト			
		Ⅱ層	Ⅲ層	表土層	粗疊層(Ⅳ)	Ⅱ層	Ⅲ層	Ⅳ層	Ⅴ層	Ⅵ層	Ⅶ層	Ⅷ層	Ⅸ層
		g	g	g	g	g	g	g	g	g	g	g	g
88	コツダライモガイ												
89	ヤナギシボリイモ												
90	イボシマイモ												
91	キヌカツギ	1	30	1	1	1	40	15	69	11	28	73	305
92	スガイ	6	41	1	1	2	10	15	69	11	28	73	16
93	ゾメワケダリ												
94	メンガイ	26	2,095	7	345	4	230	9	746	23	1,704	48	2,178
95	トマヤガイ												
96	ヒメチャコ	4	396	1	90	3	262	14	1,450	5	482	2	234
97	シラナミ	56	3,440	5	9,576	27	7,832	28	7,050	84	20,277	83	37,987
98	リカラキツハヘビガイ												
b	通開部下(リーフ分)砂地												
99	ゴホウラ												
100	タクダガイ												
c	通開部下(リーフ分)泥炭												
101	ムラモキウズ												
102	ギンテカハツ	3	571	1	92	2	419	1	170	7	904	5	496
103	ベニシリダカ	17	1,669	△	10	4	890	2	320	5	493	4	850
104	サラサキバタイ	77	29,230	11	3,735	22	6,347	31	6,109	125	29,600	179	39,667
105	チョウセンサザエ	95	4,543	7	926	158	2,338	69	3,223	75	3,585	263	9,683
106	チョウセンサザエのフタ	1	10	4	40	47	205	12	71	32	255	232	1,487
107	ヤコウガイ												
108	ヤコウガイのフタ	1	110		1	35				△	100	72	166
109	コシダカサギエ												
110	カタペラミシ									1	1	3	0
111	アツキクスズメ												
112	セキシングカラ	1	12							△	10	2	82
113	ホラガイ	3	179	2	(5)					△	215	1	185
114	ホソスジアツボナ					1	32						
115	フメレイン					1	25	1	10		2	35	1
116	キムタライガレイシガイ												
117	アカイガレイシガイ												
118	ガンゼキボラ	1	3										
119	キヌヨウバイ												
120	チトセボラ												
121	アラケベニマキ												
122	オニコブシ									△	20		
123	ツボイセ										△	20	△
124	オオタカノハ	1	8							2	40	3	39
125	クロチョウガイ	1	1							1	28	1	55
126	チサラガイ										1	1	78
127	シャコガキ									1	10	△	30
128	ゲイトウガイ					1	20			2	20	1	115
129	ヒレジャコ	7	5,285	△	248	3	2,584	4	2,730	4	2,456	6	7,490
130	ククリボラの種										1	1	2
b	種不明(発育地不明)												
ソテガイ科		△	30										
タカラガイ科				△	10								
イセガイ科		△	20										
ショコガイ科		△	30										
忍貝	3	70	1	10									
二枚貝	1	10											
合計	581	68,232	93	7,345	529	27,345	498	31,205	1,136	80,993	3,673	132,371	2,213
											2,164	2,996	10,381
											312	27,395	

凡例 ハ記号 種類略欠損のため横体数に入れないもの。  
カ記号 1字に満たないもの。

## 伊武部貝塚

目 層 数	トレンチ	41~49グリット				50~61						
		I 層		II 層 (擾乱)	II 層		I 層		II 層	II 層 20~30cm	II 層 30~50cm	II 層 40~60cm
		個数	重量g	g	g	g	g	g	g	g	g	
A 陸産												
1 バンダナマイマル	5	<4			1 <1	5 <1	3 <1	8 <1	9 <1	17	5	
2 ヤンバルマイマイ						1 <1						
3 シリマリマイ	2	◇	△	<1	1 <1	4 <1		6	5	△	5	
4 オキナワヤマタニシ	13	<2			5 <1	4 <1	3 <1	1 <1	6	5	3 <1	
5 ツヤギセル									5	2	<1	
6 オキナワウサカワマイマイ	2	<2				1 <1			3 <1			
7 アフリカマイマイ												
B 流水底												
1 河口泥底												
2 カワニナ												
3 アミミカワニナ												
4 河口岩場												
5 フネアマガイ												
6 カノコガイ	1	<1	6 <1						1 <1	△	5	
7 イシマキガイ												
マングローブ泥底												
8 キバウミニナ												
9 イトカケヘナタリ												
10 センニンガイ												
11 シレナシジミ	7	240	1 50	1 55	9 230	3 75	4 85	19 795	6	135		
C 海産												
a 潮間帯 砂・砂泥地												
1 アラスジケマンガイ	1	20	1 10	1 20	12 255	7 95	13 245	11 235	7	125		
2 スダレハマグリ	1	15			6 50	4 60		△ 5	3	25		
3 イソハマグリ	2	<1	1 <1	2 <1	16 50	2 5		15 4	<1	8	13	
4 ナミコマスオ	3	<2			3 5	1 <1	4					
b 潮間帯 岩礁・岩礁地												
5 クルマガサ						1 <1						
6 オオベッコウガサ	10	195	2 25	3 25	6 125	3 120	1 30	21 235	14	120		
7 コウダカラマツ												
8 キバアマガイ												
9 オオマルアマオブネ						2 <1			3 130	2	60	
10 クワノミカニモリ												
11 カヤノミカニモリ												
12 オオシマカニモリ												
13 ウネレインガイダマン												
14 ハナビラダカラ									1 <1			

## (二次)貝類集計

グリット						62~90トレンチ		100グリット以北		5~12グリット		合計				
II層 60~70cm		II層 70~80cm		II層 80~90cm		II層 90~110cm		第3石組		I層	II層	表土	IV層			
	g		g		g		g		g	g	g	g	g	g	g	
7	<1	8	<1	4	<1	4	<1			3	<1			74	5	
1	<1	5	15	1	<1					1	10			9	25	
△	<1									3	<1			19	10	
6	<1	3	<1	3	<1	1	<1			3	<1			50	5	
										1	<1			7	<5	
										1	<1			1	<1	
1	5									2	<1			11	10	
		1	5													
7	225			5	175	5	205			13	<1	31	915	1	40	
														112	3,225	
3	40	8	155							2	20	12	170	3	20	
		1	10							2	15	5	50		22	
3	<1	4	5	3	<1						5	10			54	98
														7	5	
1	80	22	207	△	<1	9	50	4	40	2	10	10	60		1	
														109	<2	
1	<1	3	<1	1	<1					1	10	1	<1	1	5	
														14	200	
										△	<1			1	<2	

目	トレンチ 層 数	41~49 グリット				50 ~ 61					
		I 層	II 層 (標準)	II 層	I 层	II 層	II 層 20~30cm	II 层 30~50cm	II 层 40~60cm		
		標本数	重量g	g	g	g	g	g	g		
15	フシダカキイロダカラ						△	<1			
16	ノシガイ	1	<1								
17	アツムシロ	2	<2	1 <1							
18	アグライモガイ										
19	サヤガタイモ	△	<1								
20	ニセマガキ	△	<2			△ 20					
21	オハグロガキ	4	70	△ 10		7 80			△ 5	39	200
22	コイワニシ									27	115
23	コウシレイシダマシ										
24	レイシダマシモドキ										
25	ヒザラガイの一種	1	<1								
e 潮間帯											
26	イシダタミ	1	<1		3 <1	1 <1				4 <1	1 <1
27	カンギク	3	10			3 10	2	5		5 10	3 10
28	コシダカアマガイ										
29	アマオブネ	11	16	1 <1	1 <1	45 125	18 25	5 5	50 115	78 168	
30	ニシキアマオブネ	3	<2		△ <1	9 30		1 <1	12 25	3 15	
d 潮間帯下 砂・砂泥地											
31	オオウラウズ	3	40		△ 15	1 10				3 30	
32	トウガタカニモリ										
33	ヒメトウガタカニモリ										
34	ヨコワカニモリ								1 5		
35	オニノツノガイ	14	405	10 200	5 140	34 740	7 135	13 290	42 1,295	23 505	
36	コオニノツノガイ	1	<1			1 <1					
37	アガキガイ	218	5,285	33 680	91 1,930	292 5,645	137 2,860	642 12,295	1,698 31,590	1,078 18,880	
38	スイショウガイ	1	40		3 95	9 240	1 20	1 55			1 20
39	オハグロガイ										
40	ネジマガキ	2	10	1 10					1 5		
41	ヒダトリガイ										
42	ウラスジマイソソデガイ										
43	ベニソソデガイ										
44	イボソソデガイ	2	130		1 30	3 235	2 35		3 75	1 <1	
45	スイジガイ	△	980	△ 245	2 630	7 1,705	△ 60	1 320	2 760	△ 50	
46	クモガイ	39	7,445	5 670	23 4,050	47 7,485	10 1,540	16 2,125	62 12,705	28 3,770	
47	リスガイ	2	30	2 10		1 <1			2 10		
48	トミガイ										
49	シロヘソアキトミガイ										
50	ウズラガイ										
51	オリイレムシロ	1	<1								
52	ヒメオリイレムシロ										
53	ヒメヨウバイ	1	<1								

グリット										62~90トレンチ			100グリット以北		5~12グリット		合計		
II 層 60~70cm		II 層 70~80cm		II 層 80~90cm		II 層 90~110cm		第3石組		I 級		II 層		表 土		IV 層			
	g		g		g		g		g		g		g		g		g		
1	<1															△	<1		
1	15															1	<1		
2	20	6	40	1	20	1	<1			1	<1	12	45				1	<1	
2	<1	1	<1	1	<1	1	<1									1	<1		
4	5	5	20	1	5											16	<10		
48	95	53	280	11	10	4	10	1	<1	4	10	39	80	△	<1	369	919		
5	15	10	25	4	<1					3	10	9	20	△	<1	2	<1	61	140
			2	40												9	135		
			1	5												1	5		
19	270	49	970	12	275	12	245	1	30	2	50	15	320	4	125	1	40	263	6,035
		1	<1									3	<1				6	<4	
94	1,615	140	2,420	110	2,090	80	1,850			90	1,830	307	5,735	36	725	5	135	5,051	95,565
		1	<1													7	50		
		2	<1													3	5		
10	2,665	16	6,235	25	4,115	11	3,162	△	10	17	2,745	49	7,010	20	2,700	9	560	387	68,992
3	10	1	15													19	95		
		5	5													5	5		
																2	80		
																1	<2		
																3	<3		

具	種類数	トレンチ	41 ~ 49 グリット				50 ~ 61			
			I 層	II 層 (混乱)	II 层	I 层	II 层	II 层 20~30 cm	II 层 30~50 cm	II 层 40~60 cm
			個体数	重量 g	g	g	g	g	g	g
54	サツマビナ	1	<1							
55	ハマヅタガイ								2	<1
56	ハイイロミノムシ									
57	ヒメチョウセンフデガイ									
58	トラフクダマキガイ		1	5						
59	ジャジクグダマキ					1 <1				
60	ヒトスジツノクダマキ									
61	ハルシャガイ									
62	アンボンクロザメ	24	4,060	△ 135	△ 740	15 3,285	△ 245	2 685	9 2,965	14 1,435
63	クロザメモドキ	△	30	1 35	△ 10	1 50				
64	クロフモドキ	19	2,120	△ 355	△ 285	3 1,455	3 390	1 445	2 1,645	△ 435
65	クロミナシ					△ 25	△ 10		2 120	△ 105
66	ミカドミナシ	1	100		△ 40	△ 30			△ 20	
67	コモンイモ								1 10	
68	ゴマフイモ							1 20		
69	アカシマミナシ	1	160		△ 45	1 10		1 90	1 50	△ 20
70	サラサモドキ									
71	ナガサラサミナシ									
72	ヤセイモ				1 20			2 60	0 65	
73	カバミナシ									
74	ロウソクガイ	△	30	1 25		△ 35			△ 5	
75	オトメイモ	2	90	△ 10	1 85	2 305			1 120	
76	ニシキミナシ	△	5			△ 35	△ 10	2 85	2 140	△ 75
77	ヒラマキイモ	1	10							
78	ロウソクイモ	△	10							
79	タガヤサンミナシガイ			1 5	△ 10	△ 20			△ 25	△ 15
80	アンボイナ	1	180						△ <1	△ 5
81	ヒモカケセコバイ						1 5			
82	ベニタケガイ									
83	タケトコガイ	2	20		2 95	2 35				
84	リュウキュウタケ	2	105							
85	キバタケ									
86	ナツメガイ			1 10				1 5		
87	リュウキュウサルボウ	30	2,170	6 265	14 870	15 790	1 40	3 160	10 345	3 140
88	ミノガイ									
89	ウラキツキガイ	1	5						1 10	
90	ツキガイ									
91	クチベニツキガイ									
92	カワラガイ	6	180	3 50	2 55	3 95	1 5		6 150	2 20
93	リュウキュウサルガイ	3	5			1 10	1 <1	2 20	1 5	
94	ショウウ	12	13,160	2 505	2 1,790	5 4,955	1 185	1 310	11 8,233	2 380

グリット						62~90トレンチ			100グリット ト以北		5~12 グリット		合計	
II 60~70cm	II 70~80cm	II 80~90cm	II 90~110cm	第3石組	I 層	II 層	表土	N 層						
g	g	g	g	g	g	g	g	g	g	g	g	g	g	g
		1 5											2 5	
													2 <1	
				1 <1									1 5	
													1 <1	
													1 <1	
1	595	7 1,600	4 1,480	1 440	△ 20	5 830	15 1,807	2 440					99 20,762	
△	290	3 1,030	1 685	1 445	△ 25	△ 180	4 700	2 110					3 215	
1	20	△ 110	△ 60		△ 10	4 25	△ 15						39 10,595	
1	10	△ 10				△ 10							7 500	
													2 220	
													1 10	
		△ 35	△ 40										2 115	
													4 520	
													1 15	
				△ <1									4 155	
													△ <1	
		△ 20	△ 50	1 45			3 640	1 45					5 800	
		△ 70	1 15	1 45	1 47	2 35	1 25						7 815	
			2 40		△ 10	△ 10	△ 10						10 587	
													3 70	
													△ 10	
				1 5			1 20						2 95	
													2 190	
													1 5	
		1 30					1 5	1 10					10 220	
													2 105	
△	5												2 20	
1	20	2 75	1 65	3 100			5 340	27 980	20 875	22 730	163 7,965			
		1 10						△ <1					3 25	
1	40	1 10	3 65	4 50			1 40	23 445	6 145	13 285	76 1,620			
1	10		1 <1	2 10			1 5	3 20	4 25	1 5	21 115			
2	535	1 1,500	2 3,455	4 1,705			3 1,720	11 4,505	7 5,305	3 335	69 48,578			

種 名 目	個体数	トレンチ 41~49 グリット				50 ~ 61											
		I 痛		II 痛 (標準)		I 痛		II 痛		II 痛 20~30 cm		II 痛 30~50 cm					
		g	g	g	g	g	g	g	g	g	g	g	g				
95	スメガイ	49	2,170	4	165	14	520	11	525	2	60	3	140	8	275	4	85
96	アラメノメ																
97	ヒメアサリ	1	<1					1	<1	1	<1			6	10	1	<1
98	カノコアサリ																
99	スリガハマ																
100	マルオミナエシ																
101	ウスハマグリ																
102	アツシラエガイ																
103	リュウキュウバカガイ					△	5							1	43	1	15
104	マヌガイ																
105	リュウキュウマスオ	6	80			4	35	5	50	2	5	1	35	21	255	2	25
106	サメザラ	1	<1			1	5	1	10	1	20			1	20		
107	モチヅキザラ							1	25								
108	リュウキュウシラトリ	2	<1														
109	ヒメニッコウガイ																
110	ヤツシロガイ科																
111	オリイレコフマイ科の一種																
112	"																
潮間帯下 岩礁・岩礁																	
113	マアナゴ	2	15	1	15			1	10			2	20	3	70	2	15
114	ニシキウズ	10	175	△	25	△	25	6	200	△	45	6	215	14	585	2	150
115	ムカシタモト																
116	ウキダカラ																
117	カモンドカラ																
118	ハナハルユキ							1	5					1	15	1	5
119	コモンダカラ																
120	ホシキヌタ																
121	クチムラサキダカラ																
122	ホシダカラ	7	850			△	95	2	425	1	155	1	145	2	410	2	340
123	シオボラ							2	5						△	5	
124	ミツカドボラ	1	5					1	30								
125	オキニシ							△	25	1	5						
126	シロレイシガイダマシ																
127	クチムラサキサンゴダリ																
128	ヒメムシロ																
129	カスリシマベッコウバイ																
130	イトマキボラ	29	3,405	△	85	13	1,000	23	2,715	5	480	5	685	22	3,730	6	400
131	ナガイトマキボラ	3	325			△	130	2	200	1	40			8	300	△	10
132	コオニコブシ	7	290			1	30	2	105					△	55		
133	クロイトマキハラブ																
134	トシャジク																
	コマダイライガイ																

グリット							62~90レンチ			100グリット以北		5~12グリット		合計			
II 磨 60~70cm		II 磨 70~80cm		II 磨 80~90cm		II 磨 90~110cm		第3石組	I 磨	II 磨	表 土	N 土					
	g		g		g		g		g	g	g	g	g	g			
	4	155	2	96	1	96			8	240	43	1,865	11	405			
	1	<1								9	10		2	110	2		
										1	<1		1	<1			
										1	<1		1	<1			
	1	5			1	<1				9	88	12	155	4	40	29	
5	40	1	5	2	30	1	10		3	35	16	215	9	110	1	20	
	1	5								1	15	3	80			9	
1	40									△	10	△	10			3	
		△	5							1	10	1	35			2	
																10	
1	<1	1	<1						1	30	1	<1					245
2	25	2	205	2	85	3	60	1	10		3	125	2	65	16	205	2,200
	1	<1												1	<1		
△	10	2	260	1	190	△	100	△	10	2	190	3	370	1	140		24
	2	5														60	
1	<1															35	
		1	5													90	
		1	<1													<1	
7	475	2	<1	1	<1					△	5					5	
	9	890	2	185						9	1,150	13	1,875	7	690	1	105
	1	135	1	150	△	20				1	135	2	155	1	40		151
	2	40									3	66		15	290	30	17,870
																1,640	
																875	

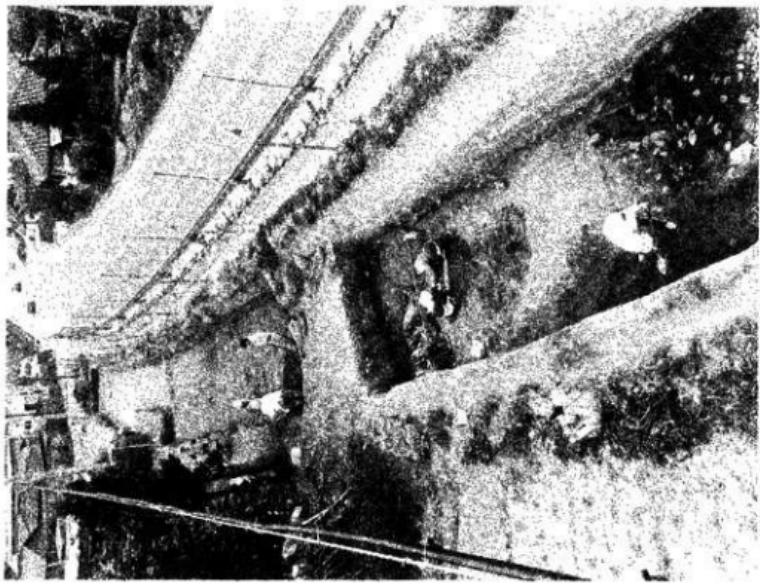
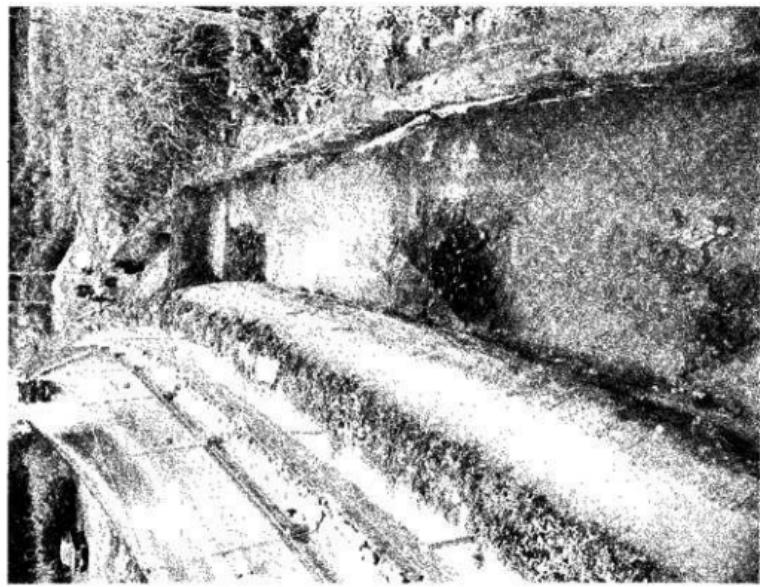
目 番 数	トレンチ 番 号	41~49 グリット				50 ~ 61					
		I 层	II 层 (擾乱)	II 层	I 层	II 层	II 层 20~30cm	II 层 30~50cm	II 层 40~60cm	I 层	II 层
		個体数	重量g	g	g	g	g	g	g	g	g
135	アラレイモ										
136	ヤナギシボリイモ	2	85			1	35				
137	サラサミナシ									△	20
138	イボシマイモ									1	<1
139	キメカツギ	1	20	△	5	2	35	△	15	1	10
140	エガイ	6	<2	1	5	1	5	18	95	10	60
141	フネガイ									9	40
142	ソメワケグリ									51	300
143	リュウキュウヒビリガイ					13	<1			21	105
144	シモモリアオリ									△	20
145	メンガイ	21	1,615	9	190	7	520	29	1,805	13	920
146	トマヤガイ									17	950
147	シラナミ	61	18,680	62	455	14	2,425	74	27,435	17	5,880
148	ヒメジャコ	26	2,770	2	60	18	900	13	1,255	△	30
149	リュウキュウヘビガイ									1	310
150	カキの一種									14	2,685
151	ウミギクの一種									6	1,185
f	潮間帯下(リーフ外)砂地										
152	アツソデ										
153	ゴホウラ	6	4510		1	250				△	185
154	ラクダガイ									1	60
155	スクミウズラ				1	5				△	10
156	ショクコウラ	1	40							△	10
157	ダイミロウイモ	△	50			△	40			△	15
158	フミガイ										
g	潮間帯下(リーフ外)岩礁										
159	ムラサキウズ	△	<1			2	70	△	<1		
160	ギンタカハマ	3	455	1	210	3	320	11	1,275	1	80
161	ベニシリダカ									9	925
162	サラサバティ	153	32,960	18	4,615	95	11,000	251	48,920	85	19,725
163	チョウセンサザエ	45	2,795	11	530	5	440	57	31,85	58	1,425
164	チョウセンサザエのフタ	5	40					25	260	13	90
165	ヤコウガイ	△	450			△	85			11	115
166	ヤコウガイのツタ	1	190			2	230	1	30	△	30
167	コシダカサザエ									1	425
168	ソメワケカタベガイ									△	15
169	カタベダマシ									2	210
170	アツキクスズメ										1
171	ウミウサギ			△	30						<1
172	ヤクシマダカラ	4	110	1	40	1	55	1	35	3	195
173	ホラガイ	1	455	2	90	1	75	2	320	1	360
								△	10	4	420
										△	135

グリット						62~90グリット			100グリット ト以北 5~12 グリット			合計	
II層 60~70cm		II層 70~80cm		II層 80~90cm		II層 90~110cm		第3石組	I層	II層	表土	IV層	
	g		g		g		g		g	g	g	g	g
									1 40	4 150			8 310
										△ 5			△ 25
										2 45			3 45
									1 10	1 25			6 120
6	25	3	15	2	5	1	15			10 45	1 5	2 20	142 740
									1 5				1 5
		△ <1								1 <1			15 <1
15	945	33	2,190	15	855				△ 50				△ 70
									8 560	22 1,280	8 370	17 675	337 21,575
57	14,880	77	29,400	70	29,495	76	28,350	2	330	33 13,420	87 28,885	19 6980	6 745 864 30,850
3	40	4	255	2	480	2	555			6 905	36 3,160	11 1,065	1 15 145 15,670
1	<1												1 <1
△	45												△ 45
									△ 130				11 8,310
									△ 800	△ 50			△ 835
										△ 1,360	2 1,125	1 640	
											1 10		2 15
△	50												1 40
													△ 140
6	505	2	300	8	1,060	4	330			4 310	6 495	1 110	86 9,560
											3 160		3 160
75	16,330	169	37,005			120	28,100	△	60	80 14,440	105 24,820	14 3,390	2 160 2,163 451,880
58	2,480	106	4,480	57	2,120	39	2,095	1	140	10 760	28 2,210	3 310	△ 40 757 43,784
8	65	14	145			2	10				8 75		218 1,990
△	10	△	450	△	115	1	600				△ 75	△ 10	
1	155												2 2,265
1	<1												1 <1
													△ 60
									1 <1				2 <2
△	25	1	70	1	20				1 15	3 75			△ 30
1	80			1	355	4	555			3 960	1 785	△ 225	
													16 665
													21 4,825

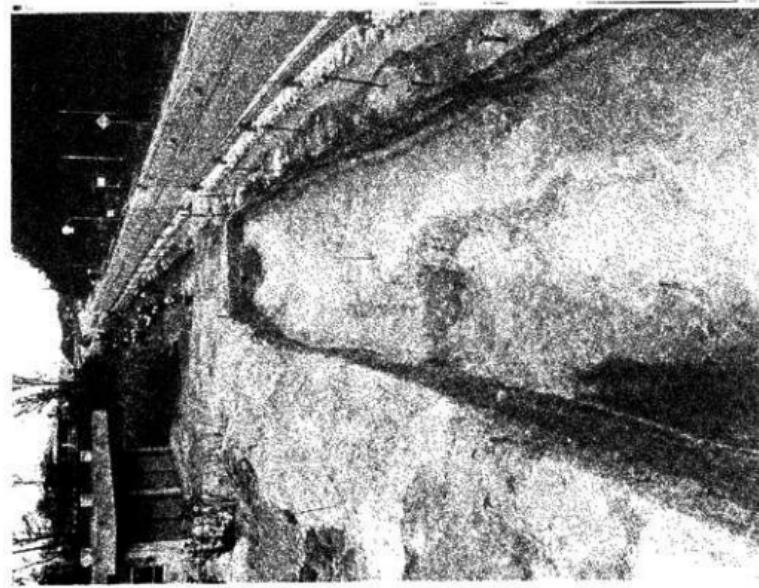
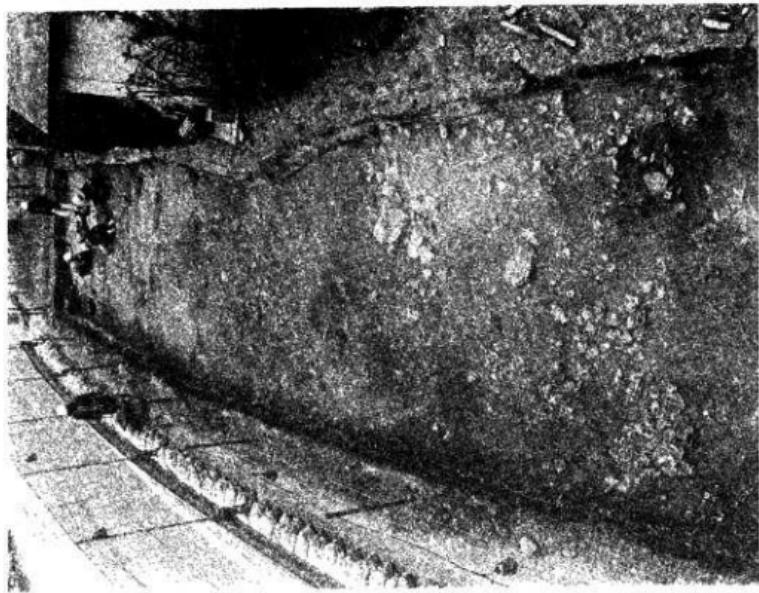
トレンチ 層 数 貝	41～49 グリット				50 ～ 61				
	I 層	II 層 (擾乱)	II 層	I 层	II 層	II 層 20～30cm	II 層 30～50cm	II 層 40～60cm	
	個体数	重量 g	g	g	g	g	g	g	
174 ホソスジツボラ				△ 5		1 40			
175 シロナルトボラ	△ 110	3 380		△ 40					
176 オオナルトボラ						1 165			
177 テングガイ	△ 220	1 20		1 190	△ 60		1 20		
178 ツノレイシ									
179 キマグライガレイシガイ									
180 アカイガレイシガイ	1 55	1 45		2 35					
181 ガンゼキボラ	3 30			1 10					
182 キヌヨウバイ									
183 チトセボラ	1 30			2 25			△ 10		
184 アラレベニマキ									
185 ツノマタモドキ									
186 オニコブシ	4 396						1 10		
187 ハナイモ									
188 ツギイモ				△ 20			△ 25	△ 20	
189 オオタカノハ				1 25					
190 ヒレインコ							1 20		
191 クロチョウガイ	1 65		1 5	5 55	1 25	1 4	10 595	4 160	
192 チサラガイ	1 <1						△ 10		
193 シャコガイ	△ 685						1 2,180		
194 ベニガキ								1 <1	
195 イシガキモドキ									
196 ケイトウガイ	1 15			3 65	2 20	1 10	1 10		
197 ヒレジャコ	17 14,060	21,070	7,3,405	16 13,680	6 2,850	4 5,355	46 37,225	16 12,250	
198 ククリボラの一種									
合 計	946	125,566	143 13,385	352 32,325	11,69 13,665	434 38,260	957 63,839	3,506 339,336	1838 117,510



図版1 一次調査区トレンチ 左 南側を望む 右 北側を望む



図版2 二次調査区トレンチ 左 北側を望む 右 南側を望む

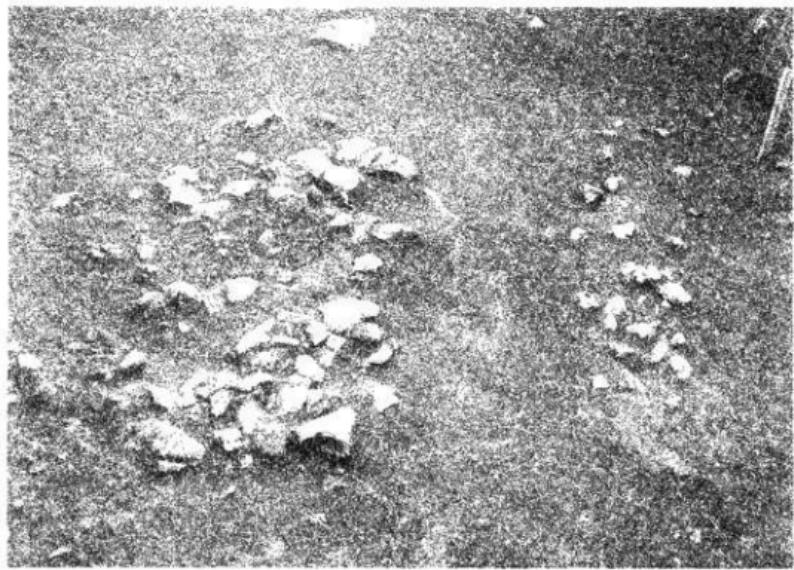




図版3 上 発掘前の二次調査区 下 Eトレンチ東壁



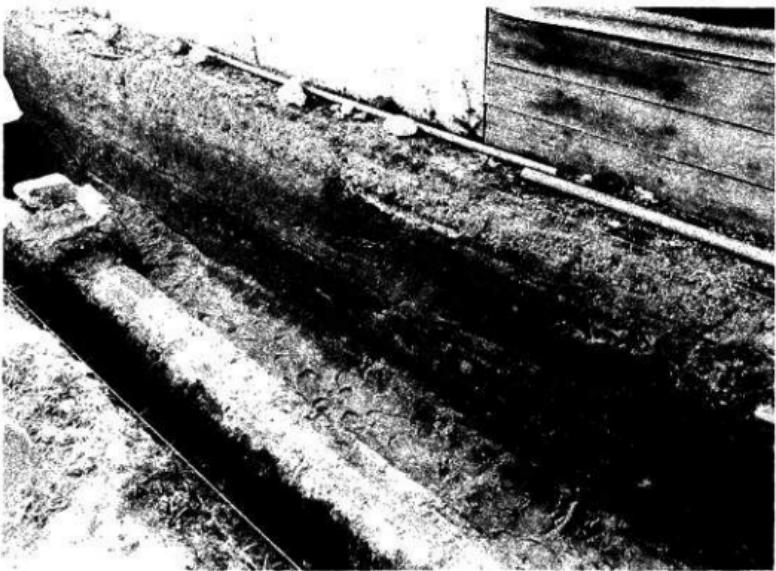
圖版 4 上 第 2 号土壤集石遺構下部 下 第 4 号土壤集石遺構



図版 5 上 石敷遺構の上部の状況 下 第3号土壤集石遺構

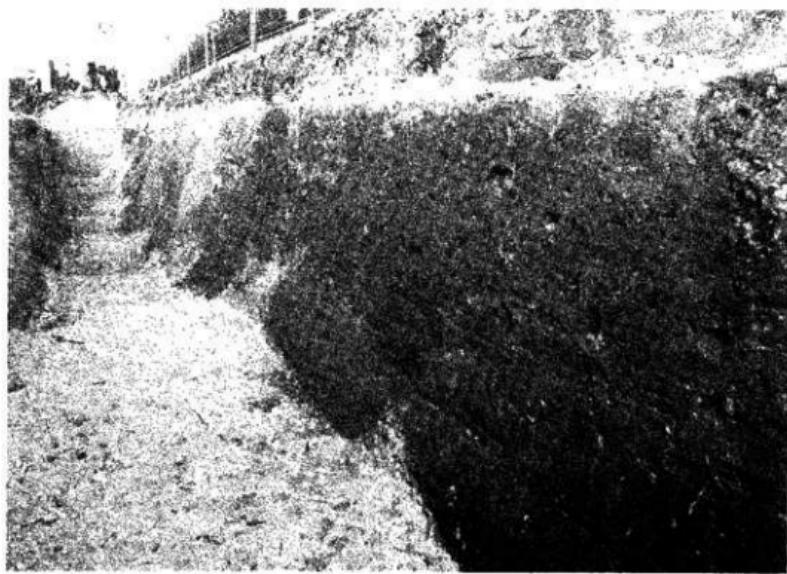
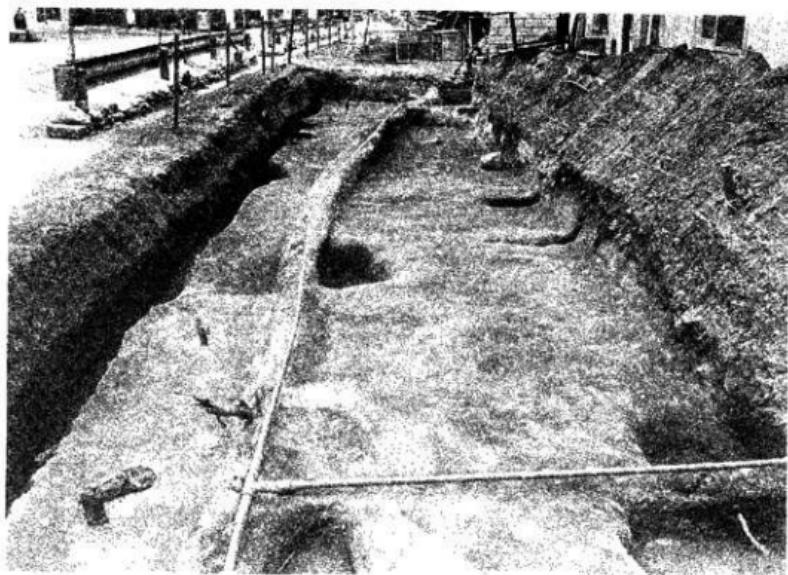


図版 6 重複する遺構（下部は石敷遺構）

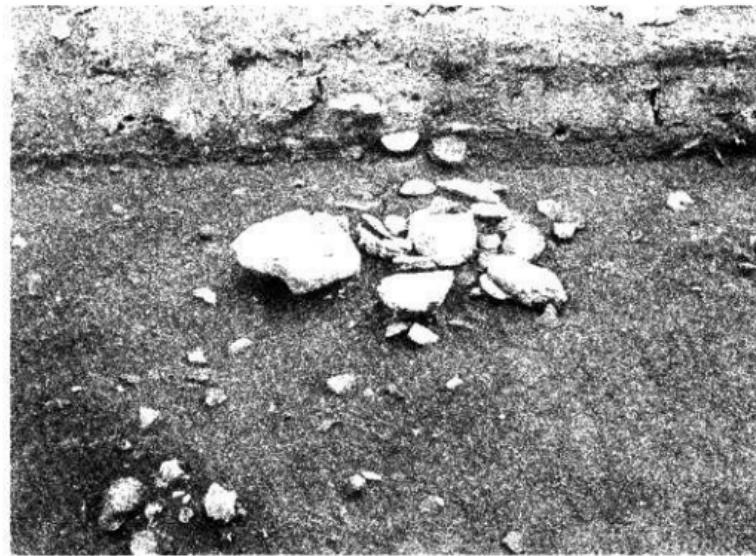


図版 7 上 61~70 Grid 西壁、搅乱の様相

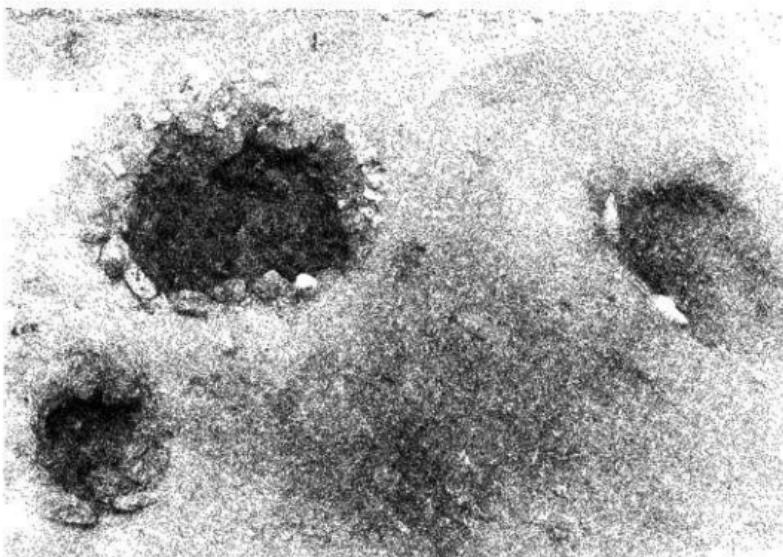
下 5~12 Grid 西壁



図版 8 上 12~50 Grid 搅乱状況 下 80~10 Grid 東壁搅乱状況



図版 9 上 51~61 Grid 出土の集石炉 下 第 5 号集石遺構



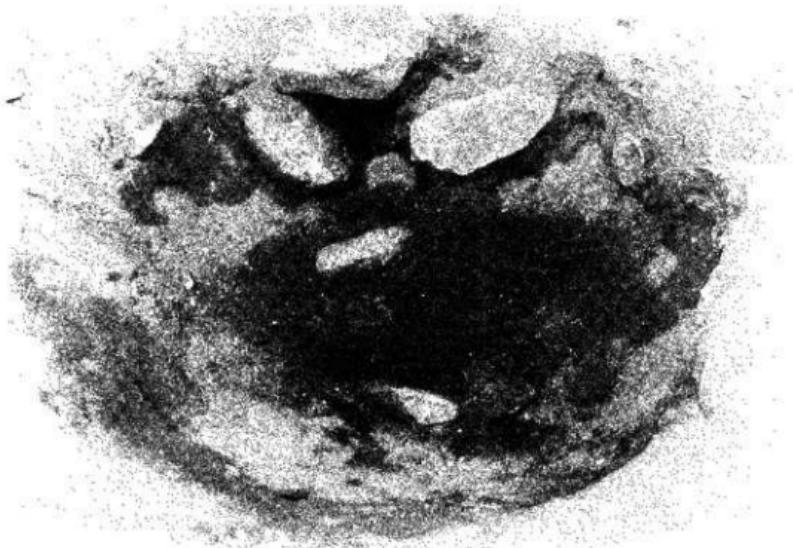
图版10 上 第1·2号集石炉发掘前 下 第1·2·3号集石炉内部检出



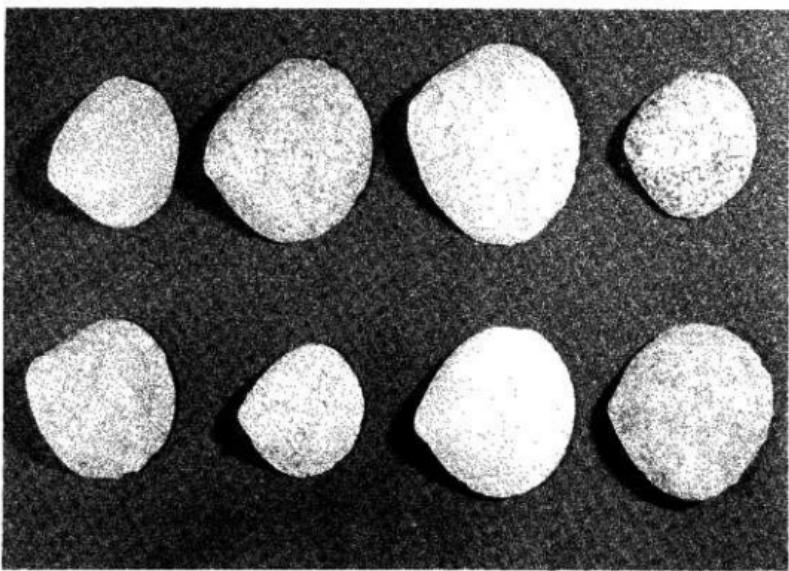
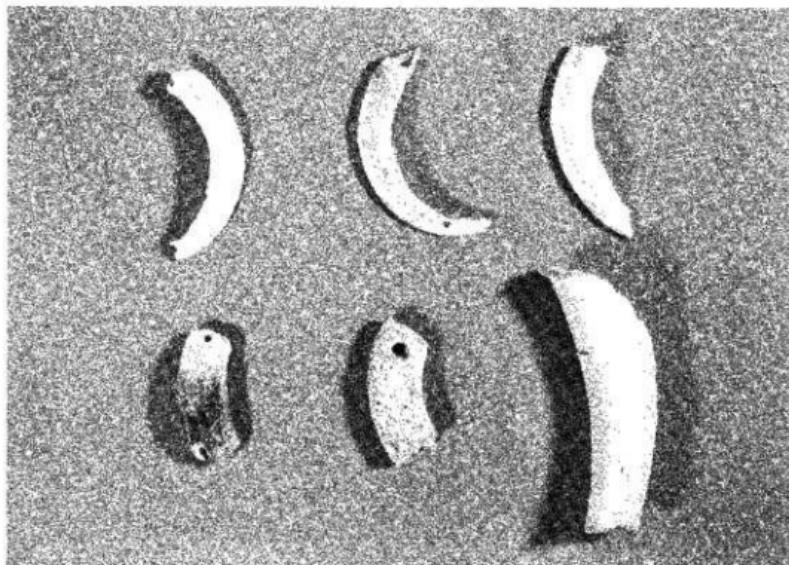
図版11 上 第1号集石炉断面 下 第1号集石炉内部状況



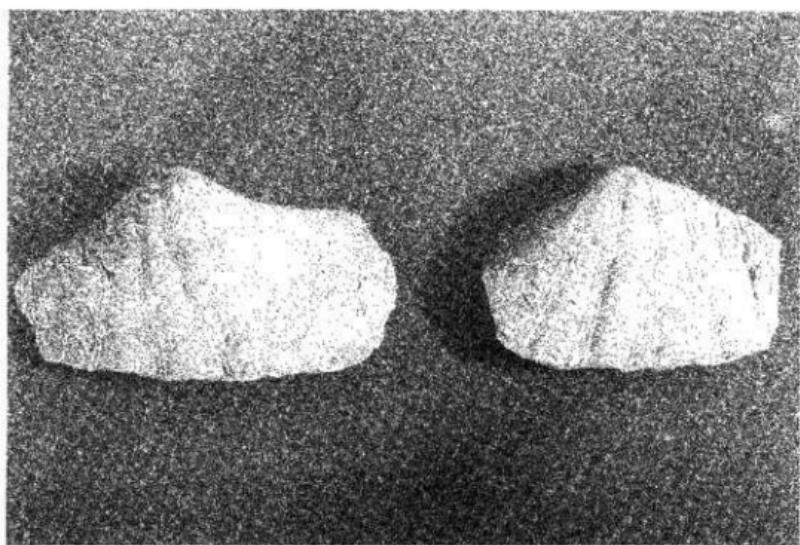
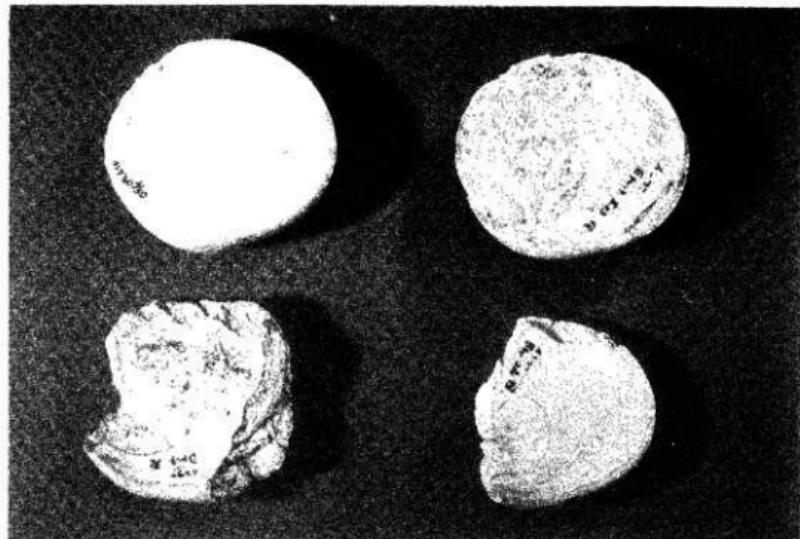
図版12 上 第2号集石炉発掘状況 下 第2号炉の基底部状況



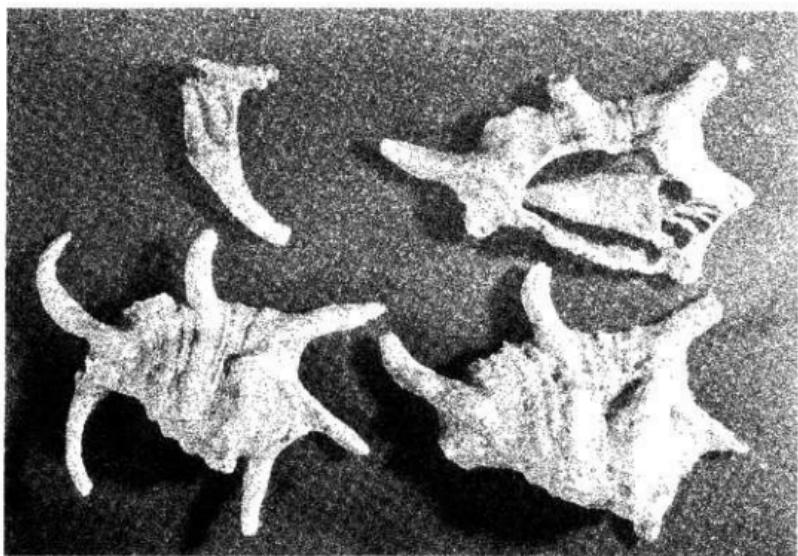
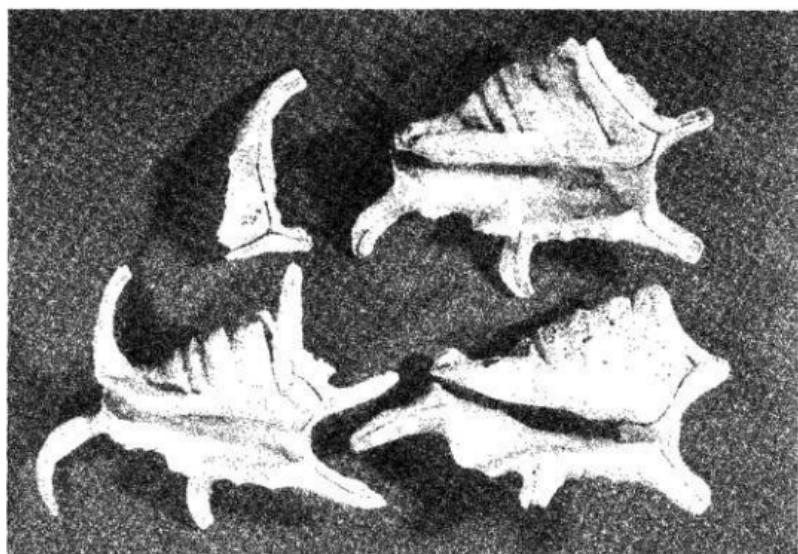
图版13 上 第3号集石炉断面 下 第3号炉基底部状况



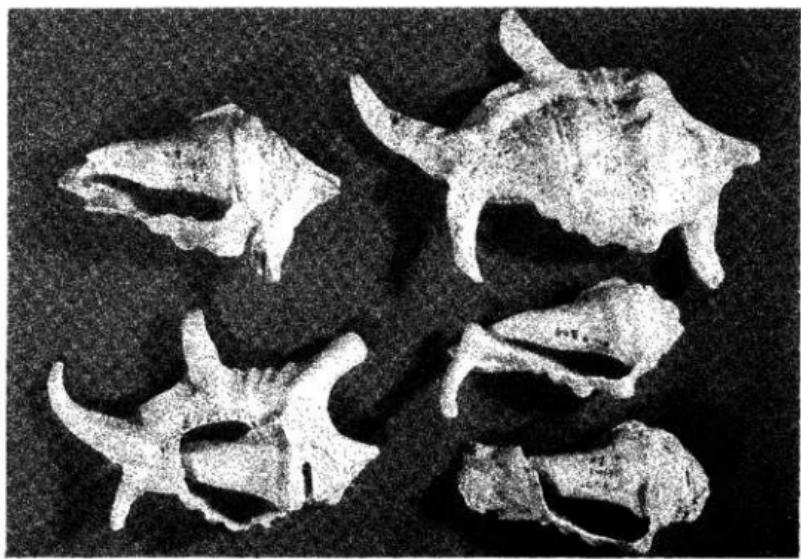
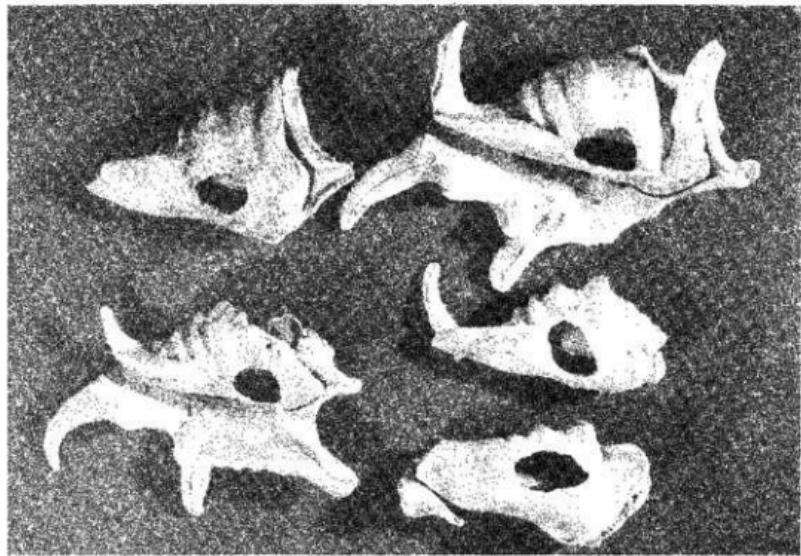
圖版14 上、骨牙製品 下、貝刃



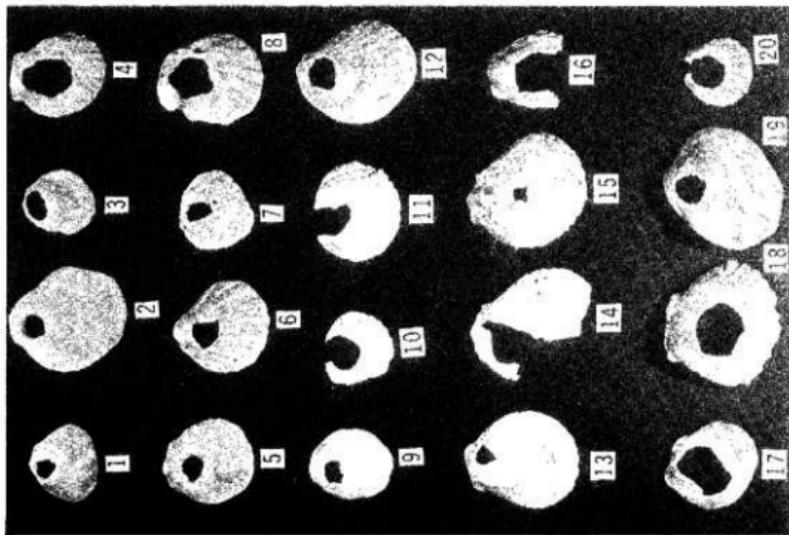
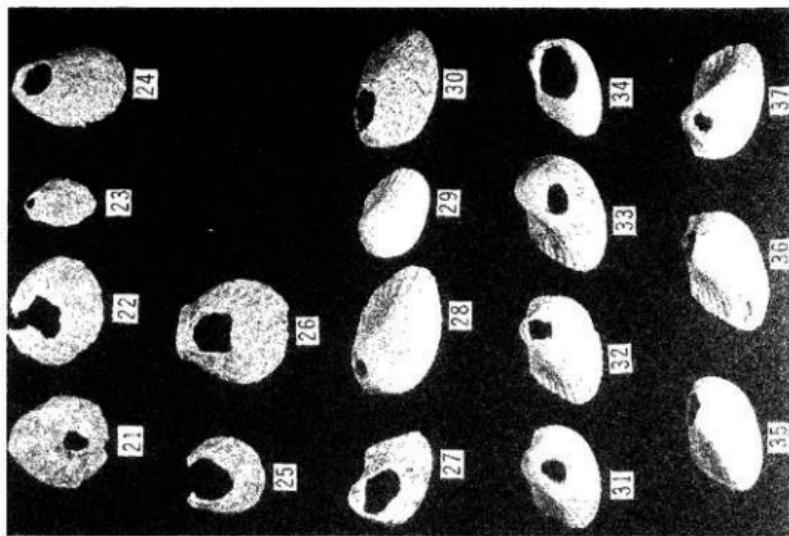
図版15 上、蝶蓋製貝斧 下、シャコガイ製搔器



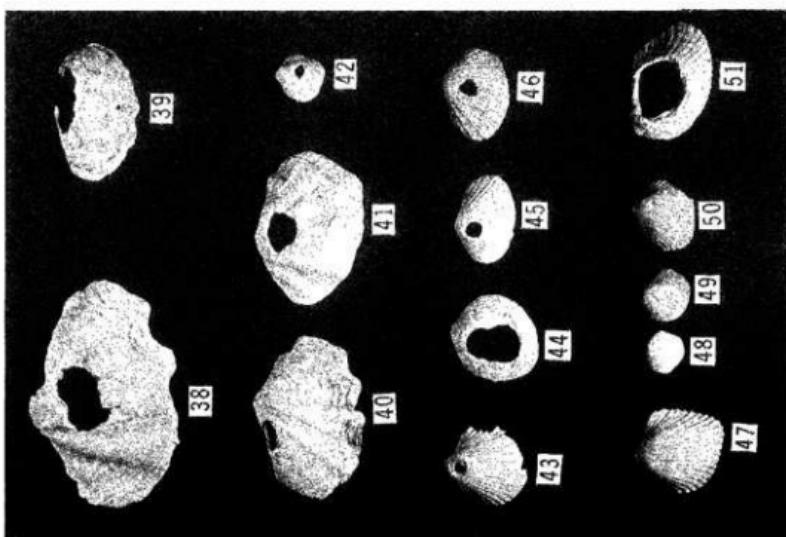
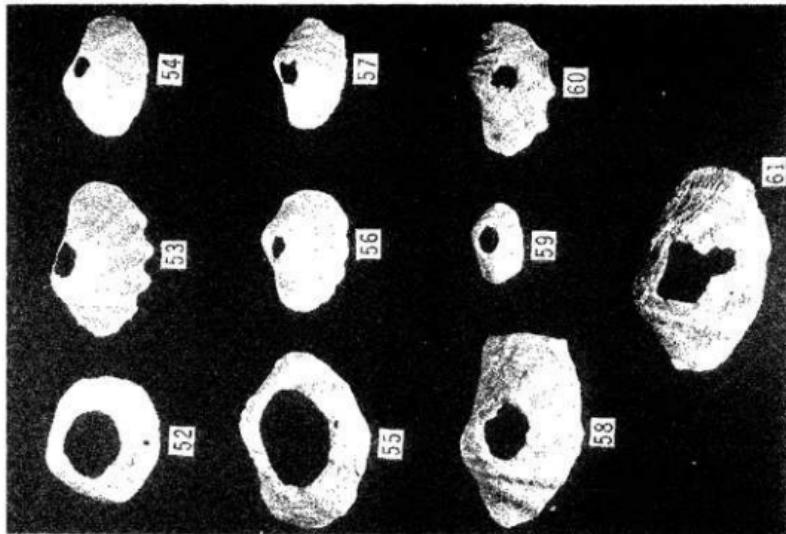
図版 16 スイジガイ製利器



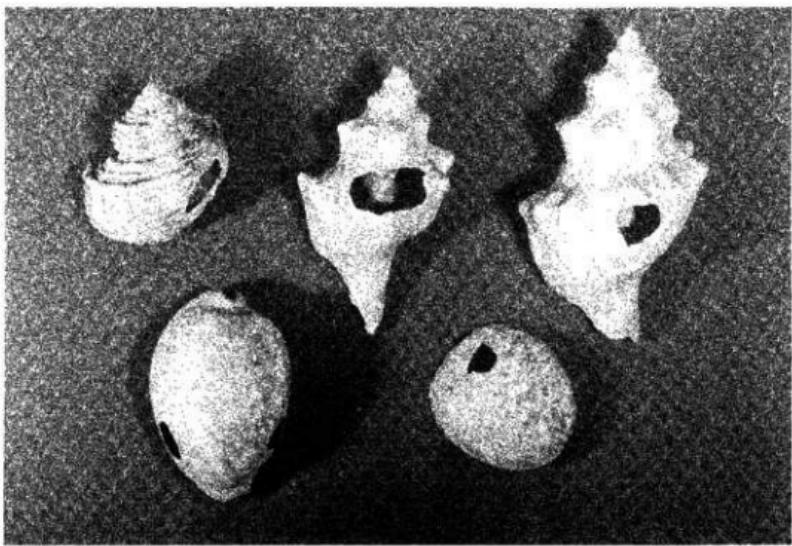
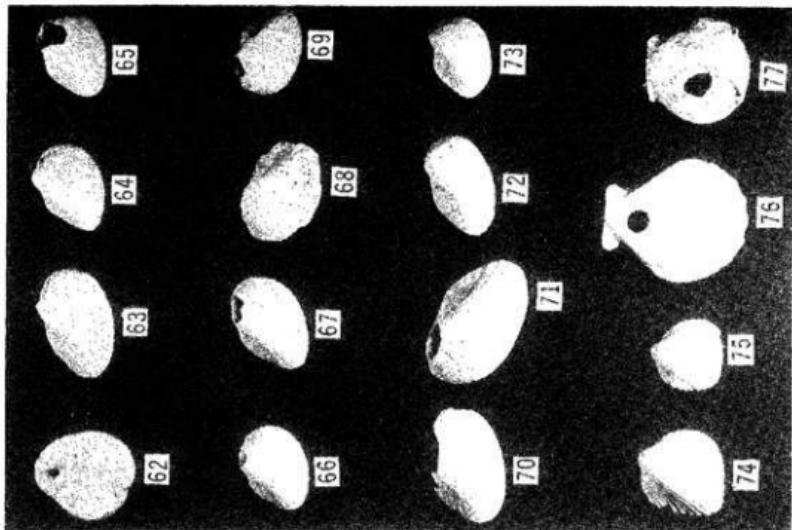
図版 17 スイジガイ製利器



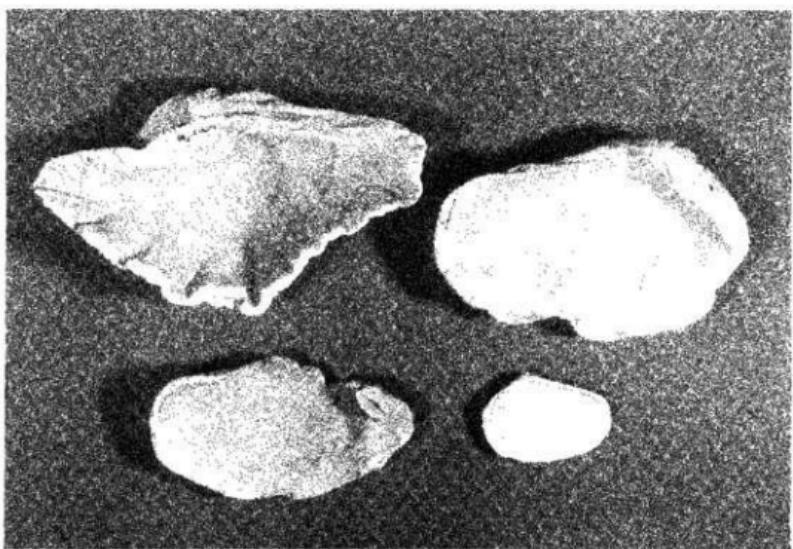
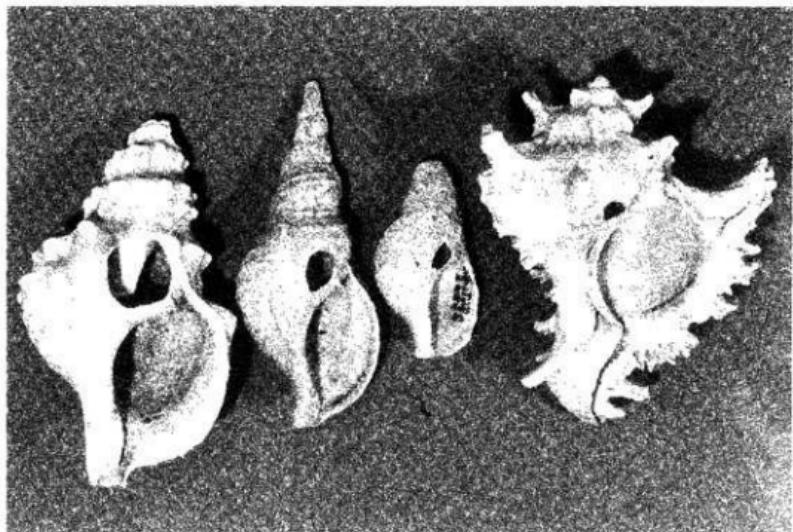
図版 18 貝製品



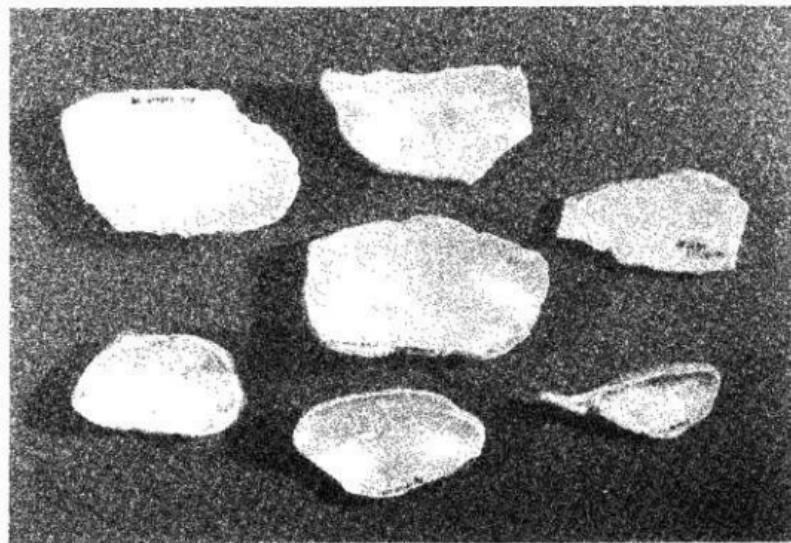
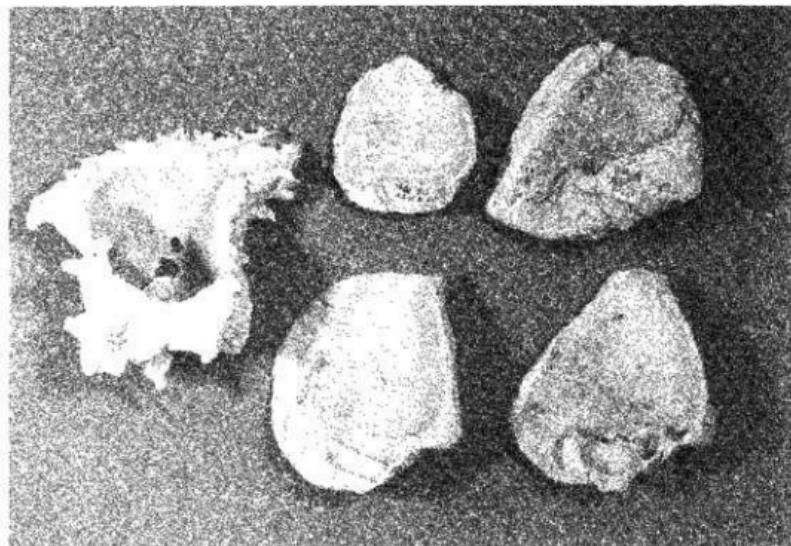
図版 19 貝製品



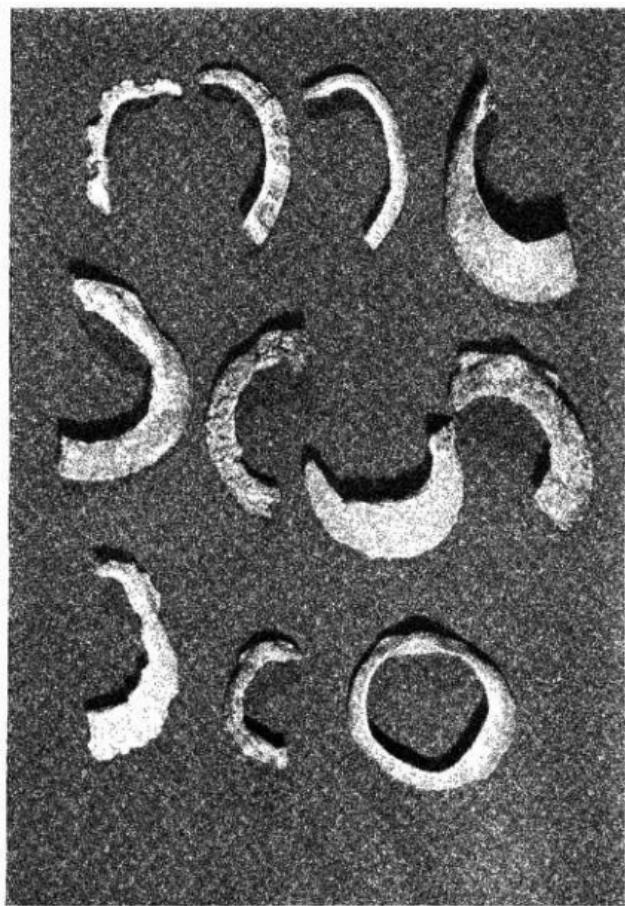
図版 20 貝製品



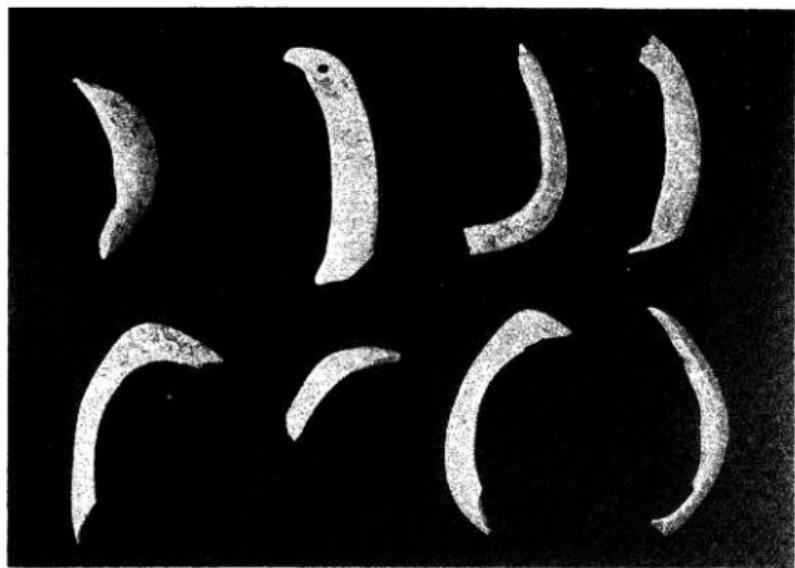
図版 21 貝製品



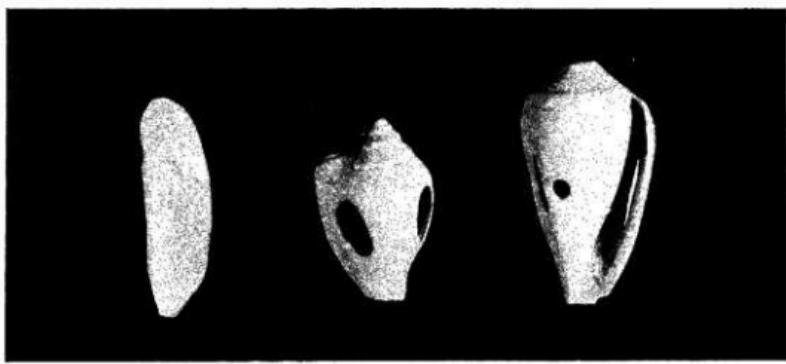
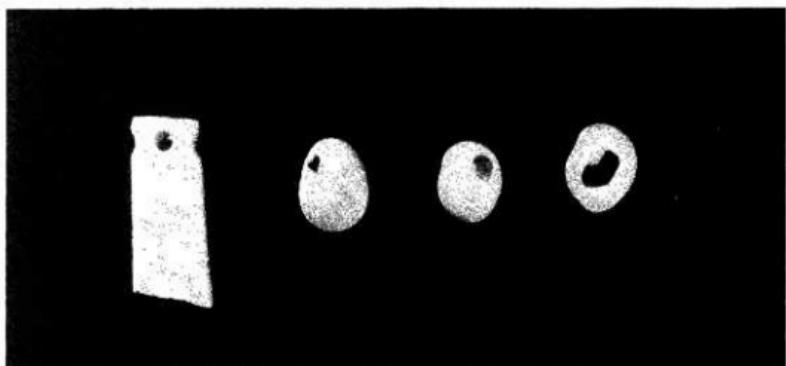
図版22 貝製品



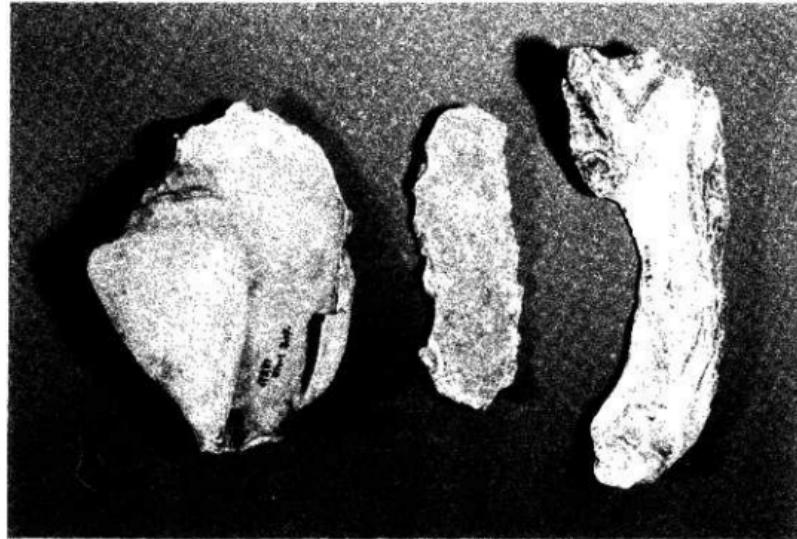
図版 23 貝 輪



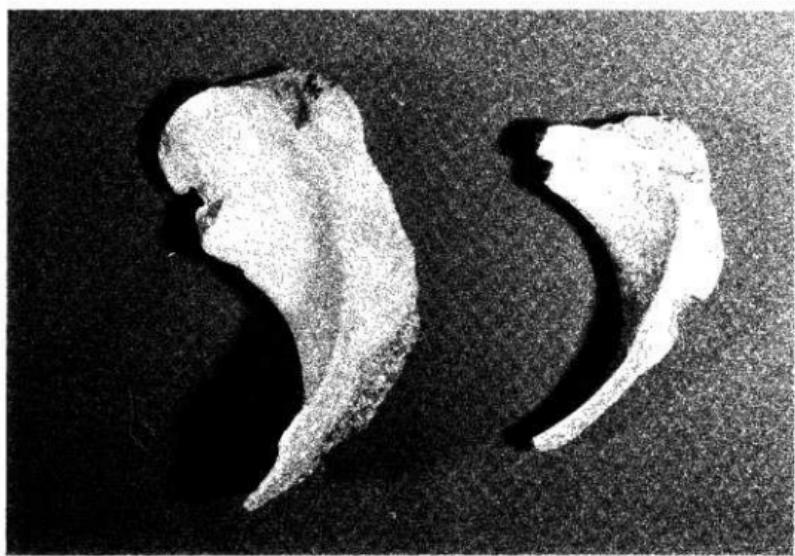
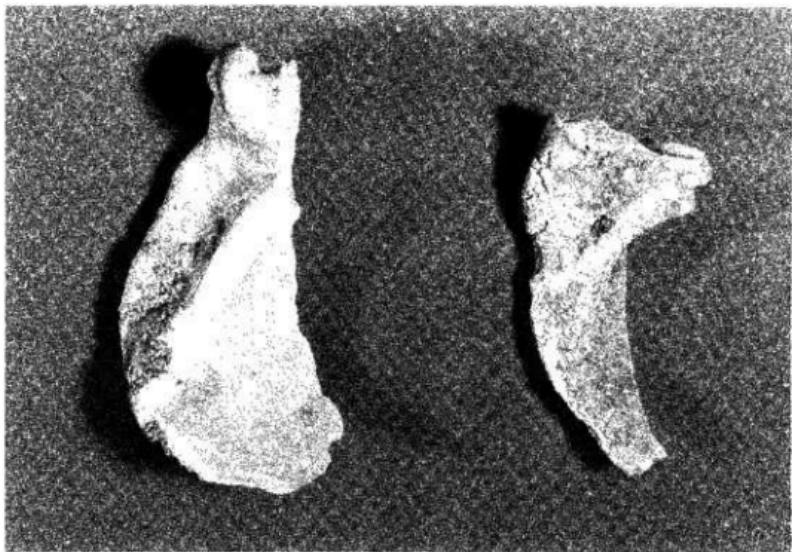
図版24 貝 輪



圖版 25 貝製品



図版 26 貝製品



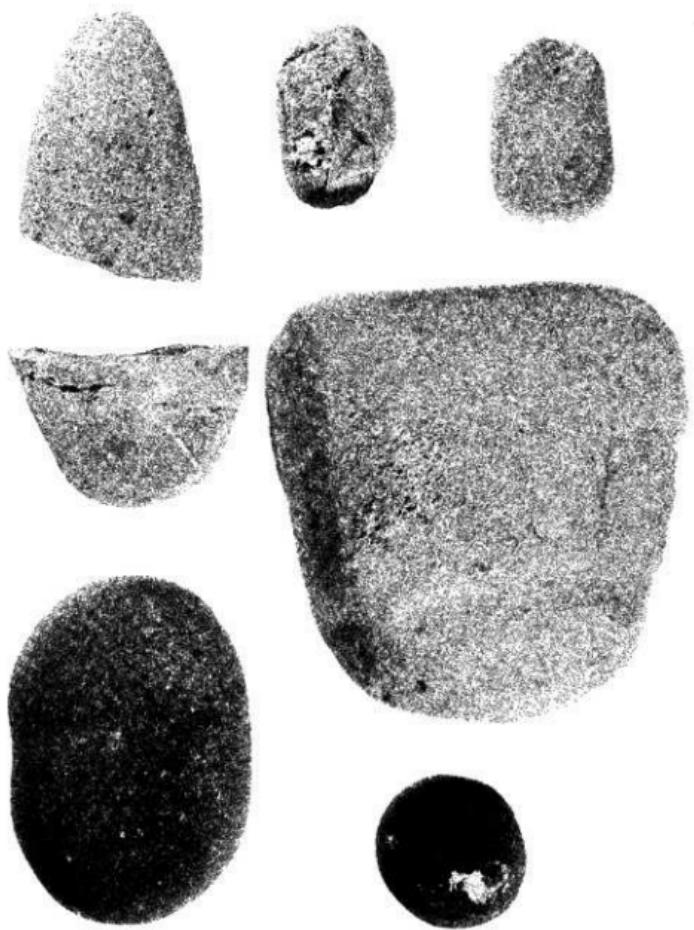
図版 27 貝製品



図版28 石 器



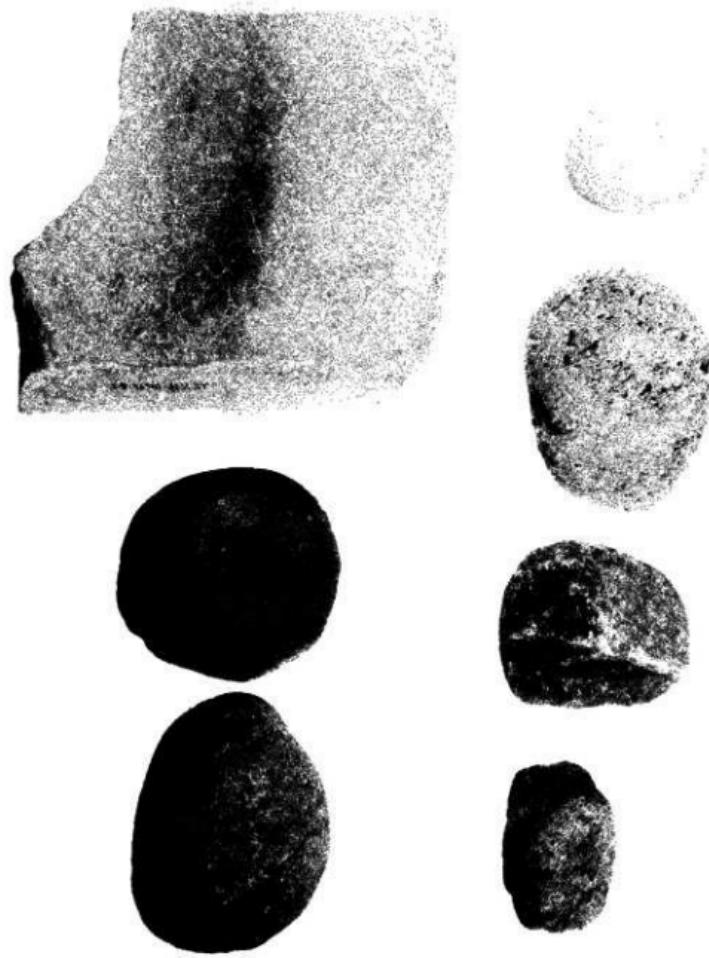
図版29 石 器



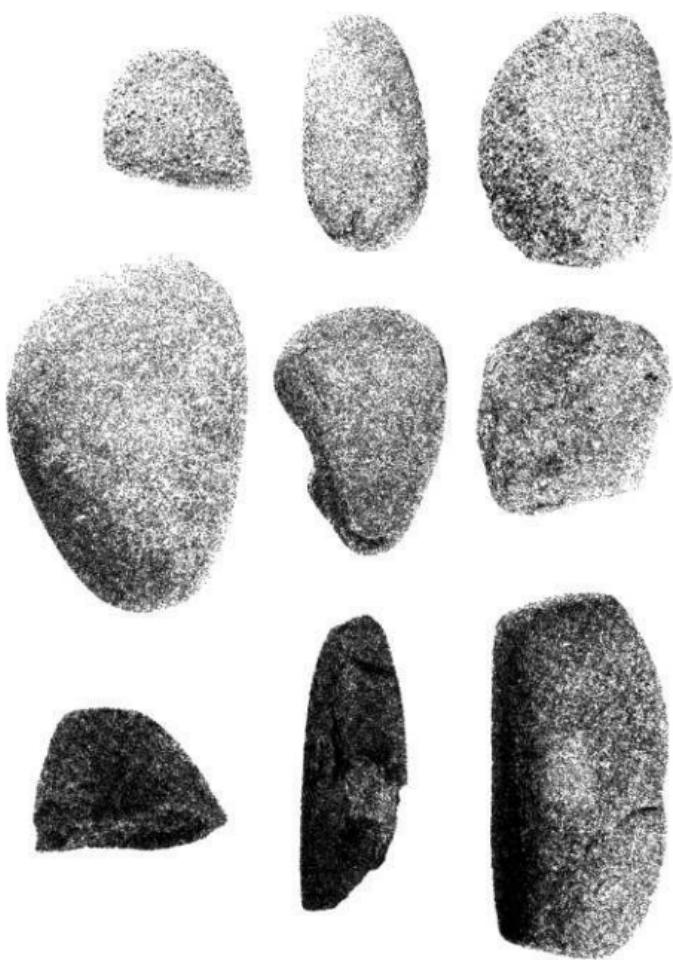
図版 30 石 器



図版 31 石 器



図版 32 石 器



図版 33 石 器



図版 34 石 器

---

---

沖縄県文化財調査報告書第51集

## 伊武部貝塚発掘調査報告書

国道58号線拡幅工事に伴う緊急発掘調査

——遺構・貝製品・石器・貝殻編——

印刷 昭和58年3月25日

発行 昭和58年3月31日

発行 沖縄県教育委員会

編集 沖縄県教育庁文化課

〒900 那覇市旭町1番地

電話 0988-66-2731

印刷 松木タイブ印刷所

那覇市久茂地2-24-11

電話 62-8125・8126

---

---

